

- 五 米国の首脳会談拒否回答
 - 六 「甲案」による交渉
 - 七 「乙案」による交渉
 - 八 「ハル・ノート」受領から開戦
- 付録 「駐米任務報告」(野村大使)
- 「来栖大使報告」
- 日本外交文書 日米交渉―一九四一年―(上・下巻) 日付索引

(以上下巻)

一 「日米諒解案」への対応

1 昭和16年1月22日 松岡(洋右)外務大臣より
在米国野村(吉三郎)大使宛

野村大使の米國赴任に際して手交された松岡
外務大臣訓令

- 一、我國策ヲ相当思ヒ切ツテ変更スルニ非サレハ米ト了解ヲ付ケ以テ太平洋上ノ和平ヲ確保シ進ンテ世界平和克服ノ為メ提携策動スル事所詮不可能也
- 二、シカモ此ノ儘ニ推移セハ或ハ逐ニ米ノ欧州参戦若クハ対日開戦ヲ見ルニ至ルナキヲ保シ難シ
- 三、若シ斯カル事トモナラハ真ニ戦慄スヘキ世界戦争トナリ其ノ惨禍前大戦ニ幾倍スヘク或ハ逐ニ現代文明ノ没落トナルヘシ
- 四、已ニ日米間直接了解提携ノ途ナシトセハ英米以外ノ国ト連結協力タトヘ之ヲ圧迫脅威シテモ其ノ対日開戦又ハ欧州参戦ヲ予防セサル可ラス是独り皇国自衛ノ為ノミナ

- ラス実ニ全人類生存ノ為ナリ
- 五、我國ヲ守ルニモ將又世界大戦ヲ防クニモ最早此ノ途ヲ取ル外ナシト断シタル為メ逐ニ日独伊同盟ヲ訂スルニ至レリ
- 六、苟モ右同盟ヲ訂シタル以上我國ノ外交ハ将来コノ同盟ヲ枢軸トシテ運用サルルコト恰モ往年日英同盟ニ於ケルカ如シ
- 七、而シテ苟モ三国同盟条約第三条ニ規定セル第三国ニ依ル攻撃發生セリト三国政府ニ於テ認メタルトキハ日本ハ当然同盟ニ忠ナルヘシ
- 此ノ点聊カノ疑ヲ存スヘカラス日本カ重大ナル決意ヲナスニ付極メテ慎重ナル廟議ヲ逐クヘキハ申迄モナイ事也
- 八、現在日本ノ支那ニ於ケル行動中動モスレハ不当不正若クハ侵略ト見ユルモノアルヘシト雖モ是一時ノ現象ニシテ我國ハ終局ニ於テ必ス日支平等互惠ノ主義ヲ実行シハ絃一字ナル鑿国以来ノ伝統的大理想ヲ如実ニスルノ日アルヘシ

九、大東亜共栄圏樹立亦実ニコノ八紘一字ノ大理念ニ因ル

モノニシテ no conquest, no oppression, no exploitation
ハ子ノ「モットー」也

要ハ国際的隣保互助ノ天地ヲ先ツ大東亜ニ造出シ以テ世
界大同ノ範ヲ垂レントスルニ在リ

十、欺カル理想ハ暫ク措キ現実卑近ノ問題トシテモ我国ハ
大東亜圏ニ自給自足ノ道ヲ講スルノ必要ニ迫ラレ居レリ
西半球ニ君臨シ更ニ大西太平洋ノ両大洋ニ延ヒツツアル
米國ヨリ見テ右日本ノ理想乃至慾望ヲ不当ナリト称シ得
ヘキ乎此位ノ事ハ日本ニ許シテ可ナルニ非サル乎我国ノ
考フル所ハ断シテ排他的ニ非ス米モ来ツテ大東亜圏ノ開
発ニ協力スヘシ其ノ要スル「ゴム」錫等ノ供給ヲ絶タ
ルヘシトスル疑懼ノ如キ笑フニ堪ヘタリ

予ノ過般日米協会ニ於ケル卓上演説及今般帝國議會ニ於ケ
ル外交演説等ニ示シタル所ト併セテ右諸点米大統領國務長
官始メ米國朝野有力者ニ徹底ヲ期セラレ度

昭和十六年一月二十二日

松岡 外相

野村特命全權大使閣下

シテモ既定国策ニ邁進スル確固不動ノ決意ヲ有スル次第
ナリ從ツテ米國カ我國民中ニ三國条約ニ関シ今猶密ニ異
論ヲ挟ム分子アリト云フカ如キ情報（無論アリ併シ何レ
ノ國ニモアル事ナリ）ニ基キ或ハ又支那事變ノ遷延ニ依
ル我國民ノ消耗ヲ過大ニ評価シテ米國ニシテ強硬態度ニ
出ツルニ於テハ容易ニ日本ノ国論ヲ分裂セシメ若クハ結
局我ヲ辟易屈伏セシメ得ヘシト觀測スルカ如キコトアラ
ハ之亦嗚フヘキ誤解ト称スヘクスノ如キハ真ニ不測ノ結
果ヲ齎スヘキヲ恐ル

二、我國民ノ消耗ハ或ル程度事実ナルモ米國辺ニ於テ頻リ
ニ宣傳セラルルカ如ク斯ク疲弊シ居ル訳ニハアラス又我
國民ノ性格ヨリ云フモ外部ノ圧迫ニ対シテハ猛然反発ス
ルヲ常トシ從ツテ米國ニシテ故意ニ我進路ヲ阻害センカ
我國民ハ朝野益々團結ヲ強固ニシ犠牲ヲ惜マス国策ノ完
遂ヲ期スルノ決意ヲ固ムヘシ仮リニ米國カ日本ト同様ノ
環境ニ在リトセハコノ点我國民ニ似通ヒタル米人氣質ヨ
リシテ恐ラク同一結果ヲ生スヘク米國民ハ右ノ心理及之
ヨリ生スル結果ヲタヤスク了解スルナルヘシ他面我國民
ハ同情ト理解トヲ以テ臨ムモノニ対シテハ深く之ヲ多ト

2 昭和16年2月7日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛（電報）

日米關係に關する我が方の真意をルーズヴェ
ルト米國大統領および有力者に徹底方訓令

本省 2月7日 發

第六八号

本大臣ハ最近議會ニ於ケル質疑等ニ際シテ米側ノ反省ヲ促
ス為メ率直ニ我カ態度ト決意トヲ表明シ且我カ力ノミカク
消耗沈衰シ居ラサルコトヲ明ラカニスルニ努力シ居ル処御
着任ノ上ハ大統領初メ朝野有力者ニ対シ左ノ趣旨ヲ可然敷
衍説明シ我カ真意ノ徹底ニ此ノ上共御努力アリ度シ

一、現代文明ヲ破局ヨリ救ヒ太平洋ニ平和ト繁榮トヲ招来
スルコトハ日米兩國ニ課セラレタル天ノ使命ニシテ之
カ實現ノ為ニ協力提携スルハ其ノ責務ナリ日本ハ此ノ信
念ニ基キ日米國交ヲ打開ヲ希スル次第ナルモ不幸ニシ
テ米國朝野ハ故ラニ日本ノ真意ヲ了解セントセス又我方
行動ヲ以テ米國ニ対スル恫喝ナリト誤解スル向モ少カラ
サル処右ハ重大且危險極マル錯覺ニシテ日本ハ國運ヲ賭

シ或ル場合ニハ理論ヲ離レ感情的ニ讓歩妥協ヲモ敢テナ
ス特質ヲ有スル事實ヲ忘ルヘカラス米國ノ識者タルモノ
ハ須ラク此ノ点ニ想到スヘキナリ

三、米國ニ対シ進ンテ戰爭セント考フルモノハ我國ニ一人
モナカルヘシ不幸日米事ヲ構フル如キコトアラハソハ必
ス米國民ヨリ積極ニ働キカケ開戦スヘシ米國ハ未タ曾ツ
テ受身ニテ開戦シタル事ナシ

四、米國ハ日本ト戰爭シ果シテ何ヲ獲ントスルヤ日本ヲ征
服シ大和民族ヲ絶滅セントスルモノナリヤカカル考ヲ抱
ケル者ハ米國ニ一人モナカルヘシ又左様ノ夢ヲヨシ抱キ
タリトテソレハ絶対實現不可能ナリ仮リニ日本ヲ屈伏セ
シメ「ヴェルサイユ」条約ニモ比スヘキ苛酷ナル条約ヲ
強ヒタリトスルモ日本ハ恐ラク三十年ヲ出スシテ此ノ極
樞ヲ破ルヘシ般鑑遠カラス独逸ノ復興ニ其例ヲ見ヨ日本
ハ他國ノ有セサル國体ヲ有シ天皇陛下ノ限りナキ御稜威
ニ依リ過去幾多ノ大難局ヲ突破セリカカル日本ノ復興ハ
独逸ノ場合ニ比シ遙カニ急速且驚異的ナルヘキハ疑ヲ容
レサル所ニシテ皇室ハ實ニ我國民精力永遠ノ源泉ナリ此
ノ類例ナキ國体ヲ了解セスシテハ到底日本國民ヲ理解シ

難シ要之日米衝突ハ元來親善關係ニ在ルヘキ兩國カ共ニ破滅スルノミナラス延ヒテハ世界文明ノ没落ヲモ齎スヘク米國亦何等獲ル所ナク冷靜ニ考フレハ実ニ愚ノ骨頂ナリト言フノ他ナシ

五、日米戦ハハ蘇連ハ必ス動くヘシ而シテ仮ニ日本カ米國ノ欲スル如ク全敗ストセハ蘇連ハ必ス全支那ヲ席卷シ之ヲ赤化シ此勢ニ乘シテ忽チニシテ亜細亞ノ大半ヲ赤化スヘシ米國ハ果シテカカル eventuality ヲ歓迎スルヤ万一ニモ日本ニシテ屈スル如キコトアラハ東亞ノ事態ハ実ニ戦慄スヘキモノアラン

六、皇国外交ハハ八紘一字ノ大理想ヲ基調トシ其ノ終始專念スル所ハ世界ノ平和繁栄ヲ確保スルニ在リ米國ヲ攻撃スルカ如キ意圖ハ勿論毫モ有セス從ツテ米國カ対日軍備ニ汲々タルハ我方ノ理解ニ苦シム所ナリ日米ハ決シテ対立スヘキニアラスシテ協調スヘキナリ然ルニ米國政治家最近ノ対日言動ハ甚シク刺激的ナルノミナラス其目標ハ恰モ米國ヲシテ全世界ノ警察官タルニ足ラシムル程度ノ大軍備ヲ整備セシムヘシト云フニ似タリ斯ノ如キハ畜ニ太平洋平和ノ為ニモ悲シムヘキノミナラス米國ノ為ニモ取

使ノ口上書及右ニ対スル大統領答辭ハ夫々別電第八六号及別電第八七号ノ通り尚右捧呈式ニハ「ハル」長官モ列席シタルカ大統領ハ終始打解ケタル態度ニテ雑談ヲ交シタル後時局ニ言及シ要旨左ノ如ク述ヘタリ

現下日米關係ハ漸次悪化ノ途ヲ辿リツツアリ支那ニ於ケル二百数十件ニ上ル日米懸案カ米國輿論ヲ刺激スルト共ニ兩國ノ新聞ハ盛ニ挑発的記事ヲ掲載シ事態ハ極メテ憂慮スヘキ状態ニアリ自分並ニ「ハル」長官ニ於テ輿論ノ鎮靜ニ努メ居レルカ古クハ「メーン」号事件四年前ニハ「パナイ」号事件ノ例モアリ不測ノ事件ニ依リ最悪ノ事態發生スルナキヤ憂慮ニ堪ヘス日本ハ海南島新南群島、仏印及「タイ」國ト漸次南進シ居レルカ三國同盟ノ關係上日本ハ独立的ニ行動シ得ス將來独伊カ日本ヲ強制(「フォース」)スルニ到ルコトナキヤヲ恐ル

一 「日米諒解案」への対応

之ニ対シ本使ハ自分ハ全力ヲ尽シテ日米關係ノ破綻ヲ防止スルニ努ムル積リナリ自分ノ個人的意見トシテ日米兩國ハ相争フヘキモノニアラス時至レハ兩國ハ世界平和ヲ實現スヘキ重大ナル使命ヲ有スルモノト思考スル旨答ヘタル処大統領モ強ク是ニ賛意ヲ表シ日米關係改善ニ努ムヘキコト並

ラサル所ニシテ米國タルモノハ他ノ列強ノ生活圏ニハ濫リニ干渉スルコトナク其ノ世界平和ニ対スル本然ノ責務ニ目覺メ互助互讓ノ精神ニ依リ現下危局ノ打開ト人類福祉ノ増進トニ会念スヘキモノナリト信ス

3 昭和16年2月14日 在米國野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

信任状捧呈の際の米國大統領の時局談要旨報告

別電一 二月一四日付在米國野村大使より松岡外務

大臣宛第八六号

野村大使口上書

二 二月一四日付在米國野村大使より松岡外務

大臣宛第八七号

大統領答辭

ワシントン 2月14日後発

本 省 2月15日後着

第八五号

本使十四日正午「ル」大統領ニ御信任状ヲ捧呈シ同時ニ堀内前大使ニ対スル御解任状ヲ捧呈セリ右捧呈式ニ於ケル本

ニ必要アレハ何時ニテモ会見ニ応スル旨述ヘタリ

(別電一)

ワシントン 2月14日後発

本 省 2月15日夜着

第八六号

Mr. President.

His Majesty Emperor of Japan, my august sovereign, has been graciously pleased to entrust me with mission of representing him as Ambassador to United States of America. I have honor, Mr. President, to present to you herewith Letter of Credence, together with letters of recall for my predecessor, Mr. Kensuke Horinouchi.

I wish to assure you that it is source of real pleasure to me to be stationed in your great country, where I have large number of friends, among whom I am happy to count you, Mr. President, as one of the oldest and closest.

Mr. Ambassador:

I am glad to receive from you Letters of Credence by which His Majesty Emperor of Japan has accredited you as Ambassador to United States of America and to welcome you to this country in that capacity. I accept also letters of recall of you distinguished predecessor, Mr. Kensuke Horinouchi.

There are, as you have sated, developments in relations between United States and Japan which cause concern. I welcome your assurance that, in interests of traditional friendship between our two countries and of well being of America and of Japanese peoples, you are resolved to do all you can to bring about better understanding. I am confident of your devotion to this objective, and I feel that your long associations with American people specially qualify you for your mission. You may be sure that I and other officers of government stand read at all times to facilitate in every appropriate

Recent developments in Japanese American relations have unfortunately been such as to cause considerable concern on both sides of the Ocean. It is needed now, more than ever, to bring about better understanding of each other's position in order to secure interests and wellbeing of our two nations thereby preserving peace of Pacific and maintaining traditional friendship between us. Toward that end, I am resolved to do all that I can; and I hope, Mr. President, that in my endeavors I may merit you confidence and be accorded high privilege of your cooperation.

In conclusion, I desire to express my most earnest hope for prosperity of people of United States and for your personal health and happiness.

Nomura.

(別 冊 二)

ワシントン 2月14日後発
本 省 2月15日夜着

and practicable way your performing of your duties as ambassador to this country.

It affords especial pleasure to renew our former association.

I thank you for good wishes which you have extended both to me and to people of United States. In reciprocating these good wishes, I request that you convey to His Majesty Emperor of Japan my hope for his continued health and well being.

Nomura.

昭和16年2月25日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外務大臣の渡欧は不利の旨の意見具申

ワシントン 2月25日後発
本 省 2月26日後着

第一一三号(外機密、館長符号)
新聞紙ハ松岡外相ノ渡欧説ヲ伝フ本使ハ現在政局ノ大局的方面ヲ知ル能ハサルモ当方面ヨリ局地的觀察スル所ヲ以テ

一 「日米諒解案」への対応

率直ニ申上クレンハ閣下此ノ際ノ渡欧ハ極メテ不利ナリト信ス

5 昭和16年3月1日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

井川中央金庫理事と近衛首相等との関係につ

き問合せ

ワシントン 3月1日後発
本 省 3月2日後着

(外機密 館長符号)

井川中央金庫理事二十八日日本使ヲ来訪 Walsh 及 Dr. Oightノ関係並ニ米国大統領ト直接ノ連絡ヲ保チテ日米一般會談ヲ開催セントスル工作ニ付詳細陳述スル所アリタルカ本使今後同人ト接触スル都合モアルニ付同人ハ貴大臣ト如何ナル連絡ヲ有スルヤ又同人云フ所ノ近衛総理並陸海軍当局トノ関係如何ヲ本使心得迄ニ内報願度シ
尚同人ハ貴大臣宛長文ノ電信案ヲ提出セルカ右電信ハ御回電ヲ俟テ処理スルコトト致度シ

6 昭和16年3月8日 在米野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

我が方の対外政策等に関するハル米国國務長
官との会談について

ワシントン 3月8日後発
本 省 3月9日後着

第一三六号(極秘、館長符号扱)

⁽¹⁾今八日午前「ハル」國務長官ノ私宅ニ於テ機密ニ二人限り
ニテ二時間余会談セリ

長官ハ自分ノ經濟政策ヲ説明シ極端ナル國家主義ノ經濟ハ
戰爭ヲ誘発スルニ至ルヘク自分ハ英帝国内ノ特惠ニスラ反
對シ加奈陀ト特別ニ條約ヲ結ヒタルコトアル等語リタル上
本筋ノ話トナリ日米關係ハ大統領ハ「テテリオレート」ナ
ル状態ニ在リト言ハレシカ若シ万一最悪ノ場合トナリタリ
ト仮定スレハ夫レハ毎十年二十年ニ繰返サルルコトトナリ
兩國ノ不幸此ノ上ナシトノ意見ヲ述ヘタル処彼共鳴セリ依
テ本使ヨリ此ノ際双方共冷靜沈着ヲ保チ刺激ヲ最小限トナ
スコト必要ニシテ「エンバーゴ」カ人心ヲ刺激スルノ点
ヲ強調シテ警告シタルカ満足ナル答ナカリキ

一 「日米諒解案」への対応

ト存ス今度ノ仲裁ニ海軍兵力ヲ用ヒタリトノ事ハ自分ハ承
知セサルモ或ハ仲裁ノ速カナル成功ノ為ニ示威的ニ使用シ
タル事ハアルヤモ知レスト話シタルカ一向反駁セス
次ニ長官ハ會談ノ重要点ト思ハルル新嘉坡蘭印進出ハ如何
更ニ政治家ノ言論ヲ引用シ日本ハ大東亞ニ對シ自衛上ニモ
武力的征服(ミリタリー、コンケスト)ヲ企テツツアルヲ
惧ルル様子ナリシカ本使ハ本使ノ知ル限りニテハ新嘉坡、
蘭印ハ事情已ムヲ得サル事ナキ限り武力進出スル事ナシ日
本ノ蘭印ニ望ム処ハ經濟的ナリト述ヘ事情已ムヲ得ス云々
ハ先刻米國カ「エンバーゴ」ヲ強化スルニ於テハ我等ハ
何処ヨリカ油ヲ入手セサル可カラス事ノ成否ハ別トシ油田
獲得論者カ勝ヲ制スル事アル可シト述ヘアリシヲ以テ此ノ
点ヲ質シタル次第ナルカ長官ハ其ノ点ヨリハ寧ろ三國同盟
ニ依リ余儀ナクサル様考フル如ク見受ケタリ此ノ点大統領
領モ初会见ノ時同意味ノ事ヲ言ヒタリ
尚長官ハ閣下ノ欧州諸國訪問説ニ付テハ大ナル關心ヲ示セ
リ
要スルニ今日ハ話ノ端緒ニ過キサリシカ彼ハ自分ハ大使ト
ノミスル問題ヲ或ハ公式ニ或ハ私人的ニ「オフレコード」

次ニ彼ハ「ヒットラー」ノ武力制覇ノ大望ハ「ナポレオン」
「アレクサンダー」等ノ如ク限りナキモノナルカ日本ハ之ニ
共鳴シ其ノ唱フル新秩序ハ武力ヲ以テ大東亞ヲ制覇スルモ
ノト觀ラレツツアリト言ヒ支那、仏印、「タイ」國ノ話トナ
リシヲ以テ本使ハ日本カ求ムル所ハ汪政府トノ條約ニ依リ
明カナル通り good neighbor (勿論第三國カ支那ニ軍事施
設ヲ有ツコトアラハ日本ノ脅威トナルヲ以テ之ヲ拒否ス)
經濟提携(鉄、石炭等)ノ如キ基礎産業ハ重視スルモ普通ノ
貿易ハ第三國ニ對シ干渉スル意ナシ)及防共協定(共產黨
ハ支那ノ西北部等ニ於テ成功シツツアリ)ノ三点ニ在リテ
平等ノ主義ヲ以テ臨ミツツアリ軍力支那ニ在ル以上其ノ目
的トスル所戰勝ニ在リ今日ノ戰ハ經濟戰ヲモ含ミ占領地ノ
經濟カ計画的統制的トナルハ免カレ難シト述ヘタル処長官
ハ余リ強ク反對セス(不明)二百五十ノ抗議ハ其ノ問題ト
離レテ解決シ得ヘキモノナリト言ヒタリ
本使ヨリ仏印ニ付テハ元來同方面ハ余リ閉鎖主義ナリシカ
日本ハ世界ノ割拠經濟主義ニ対応スル為ニモ一層門戸ヲ開
カシムルノ要アリ「タイ」國ニ對シテハ之レ又 good
neighbor タルヲ欲シ既ニ友好條約ノ現存スル事ハ御承知

ニ話シ得ヘシト言ヒ大統領自分トハ全ク同一ナルカ大統
領トノ会见モ自分カ世話シテ宜シトテ其ノ際新聞記者ヲ避
クル為大統領官邸ノ裏道ヲモ指示シ呉レタリ
尚今日ハ何レノ「イニシアチブ」トモセス會談シタルコト
トナス可シトノ打合モアリ今後モ同様會談ノ筈ニ付本日會
見ノ事実モ絶對外間ニ發表セラレサル様特ニ御注意ヲ請フ

7 昭和16年3月10日 在米野村大使より
松岡外務大臣宛

二月一四日の信任状捧呈式までの経緯報告

機密公第一三七号

昭和十六年三月十日

在 米

特命全權大使 野村 吉三郎(印)

外務大臣 松岡 洋右殿

本使御信任状捧呈ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ電報ヲ以テ報告申進シ置キタル処右捧
呈式ノ次第何等御參考迄詳細左ニ報告申進ス

一、本使一行二月十一日(火曜日)午前八時五十五分無事

華府「ユニオン、ステーション」ニ到着シ在留邦人官民多数ノ出迎ヲ受ケタルカ國務省ヨリ「サマリン」儀典局長、「ハミルトン」極東部長、「ホーンベック」政治顧問其他ノ極東関係者多数出迎ヘ「トムゼン」独逸大使館參事官及「ロシ、ロンギ」伊太利大使館公使兼參事官モ馭頭ニテ本使ト挨拶ヲ交セリ夫ヨリ本使ハ大使館邸ニ入り在紐育本邦商社関係者、邦人記者、館員ノ紹介引見ヲ行ヒタル後午前十一時官邸ニ於ケル紀元節祝賀式ニ臨メリ

二、翌十二日午後四時十五分本使ハ森島參事官帶同國務省ニ「ハル」長官ヲ訪問シ同長官ニ本使着任ノ挨拶ヲナスト共ニ御信任状並御解任状写及捧呈式ニ於ケル本使ノ大統領ニ対スル口上書写ヲ手交シ置キタリ尚其際御信任状捧呈式日時ノ打合せヲ行ヒタル結果右ハ十四日正午十二時ト決定セリ

三、十四日午前十一時四十五分官邸ニ國務省儀典局長「スタンレー、ウッドワード」(「サマリン」儀典局長ハ近親ニ疾病者アリテ不在ナリシニ付同局長差遣セル由)ノ出迎ヲ受ケ國務省差回シノ自動車ニテ白亜館ニ赴キタルカ当国ニ於テハ信任状捧呈式ハ過去二年以來極メテ非

為念別添ス

編注 別紙甲・乙号は第3文書参照

8 昭和16年3月15日 在米國野村大使より
近衛(文麿)臨時外務大臣
事務管理(藤吉)宛(電報)

三月一四日の米國大統領との初会見要旨報告

ワシントン 3月15日前發
本省 3月15日夜着

第一四五号(極秘、館長符号扱)

大統領ハ近日静養旅行ニ出ル新聞報道アルヲ以テ國務長官ノ世話ニ依リ今十四日午後一時間半ニ亘リ其ノ居間ニ於テ極秘裡ニ会見(國務長官同席筆記シツツアリタリ)セリ
話題ハ各方面ニ亘リシカ本使ハ米國カ更ニ支那ニ対シ積極的援助ヲ行ヒ且「エンバーゴ」ヲ強化スルニ於テハ我國民ヲ刺激スルニ至ルヘク兩國親善ノ為ニハ何トカ善処ノ策アルヘキヲ言ヒタルニ対応シテ大統領カ最モ重キヲ置キシント認ムル点ハ三國同盟ニシテ氏ハ同盟ハ米國民ヲ驚カシメシカ發表ノ文面以上ニ更ニ大イニ發展スルコトアリ得ヘク松岡外相ノ渡欧モアリ独逸ノ攻勢ニ同調シテ更ニ南進スルノ

公式トナリ居リ服装ノ如キモ「ヴェストン、ノワール」ヲ用ヒ捧呈式ニハ陸海軍武官ハ勿論參事官スラ随伴セサル例トナリ居レリ

本使白亜館ニ到着スルヤ同所ニ待受ケ居タル「ハル」國務長官ニ面接暫時雑談ヲ交シ同長官ヨリ齋藤大使未亡人及堀内前大使ノ消息等ニ関シ質問アリタルヲ以テ本使ハ出発前齋藤大使未亡人ヨリ依囑ヲ受ケタル「アナポリス」海軍兵学校ヘ石灯笼寄贈ノ件ニ付可然取計方依頼シ置キタリ夫ヨリ同長官ハ本使ヲ誘導セリ長官自身カ大使ヲ誘導スルハ前例ヲ破リタルモノナリ大統領接見室ニ入り「ローズベルト」大統領ト会見セルカ大統領ハ「ハル」長官ノ本使紹介ニ先立チ「オールド、フレンド」(旧友)ト呼掛ケ本使ノ御信任状及堀内前大使ノ御解任状捧呈並ニ本使ノ口上書及大統領ノ答辭ノ交換(オ互ヒニ読ミ上クルコトヲ為サス)終ルヤ赴任途中ノ航海其他ニ関シ極メテ打解ケタル態度ヲ以テ尋ネ次イテ時局問題ニ言及セル次第ハ曩ニ電報ヲ以テ報告申進セル通りニシテ会谈約二十分ニシテ白亜館ヲ辞去セリ

本使ノ口上書(別紙甲号)及大統領ノ答辭(別紙乙号)写

(編注)

俱アルヲ言ヒシヲ以テ必スシモ然ラス我外交ハ外相一人ニテ決スルモノニアラス首相ハ素ヨリ陸相海相内相其ノ他閣僚皆參画スル次第ヲ述ヘタル処首肯シ首相ノ為人ヲ知り居ル模様ニテ法外ノコトヲナス人ニアラスト推察シ居タリ
長官ハ今日ノ会谈ヲ喜ヒ当面善処ノ為日本ヨリ「イニシアティブ」ヲ執ルヘキヲ勸メ(大統領モ少シ前ニ何等カ方法アラント言ヒタリ)更ニ南進ノ点ヲ確カメ来リシヲ以テ今ノ所其ノ危険ナカルヘシト考フト答ヘタリ

大統領ハ更ニ追加シテ戦後軍備ノ整頓ハ大問題トナル自分ハ海軍ハ大好きナルモ(私室ニハ軍艦ノ絵ノミ多数掲ケアリ)太平洋ヲ隔ツル戦争ノ困難ハ貴使モ御存知ノ通りニシテ日米軍備競争ノ為ニ國民ニ大負担ヲ懸クルハ賢明ニアラスト言ヒ松岡外相ト「ヒットラー」ノ活動写真カ現ハルルハ旬日ノ後ナルヘク國民ヲ刺激スル様言フヲ以テ本使ヨリ夫レハアリ得ルコト(以下解説不能照会中、電信課)

編注

日ソ中立条約調印および独伊兩國歴訪のため松岡外相欧州出張につき、三月二日より四月二日まで

近衛首相が臨時外務大臣相事務管理を兼任

9 昭和16年3月15日

在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

三月一四日の米國大統領との会見報告

ワシントン 3月15日後発

本省 3月16日後着

第一四六号

⁽¹⁾十四日大統領ト会見ノ詳細左ノ通り

本使ヨリ大統領ニ対シ水兵ノ率直ヲ以テオ話致スカ礼ヲ失スル事有ルヘク其ノ点ハ御容赦ヲ請フト話シ出セル処君ノ英語ハ大丈夫ナリト笑フ

本使ハ日本ハ米國ト戦フヲ欲セサルモ兩國從來ノ態度ヲ繼續スルニ於テハ太平洋ノ危機ハ前途ニ横ハルト冒頭シ米國ニ正面作戦ノ困難ニ及ヒ仮ニ日米戦争ト成ル場合太平洋ノ戦争ハ米國ニ取ツテモ容易ノ事ニ非ス又仮ニ米國勝利ヲ得タリトシテモ其ノ結果ハ極東ハ安定勢力ヲ失ヒ從テ「ソヴイット」ノ極東勢力ハ蔓延シテ帝政時代ノ南下ヲ繰返スヘシ滿州ノ如キモ或ハ其ノ勢力下ニ落チ支那ハ赤化シ或ハ極東全体ノ赤化ヲ見ルヘク米國ハ何等得ル所無カルヘシ一方大西洋ニ於テハ英國ノ大陸封鎖ニ対シ独逸ハ英國ヲ逆

諸國ニ經濟的商業的門戸開放ヲ希望シ共榮ヲ計ルモ別ニ領土ヲ求ムルニ非ス貴國ノ全米主義若クハ善隣主義ト同シキモノナルモ其ノ造り方貴國ノ如ク巧妙ナラサルカ故ニ適々誤解ヲ招キツツアリト言ヒシ処大統領長官ハ顔ヲ見合ハセ笑ヘリ

以上ノ点ニ付テモ余ハ戦争ニ依ラサレハ解決シ難シト言フ程ノ問題無シト確信ス此ノ際更ニ積極的ニ支那ヲ援助セラシルルカ更ニ「エンバーゴ」ヲ強化セラルル場合兩國ノ關係ハ一層悪化ヲ來スヘキモ兩國ハ何トカ誠意ヲ以テ解決ノ途ヲ講スヘキモノナリト信スト述ヘタリ

之ニ対シ大統領ノ答ヘタル所左ノ通り

一、自分ノ祖父ハ支那ノ各地ニ赴キ商売ヲ為セリ「ヘイタシ」國ノ一港ニ日本商船入港國人ニ一品十錢、十五錢ノ品物ヲ沢山売却シ尚「キューバ」ノ「サンチャゴ」ニ入港載貨ヲ全部売却シタル事有リ是甚タ可ナリ日本ハ他國ト平等ニテ充分ニ競争スル力有リ

⁽³⁾米ハ例ヘハ墨國ニ対シ武力ヲ以テ之ヲ圧倒スルノ力アルモ夫ハ無益有害ナリ「カリビヤ」海ノ諸島ヲ取得スヘキナリト云フ委員ニ対シ(此ノ事ハ別ニ國家ノ秘密ニアラ

封鎖シ潜水艦及飛行機ヲ以テノ船舶攻撃ハ益々猛烈ト成リ
港灣設備ニ対シテモ亦爆撃ヲ行ヒ英ノ反撃モ亦愈々活発ト
為ルヘシ

併シ此ノ戦争ハ速戦即決タルヲ得ス長期ノ消耗戦ト為ルヘシ戦争若シ長期ト成ラハ戦勝者モ戦敗者モ等シク社会的影響但シク社会革命ト為ル事ハ前大戦ノ実証スル所ナリ(此ノ点大統領ハ同感ヲ表セリ)

斯ル時日米協力シテ太平洋ノ平和ヲ維持シ戦争ノ拡大ヲ防止スルハ兩國政府ノ重大ナル責任ナリト信ス
右ハ日本ノ大陸政策ナルカ元來日支ノ紛争ハ日本ニ於テ局地解決不拡大ノ方針ナリシカ今日ノ如ク長期ト成リ且拡大シタルハ國民政府ノ徹底的抗日主義カ其ノ原因ノ一ナリ日本ノ支那ニ求ムル所ハ過日國務長官ニ語リシヲ以テ再説ヲ省クカ唯善隣友好經濟提携共同防共ノ三件ニシテ平等主義ナルハ汪政府トノ条約之ヲ証明ス

⁽²⁾東亞ノ新秩序ニ付テハ種々誤解有ルカ如キモ自分モ判然シク定義ヲ知ラス併シ要ハ日本カ近隣諸國ト友好ヲ保チツツ生存ノ為必要トスル物資ヲ得ルニ在リ各國ノ「ブロック」經濟及經濟圧迫カ之ヲ促進シタル次第ナリ再説スレハ近隣

サルヘシト云ヒ)英國ハ二百万ノ黒人ノ為ニ二千万弗ヲ支出シ之等ヲ引受クルコトノ無用ヲ云ヒシコトアリ

日本カ数千年ノ文化ヲ有スル支那ヲ一時ハイサシラス永久ニ統治シ得ヘシトハ信スルヲ得サルカ「ヒットラー」

ノ世界制覇(長官ヲ顧ミ一語シタル処長官ハ World Conquest ヲ繰返シ直ニ同意シタリ)ハ近東「イラク」等ニモ及ヒ阿弗利加ハ之ヲ植民地トスルニアリ独逸戦捷ノ上ハ東亞ノ新秩序ト相俟ツテ米國ハ最も苦境ニ立ツヘキカ故ニ之ハ到底容認シ難シ

尚又今日「ムッソリーニ」ハ「ヒットラー」ノ使用人ノ名ヲ得タリ独逸カ大勝利ノ暁ハ日本ニ取リテモ油断ノナラサル友邦トナルナラン

二、支那ハ多年ノ文化ヲ有シ「ラヂオ」ニ依リ言葉ハ漸次統一セラレ軍閥時代ヨリ漸次統一セラルル傾向アリ露國ハ相当近年迄遊牧の人種ニシテ國民ノ大多数ハ無文字ナリ文化ハ遅レ「スターリン」一人ノ独裁政治ナリ支那ハ赤化スルトハ思ハレス第八路軍ニ從軍セル米武官ノ報告ニ依レハ八路軍ノナス所ハ共產的ニアラスシテ「エジユケーシヨナル」ナリ但シ予カ誤マレルカモ知レヌト云ヒ

シヲ以テ本使ヨリ支那西北部方面ニ於ケル共產勢力ノ蔓延ヲ説明シ置キタリ

日支事変モ何時迄モ継続シテ宜シキ道理ナシト云ヒシヲ以テ汪蔣ノ合流カ若クハ類似ノコトアラハ事変解決ニ便ナルヘシト云ヒ置キタリ此ノ辺ニ或ハ多少異議アルヤモ知レス

三、三国同盟ハ非常ニ米国民ヲ刺激シタルカスル条約存スル以上文面以上ニ發展スルコトハ大イニ有リ得ヘクト言ヒ独逸ト協調シテ南方進出ヲ惧ルルヲ以テ本使ハ元來本条約ハ米國ノ圧迫ニ余儀ナクサレテ算出シタルモノ其ノ目的ハ preventive ニシテ offensive ニアラス之平和的条約ト言ハルル所以ト説明シタリシカ外相ノ渡欧ト相俟テ油断ナラサルモノト認ムルカ如シ然シ局面善処ノ為何トカ方法アラント言ヒタリ

四、独逸ヲ敗リ英ヲ勝タシムルコト政府ノ方針ナリ左レハ蘇連邦ニ対スル輸出モ例ヘハ綿「マシツール」瓦斯ノ如ク独逸ニ入ルコトトナラハ之独逸ノ戦力ヲ増スコトトナル今日蘇連邦トノ間ニ厄介ナル問題ヲ生シツツアリト言ヒ暗ニ日本ニ対スル「エンバーゴ」ノ意味ヲ説明セリ

ルコトヲ願ヒ居ルモ政府ノ方針ハ既ニ対英援助法制定ヲ一契機トシテ著シク参戦ノ「コース」ヲ辿リ国会及財界モ一齊ニ強ク之ヲ支持シ居ルニ付参戦ノ機運益々増大シツツアリト語レリ

二、「ゴ」ハ日米關係モ容易ナラサル事態故貴官モ御苦勞ナリト言ヘルニ付若杉ヨリ日本ノ三国同盟参加及南進政策ノ必要ハ主トシテ米國ノ極東政策殊ニ対日經濟圧迫ニ依リ余儀ナクサレタルモノナルヲ以テ米國ノ態度責任アリト言フヘク從テ米國ノ態度如何ニ依リテハ日本ノ行動モ緩和サルヘク万一米國方更ニ石油ノ輸出禁止又ハ生糸ノ輸入禁止等ノ如キ圧迫ノ度ヲ進ムル場合ニハ日本政府モ到底南進政策ノ急進論者ヲ制止スルヲ得サルニ至ルヘク一層日米關係ヲ悪化スルコト必然ナルヲ以テ米國側ニ於テモ慎重考慮ノ要アルヘキ旨「ハル」又ハ「ウエルズ」ニ伝ヘラレ度シト警告シ置ケリ

三、先年北京、上海ニ於テ事変ノ勃発阻止ニ相互ニ協力セラルヲ回顧シ日支間ノ現状及米國ノ对支援助ノ実情ニ鑑ミ結局極東平和ノ樹立ニ関シ何等カノ策ヲ講スルコト緊要ナルヘシトノ話題ニ入り若杉ヨリ日本ノ支那ニ求ムル所

五、時々日本政府代表ト自称スル者來ルカ米國政府トシテハ之ヲ相手ニスルヲ得ス而シテ必要アラハ何時ニテモ今日ノ如ク大使ト胸襟ヲ開イテ語り得ヘク大統領及國務長官ニ於テ此ノ任ニ当ルト言ヒタリ

要スルニ終始一貫極メテ機嫌良ク語り極東ノ事態ヲ心配シツツアリタリ長官ハ最後ニ本使ニ感謝ノ意ヲ表シ前電末文通りノ話アリタリ

本件前電同様絶対ニ外間ニ洩レサル様御注意請フ

10 昭和16年4月3日

在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

若杉公使とゴウス新駐中国米國大使との日米
および日中關係などに関する会談について

ワシントン 4月3日後発
本省 4月4日前着

第二〇八号

一日若杉ハ北京、上海ニ於ケル同僚トシテ懇意ナリシ新駐支大使「ゴウス」ト会談中参考トナルヘキ節左ノ通り

一、「ゴ」ハ米國民ノ大多数ハ目下ノ処歐州戦争ニ参戦セサ

ハ過般締結セル日支基本条約ニテモ明カナル如ク支那ノ独立友好善隣共同防共、經濟提携ニ外ナラサルヲ以テ米國モ之ニ異存アル筈ナク宜シク之ヲ支持シテ蔣介石ヲ説得シテ極東平和ノ回復ニ協力スル方得策ナルヘク貴大使重慶着任ノ上ハ這般ノ斡旋ヲ試ミテハ如何ト説キタルニ対シ「ゴ」ハ無言ノ儘聞キ居リタリ

四、万一本國征服セラルル場合(米人ハ一般ニ最後ノ勝利ヲ信シ居レリ)米ハ英ノ海軍及英帝國ノ諸領ヲ連邦内ニ引入レルカ又ハ米加、米墨共同防衛ノ如ク濠州等ノ「ドミニオン」迄モ含ム英米共同防衛ノ陣ヲ張ルニ至ルヘキヤトノ問題ニ付「ゴ」ハ英米連邦ハ不可能ナルヘク又右ノ如キ広範圍ノ戦線ヲ張ル如キ共同防衛ハ困難ナルヘシト語レリ

尚「ゴ」ハ最近前任地濠州ヨリ帰朝中ニテ本月中旬單身赴任ノ由ナリ

11 昭和16年4月9日

在ソ連邦建川(美次)大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

米國大統領との会談申入れその他松岡外務大

臣とスタインハート駐ソ米國大使との會談に
ついて

モスクワ 4月9日前發
本省 4月9日後着

第四二二号(極秘、館長符号扱)
松岡大臣ヨリ

予テ懇意ノ間柄ナル駐蘇米國大使「スタインハート」ヨリ
八日非公式午餐ニ招カレ食後別室ニテ内談ヲ希望セルニ依
リ建川大使ト鼎坐シ時余會談セリ同大使ハ極メテ率直ナル
人物ニシテ常ニ日米關係ヲ深ク憂慮シ何トカシテ改善ヲ計
リ度キ希望ヲ懷キ居ル者ナルカ三月二十四日日本大臣ヲ來訪
シ蘇宛貴電第三三八号ノ趣旨ノ談話ヲ為セル際同大使ニ対
シ日米關係ニ関スル本大臣ノ率直ナル所見ヲ開陳セル後米
國大統領ハ米國ニ於ケル最大ノ「ギャンブラー」ナリトハ
大統領ノ敵味方ノ等シク認メ居ル所ナルカ果シテ然ラハ日
米關係否世界全般ノ平和ノ為ニ唯一回ノミニテモ可ナルニ
付日本ヲ信シ若シ日本ヲ信シ得スハ本大臣ヲ信シ「ギャン
ブル」ヲ試ミサルヤト申シ送ラレタシ即チ日本カ正義ヲ尊
重シ之ヲ実行スヘキヲ信シ蔣介石ニ対シ日本ト論シテ全面

一 「日米諒解案」への対応

セシメントスル独逸ノ希望ト米國ト事ヲ構ヘサラントスル
日本ノ希望トノ間ニ一致点ヲ発見セル事實ニ存ス此ノ点ハ
今尚毫モ変化無シ尤モ日本ハ若シ米國カ挑戦セハ断然起ツ
テ応戦スヘキ事勿論ナリ然ルニ右ノ独逸ノ希望ハ實ニ真剣
ニシテ対米宣戦ヲセサルヘキハ勿論米國民ノ感情ヲ刺激ス
ルカ如キ一切ノ行動ヲ回避セント努メツツアリ日本ニ対シ
テモ同様態度ニ出テン事ヲ熱望シ居ル次第ナリ従ツテ今次
柏林會談ニ於テモ同様趣旨ヲ独側ヨリ反復シ本大臣モ之ニ
共鳴シタルニ過キス独逸カ対米宣戦ヲ為スカ如キ事ハ断シ
テ無シト確信スル旨ヲ述ヘタル処同大使ハ余程安心シタル
模様ニテ右ヲモ合セテ本國政府ニ電報シ若シ本大臣離莫前
ニ返電接到セハ直ニ内報スヘント約シタルカ別レニ臨ミ同
大使ハ本大臣ニ於テ須ク米大統領ト直接接触セラルヘント
テ特ニ注意シタリ

終リニ本大臣ヨリ同大使ニ対シ大統領ト國務長官トニ宜シ
ク御伝ヘテ請フ旨ト共ニ特ニ國務長官ニ対シ「少シク想像
カヲ持チテ若シ閣下カ余即チ現下ノ日本ノ外務大臣タル地
位ニ在ラハ柏林、羅馬ニ於テ如何ナル行動ヲ執リタルナラ
ンカニ付想像ヲ繰ラスニ於テハ自ら余ノ行動ニ付テモ了解

和平ノ克復ヲ計ルヘシ然ラサルニ於テハ米國ハ援蔣行為ヲ
一切放棄スヘシト通告セラルヘク之即チ日支全面和平實現
ノ捷徑ナルヲ信スト述ヘタル次第ナル処同大使ハ本八日ノ
懇談ニ於テ右ハ當時早速大統領ニ電報シタルカ本大臣ノ希
望ニ或ハ副ヒ得ル事トナルヤモ知レストノ意味ヲ内話シタ
ルニ付本大臣ハ今一応同趣旨ヲ傳達サレ度ク若シ大統領ニ
シテ之ヲ決行サルレハ本大臣帰京後恐ラク一週間ヲ出テス
シテ全面和平ノ緒ニ就クヘケンカト思フ旨ヲ申シ聞ケタル
ニ同大使ハ直ニ右電報スヘキ旨ヲ約シタリ

尚同大使ハ本大臣ノ伯林訪問ニ依リ日本ハ更ニ「コンミッ
トメント」ヲ為シタルニ非スヤト率直ニ質問シタルニ依リ
本大臣ハ之ニ対シ左様ノ問題ハ無カリシ次第ニシテ又有ル
苦モ無シ蓋シ同盟條約ハ公表ノ通りニシテ右以上ニ何等ノ
「コンミットメント」ヲ必要トセサル事明瞭ナリト答ヘタ
ル処同大使ハ重ねテ独逸ハ同條約ノ下ニ日本ヲ戰爭ニ引キ
込ム為米國ニ対シ宣戦セントシ其ノ趣旨ヲ本大臣ニ談シ込
ミタルニ非スヤト言ヘリ依テ本大臣ハ元來同條約ノ基礎タ
リ前提タリシモノハ本大臣ノ既ニ公表セル通り現戰爭ノ範
圍ヲ局限シ殊ニ米國ノ參戰ヲ防止シ一日モ速ニ戰局ヲ終結

セラルナラン」ト申シ送ラレタシト申シ添ヘタリ

本日ノ懇談ニ於ケル米國大使ノ口吻ト態度トニ顧ミ此ノ程
「ロイ・ハワード」ヨリ申シ越セシ事其ノ他ヲ思ヒ合セ近
ク米國大統領カ本大臣ニ対シ何等カノ措置ヲ執ルヤモ知レ
スト思ハルル節モ有ルニ付為念右電報ス
英、米、独、伊へ転電セリ

12 昭和16年4月14日 在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

太平洋の平和維持につき米國國務長官と意見
一致せる旨の報告

ワシントン 4月14日後發
本省 4月15日前着
第二二七号(機密、館長符号扱、至急)

今十四日午前國務長官ト其ノ私邸ニ於テ會見兩國政府カ太
平洋ノ平和維持ニ一致スル以上此ノ際才互ハ大乗の二大キ
ク考ヘ速ニ動クヲ要スト言ヒシ処長官ハ同意ヲ表セリ米國
艦隊ハ儀禮的ト称シテ南太平洋ヲ巡航シ又各地ニ海軍士官
ヲ派遣シ馬尼刺ニ於テ英米蘭ノ會議アリ之ハ軍事専門家ヨ

リ見レハ容易ナラサル形勢ニシテ正シク包围政策ノ第一歩ナリ日本ノ軍事責任者ハ夫レヲ雲烟過眼視スル訳ナク從テ兩國ノ戦争熱ヲ高ムルコトトナル且米国内ノ軍備熱愈々高マリ大西洋ニ於テ「コンボイ」ヲ遣り出スノ形勢アリ艦ヲ交戦状態トナリ戦争ノ宣言トモナリ兼ネマシク日本ハ重大ナル関心ヲ持タサルヲ得ス此ノ際オ互ニ速ニ何トカ工夫ヲ凝ラシ両国間ノ戦争ニ向フ進路ヲ平和ニ向フ進路ニ多少ニテモ交換セサルヘカラスト言ヒシ処前段ニ対シテハ報告ニ備スル説明モナカリシカ未段ニ対シテハ同意ヲ表セリ続イテ日本ノ武力政策ニ対スル質問アリシカ二年前ノ近衛聲明ヲ見テモ非賠償非併合ヲ言ヒ支那ト平等ノ基礎ニ於テ事変收拾ノ用意アリ當時一部ノ反対者アリシカ国民ハ納得シ今猶其ノ通りナリ日本ハ八紘一字ノ精神ナリト説明シ日本ノ国家及国際觀念ニ及ヒシ処彼ハ納得シオ互ノ意見一致スト答ヘタリ追テ欧州戦争支那事変海軍海運問題兩國ノ経済問題太平洋ノ安定ニ付テモ多少触レタルカ成ルヘク最近ノ機会ニ会合ヲ約シ先方ヨリ時日ヲ通知シ来ル筈ナリ尚日蘇新条約ニ付テ説明シ且太平洋ノ平和ハ他日欧州平和ノ第一歩ナリト述ヘシカ之ニハ同意ヲ表セリ

シツツアルコト

- 三、一項二項ノ情勢ニ在ル間米海軍カ其ノ主力ヲ太平洋ニ集中スルハ必然ノ対策ナルモ之カ為大西洋ニ於テハ極メテ不利ナルコト
- 四、米國ハ対支援助ヲシナカラ日本ヲ支那ニ牽制シ置クハ日本ノ南進ヲ阻止スル為ニモ將又日米戦争ノ場合ニモ有利ト認メツツアルヲ以テ外相ノ「スタインハート」ニ説キタル点ノ実現ニ対シテハ此ノ点ヲ考慮スルヲ要スルコト
- 五、日本ヨリモ先シテ蘇連トノ親善ヲ工作シ蘇連ヲ「デモクラシー」側ニ引付ケ以テ独逸トノ間ヲ離間スルト同時ニ極力日本牽制ノ策ニ出テツツアリシカ条約ニ依リ大部分挫折シタルコト
- 六、英帝國ノ諸邦及米州諸邦及蘭印ト協力日本ニ経済圧迫ヲ加ヘツツアルコト而シテ米州諸邦ハ漸次米國ト協調ノ態度ニ出テツツアルコト
- 七、米國ノ国力動員ハ漸ク動き出シ来年ニ入ラハ相当ノ活況ニ入ルヘク而シテ米國ハ長期戦ノ準備ヲナシツツアルコト

13 昭和16年4月15日
在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)
三国同盟、南進および米國の対中援助など日米間の諸問題につき意見具申

ワシントン 4月15日後発
本 省 4月16日後着

第二三〇号(極秘、館長符号扱)
往電第一三六号、第一四六号及第二二七号ニ関シ

現在ノ日米關係ニ付左記ノ諸点検討ノ上対策ヲ講シ居ル次第ニ付為念

- 一、三国同盟ハ大ナル威力ヲ發揮シ非常ノ刺激ヲ受ケ始メテ日米戦争ヲ真剣ニ考慮シ出シ之カ対策ニ腐心シツツアルコト然レドモ米國ハ二正面作戰ヲ希望セサルヘキハ想像シ得ヘシ
- 二、日本ノ南進ハ独伊ノ戦勢ヲ見テ行ハルルコトアルヘク必スシモ平和的經濟的タルニ止ラスト認メツツアル処日蘇中立条約ニ依リ愈々武力的トナルノ公算多々アルヲ以テ米國ハ此ノ点ニ着眼シ英帝國及蘭印ト協調ノ上対策ヲ講

八、大西洋戦ニ於ケル船舶ノ損失率ハ戦争ノ勝敗ヲ決スル次第ナルカ其ノ損失多ク之カ対策ニ苦心シ「コンボイ」モ準備サレツツアリ愈々実施ノ晝ハ之レ參戰一步手前ナルコト

九、一乃至八項ノ形勢ヲ考慮シ日本トシテ此ノ際日米和平ノ為極力有利ノ条件ヲ獲得スルニ努ムヘキコト而シテ尚次ノ二項重要ナル点ナリト認ム

一〇、日本カ參戰スル場合日本海軍ハ殆ト独力ニテ英及米ノ連合海軍ニ当テサルヲ得サル大責任ヲ負フコト而シテ此ノ事ハ独伊ノ大陸ニ於ケル絶對優勢及大西洋戦ノ推移如何ニ関シ毫末モ変リナク尚又蘇連ト中立条約ヲ結フモ何等此ノ大負担ヲ軽減シ得サルコト

一一、米國カ「コンボイ」ヲやり出シ艦ヲ戦争状態ノ存在ヲ宣言スルカ如キ場合ハ我國トシテハ正ニ大問題ナルヲ以テ此ノ際何トカ兩國間ニ了解ヲ成立セシメ多少ニテモ今日ノ戦争心理ヨリ一転シテ平和心理ニ移行シ太平洋上ノ平和ヲ第一歩トシテ更ニ日米協力ノ上世界平和ノ再建ニ進ムヘク下地ヲ造り出スコト之ハ先覺ノ士ノ常ニ考慮シツツアル所ニ合致スト思考ス

14 昭和16年4月17日 在米野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

米國國務長官より日米諒解案の手交について

別電 四月一七日付在米野村大使より近衛臨時外

務大臣事務管理宛第一三四号

日米諒解案

ワシントン 4月17日午後
本 省 4月17日夜着

第二三三号(至急、外機密、館長符号扱)

本十六日國務長官ト私邸ニ於テ会谈長官ヨリ別電第二三四号(兩國了解案ト仮称ス本了解案ニ付テハ予テヨリ内面工作ヲ行ヒ米國政府側ノ賛意ヲ「サウンド」シ居リタル処「ハル」長官ニ於テモ大体之ニ異議ナキ旨確メ得タルニ依リ本使ニ於テモ内密ニ干与シ種々折衝セシメタル結果本案ヲ約シタルモノナリ)ニ依リ交渉ヲ進メテ宜シク政府ノ訓令ヲ得ラレタキ旨申出アリ長官ハ貴使トノ間ノ話カ進ミタル後東京ヨリ否認サルルコトアラハ米政府ノ立場ハ困難トナルヲ以テ斯クシタシト申セリ

第二三四号(至急、外機密、館長符号扱)

兩國諒解案

日本國政府及米國政府兩國間ノ伝統的友好關係ノ回復ヲ目的トスル全般の協定ヲ交渉シ且之ヲ締結センカ為茲ニ共同ノ責任ヲ受諾ス

兩國政府ハ兩國国交ノ最近ノ疎隔ノ原因ニ付テハ特ニ之ヲ論議スルコトナク兩國民間ノ友好的感情ヲ悪化スルニ至リタル事件ノ再発ヲ防止シ其ノ不測ノ發展ヲ制止スルコトヲ衷心ヨリ希望ス

兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋ニ道義ニ基ク平和ヲ樹立シ兩國間ノ懇切ナル友好的諒解ヲ速カニ完成スルコトニ依リ文明ヲ覆没セントスル悲シムヘキ混乱ノ脅威ヲ一掃センコト若シ其ノ不可能ナルニ於テハ速カニ之ヲ拡大セシメサランコトハ兩國政府ノ切実ニ希望スル所ナリトス

前記ノ決定的行動ノ為ニハ長期ノ交渉ハ不適当ニシテ又優柔不斷ナルニ鑑ミ茲ニ全般の協定ヲ成立セシムル為兩國政府ヲ道義的ニ拘束シ其ノ行為ヲ規律スヘキ適當ナル手段トシテ文書ヲ作成スルコトヲ提議スルモノナリ
右ノ如キ了解ハ之ヲ緊急ナル重要問題ニ限局シ會議ノ審議

一 「日米諒解案」への対応

本件ニ関シテハ予テヨリ館員陸海軍武官及岩畔大佐等ト慎重研究ヲ重ネ全員一致協力シ且内外ノ諸情勢ニ対シテモ充分考察ヲ加ヘ以テ本了解ヲ有利ナラシムル様努力シ来リタルカ素ヨリ兩國關係ノ全面ニ触レタルニアラス各項目ノ内容ニ至リテモ不備ノ点アルナランモ当方ノ所見トシテハ此際斯カル筋書ノ了解ヲ成立セシムルモ

- 一、三國同盟成立當時ノ御詔書ニ悖ルコトナカルヘク或ハ畏多キコトナルカ聖旨ニモ副ヒ得ルカトモ拝察ス
- 二、決シテ三國同盟ノ信義ニ悖ルコトナカルヘシ
- 三、政府ノ根本方針タル太平洋平和維持ノ第一歩トナルヘシ
- 四、更ニ他日欧州平和再建ニ日米協力ノ下地トモナルヘシ就テハ此ノ際大局ノ為ニ枝葉ノ不備ナル点ハ之ヲ會議ニ於テ補正スルコトト為シ何卒此ノ筋ニテ交渉ヲ進メテ宜シキ御回訓ニ接シタク切望ノ至リナリ

ワシントン 4月17日前発
本 省 4月17日夜着

(別電)

ニ譲リ後ニ適宜兩國政府間ニ於テ確認シ得ヘキ付随の事項ハ之ヲ含マシメサルヲ適當トス

- 兩國政府間ノ關係ハ左記ノ諸点ニ付事態ヲ明瞭ニシ又ハ之ヲ改善シ得ルニ於テハ著シク調整シ得ヘシト認メラル
- 一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念並ニ國家觀念
 - 二、欧州戦争ニ対スル兩國政府ノ態度
 - 三、支那事變ニ対スル兩國政府ノ關係
 - 四、太平洋ニ於ケル海軍兵力及航空兵力並ニ海運關係
 - 五、兩國間ノ通商及金融提携
 - 六、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動
 - 七、太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針
- 前述ノ事情ヨリ茲ニ左記ノ了解ニ到達シタリ右ノ了解ハ米國政府ノ修正ヲ経タル後日本國政府ノ最後の且公式ノ決定ニ俟ツヘキモノトス
- 一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念
- 日米兩國政府ハ相互ニ其ノ對等ノ獨立國ニシテ相隣接スル太平洋強國タルコトヲ承認ス
- 兩國政府ハ恒久ノ平和ヲ確立シ兩國間ニ相互ノ尊敬ニ基ク信頼ト協力ノ新時代ヲ画サンコトヲ希望スル事實ニ於

テ兩國ノ国策ノ一致スルコトヲ闡明セントス
兩國政府ハ各国並ニ各人種ハ相摺リテ八紘一宇ヲ為シ等
シク權利ヲ享有シ相互ノ利益ハ之ヲ平和の方法ニ依リ調
節シ精神的並ニ物質的ノ福祉ヲ追求シ之ヲ自ラ擁護スル
ト共ニ之ヲ破壊セサルヘキ責任ヲ容認スルコトハ兩國政
府ノ伝統的確信ナルコトヲ声明ス

兩國政府ハ相互ニ兩國固有ノ伝統ニ基ク國家觀念及社会
的秩序並ニ国家生活ノ基礎タル道義の原則ヲ保持スヘク
之ニ反スル外来思想ノ跳梁ヲ許容セサルノ鞏固ナル決意
ヲ有ス

二、欧州戦争ニ対スル兩國政府ノ態度

日本国政府ハ枢軸同盟ノ目的ハ防禦のニシテ現ニ欧州戦
争ニ参入シ居ラサル国家ニ軍事の連衡關係ノ拡大スルコ
トヲ防止スルニ在ルモノナルコトヲ闡明ス

日本国政府其ノ現在ノ条約上ノ義務ヲ免レントスルカ如
キ意思ヲ有セス尤モ枢軸同盟ニ基ク軍事上ノ義務ハ該同
盟締約国独逸力現ニ欧州戦争ニ参入シ居ラサル国ニ依リ
積極的ニ攻撃セラレタル場合ニ於テノミ發動スルモノナ
ルコトヲ声明ス

F、蔣政権ト汪政府トノ合流

G、支那領土ヘノ日本ノ大量的又ハ集團的移民ノ自制

H、滿州国ノ承認

蔣政権ニ於テ米国大統領ノ勸告ニ応シタルトキハ日本国政
府ハ新タニ統一樹立セラルヘキ支那政府又ハ該政府ヲ構成
スヘキ分子ヲシテ直ニ直接ニ和平交渉ヲ開始スルモノトス
日本国政府ハ前記条件ノ範圍内ニ於テ且善隣友好、防共共同
防衛及經濟提携ノ原則ニ基キ具體的和平条件ヲ直接支那側
ニ提示スヘシ

四、太平洋ニ於ケル海軍兵力及航空兵力並ニ海運關係

A、日米兩國ハ太平洋ノ平和ヲ維持センコトヲ欲スルヲ
以テ相互ニ他方ヲ脅威スルカ如キ海軍兵力及航空兵力
ノ配備ハ之ヲ採ラサルモノトス右ニ関スル具體的ノ細
目ハ之ヲ日米間ノ協議ニ讓ルモノトス

B、日米會談妥結ニ當リテハ兩國ハ相互ニ艦隊ヲ派遣シ
儀禮的ニ他方ヲ訪問セシメ以テ太平洋ニ平和ノ到来シ
タルコトヲ壽クモノトス

C、支那事變解決ノ緒ニ着キタルトキハ日本国政府ハ米
国政府ノ希望ニ応シ現ニ就役中ノ自国船舶ニシテ解役

米国政府ハ其ノ欧州戦争ニ対スル態度ハ現在及将来ニ於
テ一方ノ国ヲ援助シテ他方ヲ攻撃セントスルカ如キ攻撃
的同盟ニ依リ支配セラレサルヘキコトヲ闡明ス米国政府
ハ戦争ヲ嫌惡スルコトニ於テ牢固タルモノアリ從テ其ノ
欧州戦争ニ対スル態度ハ現在及将来ニ亘リ専ラ自国ノ福
祉ト安全トヲ防衛スルノ考慮ニ依リテノミ決セラルヘキ
モノナルコトヲ声明ス

三、支那事變ニ対スル兩國政府ノ關係

米国大統領カ左記条件ヲ容認シ且日本国政府カ之ヲ保障
シタルトキハ米国大統領ハ之ニ依リ蔣政権ニ対シ和平ノ
勸告ヲ為スヘシ

A、支那ノ独立

B、日支間ニ成立スヘキ協定ニ基ク日本国軍隊ノ支那領
土撤退

C、支那領土ノ非併合

D、非賠償

E、門戶開放方針ノ復活但シ之カ解釈及適用ニ関シテハ
将来適當ノ時期ニ日米兩國間ニ於テ協議セラルヘキモ
ノトス

シ得ルモノヲ速カニ米国トノ契約ニ依リ主トシテ太平
洋ニ於テ就役セシムル様斡旋スルコトヲ承認ス但シ其
ノ噸数等ハ日米會談ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

五、兩國間ノ通商及金融提携

今次ノ了解成立シ兩國政府之ヲ承認シタルトキハ日米兩
國ハ各其ノ必要トスル物資ヲ相手国カ有スル場合相手国
ヨリ之カ確保ヲ保証セラルルモノトス又兩國政府ハ嘗テ
日米通商條約有効期間中存在シタルカ如キ正常ノ通商關
係ヘノ復帰ノ為適當ナル方法ヲ講スルモノトス尚兩國政
府ハ新通商條約ノ締結ヲ欲スルトキハ日米會談ニ於テ之
ヲ考究シ通常ノ慣例ニ從ヒ之ヲ締結スルモノトス

兩國間ノ經濟提携促進ノ為米国ハ日本ニ對シ東亞ニ於ケ
ル經濟狀態ノ改善ヲ目的トスル商業工業ノ發達及日米經濟
提携ヲ實現スルニ足ル金「クレヂット」ヲ供給スルモノ
トス

六、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動

日本ノ南西太平洋方面ニ於ケル發展ハ武力ニ訴フルコト
ナク平和的手段ニ依ルモノナルコトノ保障セラレタルニ
鑑ミ日本ノ欲スル同方面ニ於ケル資源例ヘハ石油、護謨、

錫、「ニツケル」等ノ物資ノ生産及獲得ニ関シ米國側ノ協力及支持ヲ得ルモノトス

七、太平洋ノ政治的安定ニ関スル兩國ノ方針

A、日米兩國政府ハ欧州諸國カ将来東亜及南西太平洋ニ於テ領土ノ割讓ヲ受ケ又ハ現存國家ノ併合等ヲ為スコトヲ容認セサルヘシ

B、日米兩國政府ハ比島ノ獨立ヲ共同ニ保障シ之カ挑戦ナクシテ第三國ノ攻撃ヲ受クル場合ノ救援方法ニ付考慮スルモノトス

C、米國及南西太平洋ニ対スル日本移民ハ友好的ニ考慮セラレ他國民ト同等無差別ノ待遇ヲ与ヘラルヘシ

日米會談

(A) 日米兩國代表者間ノ會談ハ「ホノルル」ニ於テ開催セラルヘク合衆國ヲ代表シテ「ルーズベルト」大統領日本國ヲ代表シテ近衛首相ニ依リ開會セラルヘシ代表者數ハ各國五名以内トス尤モ專門家書記等ハ之ニ含まス

(B) 本會談ニハ第三國「オブザーバー」ヲ入レサルモノトス

リ若シ其ノ漏洩スルカ如キ事アラハ本件交渉ノ前途ニ不測ノ障礙ヲ与フヘキ惧アリト認メラルルニ付テハ米國大使ニモ秘密ニセラレタク其ノ取扱ニ付充分御配慮ヲ請フ

二、尙了解案ノ逐条説明ハ後電ス

16 昭和16年4月17日

在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

世界情勢に関する米國國務長官の談話について

ワシントン 4月17日後發
本省 4月18日後着

第二三七号(極秘、館長符号扱)

國務長官ハ極メテ要心深く自分ノ意見トシテ洩ルルコトニハ極力警戒シツツアルカ十六日対談ノ間ニ左ノ如キ話シモアリタリ

一、蘇連邦ハ依然トシテ自ヲ戰爭ニ介入セス他國ヲシテ戰ハシムル方針ヲ執ルモノト認メ日蘇條約ニ対シ此ノ觀點ヨリモ見ツツアルモノト認ム

二、日米戰爭ハ欧州戰爭ヲ拡大セシメ遂ニハ文明ノ破滅トナルト云フ点松岡外相ト同様ノ意見ヲ有ツモノト認ム

(C) 本會談ハ兩國間ニ今次了解成立後成ルヘク速カニ開催セラルヘキモノトス(本年五月)

(D) 本會談ニ於テハ今次了解ノ各項ヲ再議セス兩國政府ニ於テ予メ取極メタル議題ニ関スル協議及今次了解ノ成文化ニ努ムルモノトス具體的議題ハ兩國政府間ニ協定セラルルモノトス

附 則

本了解事項ハ兩國政府間ノ秘密覺書トス本了解事項發表ノ範圍性質及時期ハ兩國政府間ニ於テ協定スルモノトス

15 昭和16年4月17日

在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

日米諒解案について秘密厳守の旨注意喚起

ワシントン 4月17日前發
本省 4月17日後着

第二三五号(至急、外機密、館長符号扱)
往電第二三三三号ニ関シ

一、本件ニ付テハ大統領側近ノ二、三閣僚ニ於テ承知シ居ルニ止マリ米國政府内ニ於テモ秘密漏洩ヲ極メテ警戒シ居

(但シ世間ニハ此ノ際先ツ以テ日本ヲヤツツケルヘシト他愛モナイ論モアリ海軍士官ニモ可成在ルコト確實ナリ)

三、「ヒットラー」ノ武力征服ハ一時成功シテモ臆テ各國民ハ離反スルニ至ルヘク又大陸ハ征服シ得テモ七ノ海ハ彼ノ力ヲ以テシテ如何ニモナラヌト見ツツアリ

四、米國ハ只今ハ対英極力援助ト国防充實ノミヲ才題目ト為シツツアルモ米政府ハ戦後ノ世界再建ノ対策(国内対策ヲモ含ム)ヲ練リツツアルコト確實ナリ

17 昭和16年4月18日

在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛
(電報)

日米諒解案逐条説明

ワシントン 4月18日前發
本省 4月18日夜着

第二三九号(大至急、外機密、館長符号扱)
往電第二三五号後段ニ関シ

了解案逐条説明左ノ通り

(一) 日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念

一 「日米諒解案」への対応

本項ノ趣旨トスル所ハ米國側カ日本ノ「トータリテリアニズム」化ヲ恐レ居リ日本ニシテ「トータリテリアニズム」化スルニ於テハ日米間ニハ最早話合ハ不可能ナリトノ建前ヲ取り居ルヲ以テ日本ノ抱懷スル觀念ハ「トータリテリアニズム」ニ非ス「コンミニズム」ニ非ス左リトテ「デモクラシー」ニモアラス三千年來固有ノ伝統ニ基ク國家觀念ニ立脚スルモノニシテ之ニ反スル外國思想ニ左右セラルルモノニアラサルコトヲ明カニシタルモノナリ而シテ本項ヲ挿入シタルハ先方カ最高首腦ノ意向ナリトシテ強ク主張シタルニ依ルモノニシテ「ハル」長官モ本使ニ対シ此ノ点ヲ力説シタル経緯モアリ旁々帝國國体ヲ宣明スル好機會ナリト認メ修正ノ上存置スルコトトセリ

(二) 欧州戦争ニ対スル兩國政府ノ態度

本条項ハ我方ニ付テハ三国条約ニ関連シ当方ノ最モ腐心シタル所ニシテ其ノ目的トスル所ハ

(イ) 本了解ハ三国条約ニ依リ帝國ノ負担スル条約上ノ義務ニ何等變更ナキコトヲ明瞭ニスル一方

(ロ) 米國ノ欧州戦争加入ヲ極力牽制シ三国条約第三条ノ

ントシタルモ海南島ニ関スル機微ナル問題アルニ鑑ミ之ヲ止メ門戸開放原則ノ解釈及適用ニ付テハ之カ解決ヲ將來ノ協議ニ譲ルコトトシタリ移民ニ付テハ先方ノ主張モアリ實質上差支ナキニ鑑ミ之ヲ入レタリ尚支那領土ノ中ニ滿州國ヲ含マサルコトハ滿州國ノ承認カ一条件トナリ居ルニ鑑ミ明瞭ナリ

(2) 尚先方ノ提議セル前述ノ対米保障条件ハ所謂近衛三原則ト背馳セス又客年締結ノ日華間基本關係ニ関スル条約及日滿華共同宣言トモ正面ヨリ衝突スルコトナシト認ム又蔣政權側ニ於テ米國大統領ノ勸告ヲ受諾セサル場合ニハ米國ハ対支援助ヲ打切ルヘキ意向ヲ有スルモ直ニ之ヲ明文化スルコトハ難色アリトノコトナリ

(四) 太平洋ニ於ケル海軍兵力及航空兵力並ニ海運關係

(イ) 当初米國側ハ太平洋平和ノ為日米兩國海軍ノ共助ノ意向アル模様ナリシモ斯クテハ独伊ヲ仮裝敵國トスル結果トナルノミナラス日米軍事同盟ノ誤解モ生スル惧アリシヲ以テ修正ノ上本案ノ如クセリ

(ロ) 海運問題ニ付テハ米國カ今日船腹不足ニ悩ミ居ル現狀ヨリ見テ米國トシテハ当然ノ要求ト認メラレ帝國ト

精神ヲ充分活用スルト共ニ

(イ) 日米間ノ破局ヲ回避シ三国条約締結ノ目的ヲ貫徹セントスルニアリ

(三) 支那事變ニ対スル兩國政府ノ關係

当初米國側ハ米國大統領ノ仲裁手續 (arbitration) 若ハ居中調停 (mediation) ニ依リ支那事變処理ヲ考慮シ居リ又一方汪政府ハ全然之ヲ否認セントスル模様ナリシヲ以テ其ノ帝國政府ニ於テ到底受諾シ難カルヘキ所以ヲ百方説明セシメ一方米國カ支那事變ニ容喙スルノ端緒ヲ阻止スルノ趣旨ヨリ大統領ハ単ニ和平橋渡 (bons offices) ヲ為スニ止マリ交渉ハ之ヲ日支直接交渉トスルコト及交渉ノ相手ハ重慶政府トスルコトヲ思止マラシメ本案ノ如クセリ

又和平条件ノ骨子ハ所謂近衛三原則即チ善隣友好防共共同防衛及經濟提携トスルコトヲ承認セシメ又撤兵ノ問題ニ付テハ日華間基本關係ニ関スル條約及付属文書ト矛盾スルカ如キ体ヲ避クル趣旨ヨリ日華間ニ成立スヘキ協定ニ基キ撤兵スヘキ旨ヲ明カニシタリ門戸開放ニ関連シテハ北支及蒙疆ニ関スル特殊地位ニ関シ規定ヲ挿入セシメ

シテモ將來ノ海運發展ノ見地ヨリ見テ先方ノ要求ニ応シ置ク方得策ト考ヘ之ヲ挿入シタル次第ナリ尤モ本邦モ同様船腹不足ニ悩ミ居ルニ鑑ミ其ノ時機ハ支那事變解決ノ緒ニ就キタル後トシ以テ米國ノ日華和平勸告ヲ促進セシムル含ミヲ持タセタル次第ナリ

(五) 兩國間ノ通商及金融提携

本項中金「クレヂット」米國政府ノ死藏スル過剩ノ金ヲ活用シテ我國カ本國及東亞開發上必要トスヘキ物資購入代金ノ決済ニ主トシテ充テントスルモノナリ

(六) 南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟活動

帝國ノ南方ニ対スル武力的進出ハ日米間ノ戦争ノ導火線トナル惧アルヲ以テ帝國ハ其ノ南方ニ対スル發展ハ武力ニ訴フルコトナク平和的手段ニ依ルモノナルコトヲ保障シ之ニ対応シテ米國側ニ於テ帝國ノ同方面ニ於ケル經濟的進出ヲ支持セントスル旨ヲ明カニシタルモノナルカ帝國ノ南方發展ヲ武力ニ訴ヘサルコトハ右ニ止マラス本了解案今般ノ基礎ヲ為スモノナリ

(七) 太平洋ノ政治的安全ニ関スル兩國ノ方針

本項ニ依リ欧州諸國ハ拘束セラルルモ帝國ハ束縛ヲ受ケ

ス尚米國へノ移民ニ付テハ「ハル」長官ハ本使ニ対シテ本問題ハ州ノ關係モアリ国内關係上困難ナリト語レル経緯モアリ余リ多キヲ期待シ難シ

日米会談ニ付テノ規定ハ先方ハ対内「ゼスチュア」トシテ其必要ナルコト終始主張シタルニ依リ特ニ反対スル程ノコトモナシト考へ存置シタルカ右ハ要スルニ會議ノ原則ヲ定メタルモノニ過キス手續上モ不備ノ点アルモ右ハ今後ノ話合ニヨリテ之ヲ判明セシムルコト適當ナル可シト思考ス

尚前述ノ了解事項ノ外東亜新秩序ノ問題大東亜共榮圈内ニ於ケル帝國ノ指導權承認ノ問題等ニ付テモ先方ト一応意見ノ交換ヲナサシメタルモ右ハ交渉ヲ紛糾セシムル空氣ヲ感知シタルニヨリ實質上ノ成果ヲ収ムルコトヲ主眼トシ之ヲ止メタリ

18 昭和16年4月19日 近衛臨時外務大臣事務管理より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案における対独關係等の問題点につき照会

案ヲ無視シテ我方ヲ圧迫スルコトナキヤ

五、米ノ対欧州戰態度ハ自國ノ福祉ト安全ニ対スル考慮ニヨリテノミ決セラルトアル処右ハ米カ英帝國ノ崩壊ヲ防ク為ニ必要ト認ムレハ本案ヲ無視シテ參戰スヘキ意圖ヲ表明セルモノニアラスヤ

六、米ハ西南太平洋ニ於ケル必要資源ノ獲得ニ付我國ニ對シ与フヘキ協力支持ノ具体的方法殊ニ米ノ協力支持ニ拘ラス相手方カ我方要求ヲ拒否スル場合ニ於ケル具体的手段如何尚右地域ニ於ケル我方移民ニ就キ考慮ストアルモ米國以外ノ地域ニ於テ如何ナル方法ニ依リテ我方要望ヲ實現セントスルヤ南西太平洋ノ範圍如何蒙州ハ右ニ含まレ居ラサルヤ

七、日米ハ欧州諸國カ将来東亜及南西太平洋ニ於ケル割讓併合ヲ容認セス日米ノミ之ヲ為シ得ル処米ハ右企圖ヲ有シ居ル次第ナリヤ又米ハ日本ノ平和的獲得ニ付斡旋スル意向ニテモ有スル次第ナリヤ

本 省 4月19日後發
第一七一号(大至急、館長符号)
貴電第二三四号ニ關シ

我方方針ハ兩三日ノ松岡外相ノ帰京ヲ俟テ慎重審議ノ上決定セラルヘキモ差当リ審議ノ参考上左ノ諸点ニ就キ貴見折返ヘシ回電アリタシ

一、本案ニ依リ我方ノ武力ニ依ル南進ヲ阻止シ英ノ背後ヲ確保シ米ハ太平洋ヨリ手ヲ抜き對英援助ニ専念シ得ルコトトナリ實質的ニハ三国同盟ノ精神ト背馳ストノ非難起ルコト無キヤ

二、我方カ対独信義ノ見地ヨリ本案ヲ拒否シ若クハ相當ノ修正ヲ加ヘ或種ノ措置ヲ採リタルタメ本案不成立トナレル以後ニ於ケル日米關係ノ見透シ

三、対独信義ノ見地ヨリ本案決定前日米共同シテ欧州戰ノ調停ヲ試ムルカ如キコトモ考へ得ル処右ノ如キコトノ可能性

四、本案成立ノ結果一応太平洋ノ波靜マルヘキモ若シ独伊カ勝ツ場合我方ノ立場不利トナルヘキハ勿論英米ノ勝ツ場合ニ於テモ第一次世界大戰ノ後ノ如ク英米共同シテ本

19 昭和16年4月21日 在米國野村大使より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日米諒解案における対独關係等の問題点につき見解報告

ワシントン 4月21日前發
本 省 4月21日後着

第二四四号(外機密、館長符号扱)
貴電第一七一号ニ關シ

当方意見左ノ通り
第一、本案カ三国同盟ノ精神ト背馳ストノ非難ノ起ルコトナキヤトノ御懸念ハ御尤モナリト存セラレ又事實米國政府当局ニ於テモ本案ニ依リ對英援助ニ専念セントスルノ意圖アルコトハ考へ得ル所ナルモ御指摘ノ点ニ付テハ左ノ如キ意見ヲ有ス

(イ) 本案成立スルモ帝國ノ三国條約第三条ニ基ク義務ハ嚴然トシテ存シ日米間ニ樞軸同盟ノ結果トシテノ戰爭ノ危險ノ存在スルコトハ現在ト変リナク從ツテ英ハ勿論米ノ背後ヲ確保スルコトトハナラス米カ大西洋戰ニ必要ナル一部兵力ヲ除キ太平洋ヨリ遂ニ手ヲ引クカ如

キコトナカルヘシト観測ス此ノ点ハ日蘇中立条約ヲ結
ヒテモ満州ヨリ兵ヲ退キ得サルト同様ナリ

(ロ) 本案ニヨリ日米両国ノ行動ヨリ生スル日米戦争延テ
ハ米独戦争ノ危険ハ減殺セラルルモノト認メラレ一方
本案成立後米ノ対英援助ハ強化セラルルナランモ帝国
ハ米國ノ積極的欧州戦参加ヲ本了解ニ依リ牽制シ得ル
コトトナリ右ハ独ノ米ト事ヲ構フルコトヲ欲セサル事
情ニモ合致シ三国条約ノ精神ヲ生カスコトトモナル次
第十ナリ

(ハ) 本案成立セハ帝国ノ国際政局ニ対スル発言権ハ増大
スルコトトナリ帝国トシテ右発言権ヲ活用シテ独ノ為
ニ有利ニ計ルコトヲ得ヘシ

第二、本案不成立ノ場合ハ全般的見地ヨリスレハ日米関係
ハ悪化ノ一路ヲ辿ルモノト見ラレ日米戦争ノ危険増大ス
ト認メラル殊ニ帝国ノ武力ニ依リ南進スル場合ハ戦争ノ
可能性大ナルヘク然ラストスルモ米國ノ欧州戦争参加ノ
機運熟スルニツレ日米関係ハ次第二悪化シ経済圧迫ハ更
ニ強化セラレ結局戦争ノ危険増大スト観測セラレ
第三、ノ点ニ付テハ当方ニ於テモ相当積極的ニ米國政府内

生産物資ノ取得、企業権ノ許与ニ付斡旋等ノ問題ヲ討議
スルコトヲ考慮シ居レリ詳細ハ今後交渉ノ際判明スルコ
トト致シ度シ尚前記ノ問題及移民ニ付テハ米國ノ英領諸
地域、蘭印等ニ対スル発言権ハ現ニ増大シツツアルニ鑑
ミ其ノ斡旋ハ相当有効ナリト認メ差支ナカルヘシ
又南西太平洋ノ範圍ハ濠洲ヲ含マサルモノト一応了解ア
リタシ

第七、米國ハ南西太平洋諸島ニ付テハ領土獲得ノ意思ハナ
カルヘキモ共同使用等ノ形式ニテ使用ノ可能性アリ又米
ハ我方ノ平和的獲得ニ付斡旋スル意向目下ノ所ハナキモ
ノト認ム

之ヲ要スルニ本了解ハ日蘇中立条約ノ場合ト同シク帝国
國策ノ基調ナル枢軸同盟ノ論理的發展ト考ヘラレ枢軸同
盟ノ基礎タル三国条約第三条ノ効力ハ何等ノ影響ヲ受ケ
サルコトハ特ニ指摘致シ度キ所ナリ本使ノ所見ヲ以テス
レハ米國ヲ今日ノ状態ニ放置スルニ於テハ米國ノ参戦及
日米戦争勃発ノ最悪ノ場合ニ早晩到達スヘキコトハ覚悟
セサルヘカラスシテ今ニシテ之ヲ打開シオクコトハ正ニ
枢軸同盟諸國ノ大局ノ利益ニ合致スルモノト認ム

部ノ意向ヲ「サウンド」セシメ見タルモ今日ノ如ク日米
關係緊迫シ居ル状態ニテハ其ノ可能性ナキモノト認ム尤
モ本了解ニテモ成立シ気分カ変リタルトキハ其ノ可能性
ハ多クナルモノト観測ス

第四、御懸念ノ点ニ付テハ我方カ今日ノ緊迫セル日米關係
ヲ緩和シ太平洋ニ於ケル破局ヲ回避シ支那事変ヲ成ルヘ
ク速カニ処理シ各般ノ經濟資源確保ノ途ヲ開キ自由ナル
立場ニ於テ其ノ実力ヲ涵養スルコトカ戦後ノ御指摘ノ如
キ事態ニ対応スル最善ノ策ナリト認ム

第五、米ノ対欧州戦態度ハ戦争ヲ嫌悪スルノ牢固タル感情
ト自國ノ福祉及安全ノ防衛の考慮ニヨリテ決セラルル旨
ヲ本案ニ依リ明カニセシメントスルモノニシテ從ツテ本
案ヨリスレハ米國ハ独逸側ノ挑戦ナキ限り英國ヲ援ケテ
独逸ヲ攻撃スル為積極的ニ参戦スルコトハ為ササルヘキ
旨ノ意圖ヲ一応表明シタルモノト解シ差支ナカルヘシ尤
モ本案ヲ無視シテ米國カ参戦スレハ枢軸同盟ニ依リ帝国
モ独自ノ行動ニ出テ得ルコト勿論ナリ

第六、南西太平洋ニ於ケル資源獲得ニ付我方ニ対シ与フヘ
キ協力及支持ニ付テハ具体的ニハ米國ノ既得權益割込、

本電ハ陸海軍トモ熟議ノ上オ答ス

20 昭和16年4月23日

松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

報道關係への機密漏洩防止につき注意喚起

本省 4月23日後発

第一七六号(大至急、外機密、館長符号)

二十三日ノ東京日々ハ二十一日華府發特電トシテ貴電第二
三四号ノ件ヲ示唆ストモ考ヘラルルカ如キ報道ヲ掲載シ居
リ又同盟側ニモ両三日前非發表電トシテ同様ノ報道入りタ
ルニ非スヤト疑ハルル節アル処斯クテハ漸次機密漏洩防止
至難トナルヘキニ付貴地及紐育ニ於テモ邦人社會特ニ邦人
通信員等ニ漏レサル様致度シ

21 昭和16年4月23日

在米國野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

機密漏洩防止につき回答

ワシントン 4月23日後発
本省 4月24日前着

第二四七号（外機密、館長符号扱、大至急）

当方ニ於テハ關係者一同機密洩洩防止ニ充分戒心シ居リ米
国側ニ於テモ国務長官通信長官海軍長官ノ三人ノミ承知シ
居ル趣ニモアリ新聞記者等トノ接触ニハ特ニ注意セシメ居
リ今後トモ充分注意ノ所存ナルカ貴方ニ於テモ御裁量ニ依
リ必要ニ応シ掲載禁止処分等至急御考慮相成度シ既ニ御氣
付ノコトトハ存スルモ為念

尚東日特電当方参考迄電報アリタシ

22 昭和16年4月30日 松岡外務大臣より
在米国野村大使宛（電報）

日米諒解案の英文通報方要請

本省 4月30日後発

第一八七号（館長符号、機械）

貴電第二三四号英文大至急電報アリ度シ

23 昭和16年4月30日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛（電報）

日米諒解案の英文通報

estrangement, it is the sincere desire of both
Governments that the incidents which led to the
deterioration of amicable sentiment among our peoples
should be prevented from recurrence and corrected in
their unforeseen and unfortunate consequences.

It is our present hope that, by a joint effort, our
nations may establish a just peace in the Pacific; and by
the rapid consummation of an entente cordiale, arrest, if
not dispel, the tragic confusion that now threatens to
engulf civilization.

For such decisive action, protracted negotiations
would seem illsuited and weakening. We, therefore,
suggest that adequate instrumentalities should be
developed for the realization of a general agreement
which would bind, meanwhile, both governments in
honor and in act.

It is our belief that such an understanding should
comprise only the pivotal issues of urgency and not the
accessory concerns which could be deliberated at a

「日米諒解案」への対応

別電 四月三〇日付在米国野村大使より松岡外務大

臣宛第二五六号

日米諒解案英文

ワシントン 4月30日後発

本省 5月1日前着

第二五五号（極秘、館長符号）

貴電第一八七号ニ関シ

英文別電第二五六号（至急報、八本分割）^{（編注）}ノ通（本電ハ館
長符号ニ組ミ居ラサルニ付御注意ヲ請フ）

（別電）

ワシントン 4月30日後発

本省 5月1日後着

第二五六号

The Governments of the United States and of Japan
accept joint responsibility for the initiation and
conclusion of a general agreement disposing the
resumption of our traditional friendly relations.

Without reference to specific causes of recent

Conference and appropriately confirmed by our
respective Governments.

We presume to anticipate that our Governments
could achieve harmonious relations if certain situations
and attitudes were clarified or improved; to wit:

1. The concepts of the United States and of Japan
respecting international relations and the
character of nations,
2. The attitudes of both Governments toward the
European War,
3. The relations of both nations toward the China
affair,
4. Naval, aerial and mercantile marine relations in
the Pacific,
5. Commerce between both nations and their
financial cooperation,
6. Economic activity of both nations in the
Southwestern Pacific area,
7. The policies of both nations affecting political

stabilization in the Pacific.

Accordingly, we have come to the following mutual understanding subject, of course, to modifications by the United States Government and subject to the official and final decision of the Government of Japan.

I. The concepts of the United States and of Japan respecting international relations and the character of nations

The Governments of United States and of Japan might jointly acknowledge each other as equally sovereign states and contiguous Pacific powers.

Both Governments, assert the unanimity of their national policies as directed toward the foundation of a lasting peace and the inauguration of a new era of respectful confidence and cooperation among our peoples.

Both Governments might declare that it is their traditional, and present, concept and conviction that nations and races compose, as members of a family, one

household; each equally enjoying rights and admitting responsibilities with a mutuality of interests regulated

by peaceful processes and directed to the pursuit of their moral and physical welfare, which they are bound to defend for themselves as they are bound not to destroy for others.

Both Governments are firmly determined that their respective traditional concepts on the character of nations and underlying moral principles of social order and national life will continue to be preserved and never transformed by foreign ideas or ideologies contrary to those moral principles and concepts.

II. The attitudes of both Governments toward the European War

The Government of Japan maintains that the purpose of its Axis Alliances was, and is, defensive and designed to prevent the extension of military grouping among nations not directly affected by the European War.

Kai-shek regime to negotiate peace with Japan.

- a. Independence of China
- b. Withdrawal of Japanese troops from Chinese territory, in accordance with an agreement to be reached between Japan and China
- c. No acquisition of Chinese territory
- d. No imposition of indemnities
- e. Resumption of the "Open Door"; the interpretation and application of which shall be agreed upon at some future, convenient time between the United States and Japan
- f. Coalescence of the Governments of Chiang Kai-shek and of Wang Ching-wei
- g. No large-scale or concentrated immigration of Japanese into Chinese territory
- h. Recognition of Manchukuo

With the acceptance by the Chiang Kai-shek regime of the aforementioned Presidential request, the Japanese Government shall commence direct peace negotiations

The Government of Japan, with no intention of evading its existing treaty obligation desires to declare that its military obligation under the Axis Alliance comes into force only when one of the Parties of the Alliance is aggressively attacked by a Power not at present involved in the European War.

The Government of the United States maintains that its attitude toward the European War is, and will continue to be, determined by no aggressive alliance aimed to assist any one nation against another. The United States maintains that it is pledged to the hate of war, and accordingly, its attitude toward the European War is, and will continue to be, determined solely and exclusively by considerations of the protective defense of its own national welfare and security.

III. China Affairs

The President of the United States, if the following terms are approved by His Excellency and guaranteed by the Government of Japan, might request the Chiang

with the newly coalesced Chinese Government, or constituent elements thereof.

The Government of Japan shall submit to the Chinese concrete terms of peace, within the limits of aforesaid general terms and along the line of neighborly friendship, joint defence against communistic activities and economic cooperation.

IV. Naval, aerial and mercantile marine relations in the Pacific

a. As both the Americans and the Japanese are desirous of maintaining peace in the Pacific, they shall not resort to such disposition of their naval forces and aerial forces as to menace each other. Detailed, concrete agreement there of shall be left for determination at the proposed joint Conference.

b. At the conclusion of the projected Conference, each nation might dispatch a courtesy naval squadron to visit the country of the other and signalize the new era of peace in the Pacific.

c. With the first ray of hope for the settlement of China affairs, the Japanese Government will agree, if desired, to use their good offices to release for contract by Americans certain percentage of their total tonnage of merchant vessels, chiefly for the Pacific service, so soon as they can be released from their present commitments. The amount of such tonnage shall be determined at the Conference.

V. Commerce between both nations and their financial Cooperation

When official approbation to the present understanding has been given by both Governments, the United States and Japan shall assure each other to mutually supply such commodities are as respectively available or required by either of them. Both Governments further consent to take necessary steps to the resumption of normal trade relations as formerly established under the Treaty of Navigation and Commerce between the United States and Japan. If a

new commercial treaty is desired by both Governments,

it could be elaborated at the proposed Conference and concluded in accordance with usual procedure.

For the advancement of economic cooperation between both nations, it is suggested that the United States extends to Japan a gold credit in amount sufficient to foster trade and industrial development directed to the betterment of Far Eastern economic conditions and to the sustained economic cooperation of the Governments of the United States and of Japan.

VI. Economic activity of both Nations in the Southwestern Pacific Area

On the pledged basis of guarantee that Japanese activities in the Southwestern Pacific area shall be carried on by peaceful means, without resorting arms, American cooperation and support shall be given in the production and procurement of natural resources (such as oil, rubber, tin, nickel) which Japan needs.

VII. The policies of both nations affecting political

stabilization in the Pacific

a. The Governments of the United States and of Japan will not acquiesce in the future transfer of territories or the relegation of existing States within the Far East and in the Southwestern Pacific area to any European Power.

b. The Governments of the United States and of Japan jointly guarantee the independence of the Philippine Islands and will consider means to come to their assistance in the event of unprovoked aggression by any third Power.

c. Japanese immigration to the United States and to the Southwestern Pacific area shall receive amicable consideration on a basis of equality with other nationals and freedom from discrimination.

Conference.

a. It is suggested that a Conference between delegates of the United States and of Japan be held at Honolulu and that this Conference be opened for the

United States by President Roosevelt and for Japan by Prince Konoye. The delegates could number less than five each, exclusive of experts, clerks, etc.

b. There shall be no foreign observers at the Conference.

c. This Conference could be held as soon as possible (May 1941) after the present understanding has been reached.

d. The agenda of the Conference would not include a reconsideration of the present understanding but would direct its efforts to the specification of the prearranged agenda and drafting of instruments to effectuate the understanding. The precise agenda could be determined upon by mutual agreement between both governments.

Addendum.

The present understanding shall be kept as a confidential memorandum between the Governments of the United States and of Japan.

The scope, character and timing of the announcement of this understanding will be agreed upon by both Governments.

編注 分割個所不明

24 昭和16年5月3日

松岡外務大臣より
在米国野村大使宛(電報)

日米諒解案に対し我が方オーラル・ステートメントおよび日米中立条約の申入れ

別電 五月三日付松岡外務大臣より在米国野村大使

宛第一九一号

松岡外務大臣のオーラル・ステートメント

付記一 右別電訳文

付記二 五月三日連絡会議において了解済の対米中

間回答要旨

本省 5月3日後発

第一九〇号(極秘、館長符号、大至急)

屢次ノ貴電詳細拝読貴方ヨリ觀ラレタル日米關係特ニ欧州戦争トノ關係ニ於ケル米國現下ノ情勢ニ鑑ミ容易ナラサル

御苦慮ノ段重々諒察ス唯当方ヨリ見タル日米關係乃至東亞及欧州戦局等殊ニ日独伊同盟關係ト日蘇中立条約締結以來ノ機微ナル日蘇關係及ヒ支那ニ対スル其ノ影響乃至ハ更ニ大東亞共榮圈特ニ南洋方面ニ於ケル同条約ノ影響等凡ユル角度ヨリ精密ナル觀察ヲ遂クルノ要アリ旁々本大臣ニ於テ適確ナル意見ヲ決定スルニハ相当時日ヲ要スルハ当然ノ儀ニシテ(尚帛京後持病ノ氣管支「カタル」ニテ数日引籠リヲ余儀ナクセラレ漸ク本月初メテ登庁シタル次第ナリ)此ノ点御諒察ニ難カラサルコトト信ス然シ此上何等挨拶セシテ過スコトハ如何カト思ハルルニ付不取敢中間的解答トシテ別電(英文)ヲ「ハル」長官ニ本大臣ノ Oral statement トシテ手交セラルルト同時ニ貴大使限りノ即席ノ思付キトシテ可成迅速ヲ尊フ趣旨ヨリシテ今般本大臣カ蘇連ト結ヒタル中立条約ノ線ニ沿ヒテ(但シ不可侵ノ点ハ之ヲ除外ス又比島ニ付テハ同島ヲシテ永世中立ヲ保持セシメ且同島ニ於テ日本臣民ニ対シ無差別待遇ヲ与フルコトヲ条件トシテ日米共同ニ其独立ヲ保障スル旨ノ条項ヲ包含セシメ差支ナシ)アツサリト簡單明瞭ナル日米中立条約ヲ締結スルコトトシテハ如何(但シ三國条約ニ依ル義務發動スル際ハ例外

ナルコト云フ迄モナシ)トノ趣旨ヲ同長官ニ輕ク告ケラレズル思付ノ成立スル余地アリヤ否ヤヲ「サウンド」セラレ度シ米國ノ伝統ヨリ云ヘハ中立条約ノ如キモノハ容易ニ受付ケストハ思ハルルモ(上院批准ト云フ極メテ面倒ナル問題モアリ)此ノ際ノ事故或ハ一縷ノ望ナシトモ限ラレサルヘク又判然ト一縷ノ望モナシト云フ事実ヲ突止メル丈ニテモ日米諒解案ニ關スル考慮ヲ繼續スル上ニ於テ有益ナル參考トナル次第ナリ

尚中立条約ヲ締結スル場合ト雖モ別ニ日米諒解案ノ線ニ副ヒ秘密諒解ヲ遂クルノ可能性ヲ断ツモノニハアラス要ハ此際何ハサテオキ先ス以テ公表シ得ルカカル条約ニ調印シ一種ノ外交的電撃戦ヲ行ハントスルノ意ナリ此趣旨ヲモ併セテ貴大使ノ御意見トシテ申添ヘラレタシ結果折返シ回電アリタシ

(別電)

本省 5月3日 発

第一九一号

Upon my arrival in Tokyo in the afternoon of April 22nd, I was apprised at once of the contents of the

「日米諒解案」への対応

project of an Agreement between Japan and America which was cabled by our Ambassador Admiral Nomura a few days prior to my return. I should have taken the matter up immediately, but I could not devote my attention to any question other than reporting on my recent journey to Europe and taking steps to complete the procedures necessary in putting into effect the Pact of Neutrality concluded at Moscow between Japan and the U.S.R. After disposing of them, I have been obliged to remain inactive for a few days due to an indisposition. As a matter of fact, I have only been able to resume my works today. The project necessarily claims very careful and thorough consideration and it will take some days yet before I can express my opinion more or less definitely on the various and multitudinous points contained in the project, some of which are of a far-reaching character. I need hardly assure Your Excellency that I shall do my best to reach a speedy decision, as the nature of the project obviously calls for

as early a disposition as possible.

Having enjoyed the privilege of an acquaintanceship with the President since he was the Assistant Secretary of the Navy and having also had the pleasure of meeting Your Excellency at Washington some eight years ago, I feel that I would not be considered as making entirely useless and obtrusive remarks if I took the advantage of this opportunity frankly to bring to the knowledge of Your Excellency and, through Your Excellency, of the President, some of the things I observed during my recent trip in Europe. The German and Italian leaders are determined never to have peace by negotiation, they demand capitulation. They seem to regard that the war is as good as won even at the present stage,—with the expulsion of British soldiers from the Balkans, there is not one British soldier left on the European Continent from Norway to the Balkans and the Soviet Russia maintains neutrality, supplying them even with what they need. To support this view, they further point out

knows, in its wake, an eventual downfall of modern civilization. In that eventuality, there would be no more question of Democracy or Totalitarianism left on earth. Even at this moment, I shudder at the mere thought of such a dire possibility. The key to prevent or to hasten such a possibility to be translated into probability is largely held in the hands of the President of the United States. This has been my view ever since the outbreak of the European war.

I need hardly add that Japan cannot and will not do anything that might in the least degree adversely affect the position of Germany and Italy to whom Japan is in honour bound as an ally under the Tri-partite Pact. Such a caution on Japan's Part, I trust, will be readily appreciated by Your Excellency.

(中 絶 了)

四月二十二日午後著京ト同時ニ本大臣ハ之ヨリ先數日前ニ野村在米大使ヨリ電報越シテリタル日米間了解案ノ内容ハ

「日米諒解案」ハノ対応
1 untold misery and suffering of Humanity, entailing, who parties are thinking.
Of course, I reserve my own opinion on this point, but I must confess that my sole and primary concern is, as Your Excellency must know by my utterances on several occasions, that the American intervention is fraught with a grave danger of prolonging the war to the

通知ニ接シタリ、本大臣ハ即時本件ヲ考究スヘキナリシモ
當時本大臣ハ渡欧旅行ニ関スル報告ヲ為シ且日蘇間ニ調印
セラレタル中立条約ノ効力ヲ發生セシムルニ必要ナル諸般
ノ手續ヲ完了スルコト以外何等ノ問題ニ対シテモ注意ヲ分
散セシムルヲ得サリキ、右ヲ処理シタル後大臣ハ痼疾ノ為
數日間引籠リテ余儀ナクセラレ居レリ、事實本大臣ハ漸ク
今日ニ至リ事務ヲ執リ始ムルヲ得タル次第ナリ、本了解案
ハ極メテ慎重且徹底的ナル考慮ヲ要スヘク本案ニ包含セラ
ルル各種且多數ノ項目就中或ルモノハ極メテ影響スル所大
ナル性質ヲ帯ヒタルモノナルヲ以テ右ニ関シ多少トモ的確
ニ本大臣ノ意見ヲ表明シ得ル迄ニハ猶數日ヲ要スヘシ、本
案ノ性質上出来得ル限り迅速ナル処理ヲ要スルニ鑑ミ本大
臣ハ速カナル決定ニ到達スヘク全力ヲ尽スヘキコトヲ閣下
ニ対シ殆ト保障スルノ必要モナキ程ナリ大統領トハ海軍次
官補時代ヨリ面識アリ且閣下トハ八年程以前華府ニ於テ會
見スルノ光榮ヲ有シタル本大臣カ此ノ機會ヲ利用シ本大臣
最近ノ渡欧旅行ニ於テ觀得セル諸点ヲ率直ニ閣下ニ又閣下
ヲ通シ大統領ニ御知ラセスルハ全く無益且出過キタル言辭
ヲ弄スルモノニ非サルヘシト信ス、独伊ノ指導者ハ会谈ニ

惹イテハ近代文明ノ究極ノ没落ヲ齎ラスノ重大ナル危険ヲ
孕ムヘシト云フニ在ルコトヲ申上ケサル可カラス右ノ如キ
事態トモナラハ最早民主主義ト云フモ將又全体主義ト云フ
モ全テ地ヲ扨ヒテ問題トナラサルニ至ルヘク斯ル恐怖スヘ
キ可能性ハ想起スルタニ戰慄ヲ覺ユルモノナリ、斯ル可能
性力蓋然性ニ變化スルヲ阻止スルヤ若クハ促進スルヤノ鍵
ハ合衆國大統領ノ掌中ニ在ルコト大ニシテ右見解ハ夷ニ歐
州戰爭勃發以來本大臣ノ胸中ニ在リタルモノナリ
本大臣ハ日本ハ三国条約ニ基キ其同盟國トナリ居ル独伊ノ
地位ヲ些少ナリトモ毀損スルカ如キ何事ヲモ為スコトヲ得
ス又為ササルヘキコトヲ付言スルハ殆ト要ナキコトト思料
スルモノナルカ右日本側ノ戒心ハ閣下ニ於テ御諒承相成リ
得ルモノト信スル次第ナリ

(付記二)

対米中間回答要旨

昭和十六年五月三日
連絡會議ニテ了解スミ

日米兩國諒解案ニ関シ願議ヲ確定スルニハ猶若干ノ日子ヲ
要スヘキ処事ノ性質上此上未回答ノ儘ニ過クルコトモ如何
カト思ハルルニ就キ差当リノ措置トシテ不取敢左記要旨ヲ

依リテハ和平ヲ議セサル旨決心シ降服ヲ要求シ居ルモノニ
シテ戰爭ハ現段階ニ於テハ最早既ニ勝敗ノ決アリタルモノ
ト看做シ居ルモノノ如シ即チ前記指導者等ハ「バルカン」
ヨリノ英國兵驅逐ニ依リ歐州大陸ニ於テハ「ノルマン」
ニ至ル地域ニ於テ今や英國兵ハ一兵タリトモ残存シ居ラス且蘇
連ハ中立ヲ守ルト共ニ独逸ノ希望スル物資ヲ供給シツツアリト
称スルト共ニ更ニ右見解ヲ支持スルモノトシテ前大戰開始最初
ノ二十箇月後ニ於テ歐州大陸及其他ノ地方ニ存在シ居リタル諸
事態ト今次戰爭開始後同様ノ期日ノ経過後ニ於テ前記方面ニ存
在シ居ル諸事態トノ間ニ非常ナル差異アル旨ヲ指摘セリ

又本大臣ハ独伊ノ指導者カ米國ノ參戰ハ戰爭ノ長期化ヲ結
果スヘシトハ認ムルモ右ハ何等最後の決定ニ影響ヲ与フル
モノニ非ララスト信シ居ル旨ヲ付言スルノ要アリト存ス、閣
下並ニ大統領カ如何ナル見解ヲ有シ居ラルルニセヨ相手方
カ如何ナルコトヲ考慮シツツアルヤヲ知ラルルコトハ常ニ
価値アリ且興味アルコトト本大臣ハ信スルモノナリ尤モ本
大臣ハ此ノ点ニ関スル自己ノ意見ヲ留保スルモ、本大臣ノ
唯一且主要ナル關心ハ屢次ノ言明ニ依リ閣下モ既ニ御承知
ノ通り米國ノ干涉ハ戰爭ヲ長期化シ人類ノ悲劇ニ終ル結果

野村大使ニ電訓シ「ハル」長官ヲ通シテ「ルースヘルト」
大統領ノ考慮ニ資セシメントス

一、本大臣ハ帰朝後日猶淺ク事務山積多忙ナリシ上病氣ニ
テ引籠リタル為メ審議遅延ヲ來シタルモ本案ハ内容重大
多岐ナルニ鑑ミ目下政府ニ於テ折角考慮中ニテ勿論出来ル
タケ速ニ確答シ度キ意向ナリ

二、野村大使限り即席思付トシテ過般成立セル日蘇中立条
約ノ線ニ沿ヒタル日米中立条約(但シ不可侵規定ヲ省ク)
ノ締結可能ナリヲ輕ク探リ直ニ回電セシムルコトトス尤
モ比島ノ永世中立及同島ニ於ケル日本臣民ノ無差別待遇
ヲ条件トシテ日米兩國カ其ノ独立保全ヲ共同保障スル条
項ヲ包含セシメ差支ナシ

本条約成立スルモ兩國了解案ノ別途妥結ヲ妨ケサルコト
ハ勿論ナリ

三、大統領及國務長官ト外務大臣トノ特種個人關係ニ鑑ミ
過般ノ歐州旅行見聞ノ一端ヲ其參考ニ開陳スヘシ独伊ハ
必勝ヲ確信シ居リ英國屈伏セサル限り和平交渉ニハ必シ
難シトノ態度ヲ堅持シ又米國參戰スルモ戦局ノ最終的決
定ニハ實質的ニ何等影響スル所ナシト觀察シ居レリ

四、万一米国ニシテ参戦センカ右ハ人類及ヒ現代文明ノ没落ヲ招来スルコトノ可能性アルコト及現戦争ヲカカル可能性ヨリ一転蓋然ヲ帯ヒシオルヤ否ノ鍵ハ実ニ米大統領ノ手中ニ握ラレアリト説キ大統領ノ反省ヲ促ス

五、三国条約ノ下ニ同盟国タル日本ノ立場トシテ独伊ニ些ノ悪影響ヲ生スル事ニテモ為ス能ハス又断シテ為ササルコトヲ明確ニシ置クコト

25 昭和16年5月3日 在独国大島(浩)大使より
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外務大臣渡米説に関する新聞報道について

ベルリン 5月3日後発
本省 5月4日前着

第* 四八〇号(館長符号扱)

先般来松岡外相ノ渡米説当地ニ流布セラレ居リタル処四月三十日同盟ハ石井情報局「スポークスマン」ノ談話ヲ「キャリー」シ「外相ノ渡米ニ対シ独伊カ反対スルヤ否ヤハ独伊ニ尋ネラレタク米國ハ欧州戦争ニ関シ中立國ニシテ独伊ト交戦シ居ルモノニ非ス云々」ト述ヘタル旨伝ヘ本件流説カ

ヲ目的トスル秘密諒解案ノ提示アリタルコト

二、同案ハ日米間ノ友好關係ヲ恢復シ太平洋方面ニ戦争ノ波及ヲ防止スルヲ眼目トシ兩國力進ンテ欧州戦争ニ介入スル意向ナク兩國共ニ専ラ防禦的政策ヲ堅持スルコトヲ闡明シ且日支事變ノ処理及日米通商關係ノ正常化等ニ就テモ了解ヲ遂ケントスル趣旨ノモノナルコト

三、松岡大臣ニ於テハ本提案ハ米國カ太平洋方面ノ事態ヲ一応安定シ以テ全力ヲ対英援助ニ傾注セントスル底意ニ出ツルモノナルヤノ疑ヒ多分ニ存シ戒心考究ノ要アルモ帝國政府外交ノ基調カ三国同盟ニ存スルコトハ嚴然タル事實ニシテ今次米提案ヲ適宜処理スルコトニ依リ米國ノ参戦ヲ阻止シ以テ三国同盟本来ノ目的ニ副フカ如キ方向ニ向ケシムルコトモ可能ナルヘシトノ見地ヨリ折角対案ヲ研究中ナルコト

四、右ニ関スル廟議決定ニハ猶若干ノ日子ヲ要スルニ鑑ミ我方ハ中間的挨拶ノ意味ニテ松岡大臣ヨリ別紙ノ如キ「オーラル・ステートメント」ヲ野村大使ヲ通シ「ハル」長官ニ伝達セシムルト共ニ米國政府ノ真意ヲモ打診スル為野村大使限リノ措置トシテ日蘇中立条約ノ線ニ沿ヒタ

相当根拠アルヤノ印象ヲ与ヘ居レリ最近米カ事実上参戦ニ近キ対英援助ヲ行ヒ居リ独伊ニ対シ完全ナル敵性國家トナリ居ル事常識ニテ独逸新聞モ英國ト並ヒ米國ニ対シテモ仮借ナキ攻撃ヲ加ヘ居ル今日日本件ニ関シ独逸側カ表面何等ノ意思表示ヲ為サス新聞等モ之ヲ黙殺シ居レリト雖モ内心重大ナル關心ヲ寄セ居ル事明カナリト認メラル就テハ本件真相折返シ回電アリタシ

伊ヘ転電セリ

26 昭和16年5月4日 阪本(瑞男)欧亜局長 会談
オット在本邦独国大使
インデリ在本邦伊国大使

日米国交調整に関する阪本欧亜局長と駐日独・伊大使との会談録

五月四日阪本欧亜局長ハ伊国大使(午後五時)及独逸大使(午後七時)ヲ往訪シ実ハ松岡大臣ヨリ親シク内報ノ考ナリシモ同大臣伊勢神宮参拝ノ為昨夕離京セル為本官ニ於テ大臣ニ代リ通知スル次第ナリト前提シ

一、四月十六日米國政府ヨリ野村大使ヲ通シ日米国交調整ル中立条約案(三国条約ノ義務ト抵触セサルコトヲ明カニシ)ノ締結方ニ付米側ノ意向ヲ輕ク探ラシムルコトトシアルコト

五、本件ハ極秘ニ属シ駐日米國大使サヘモ承知シ居ラサル位ナルニ付今日ノ内報ハ「ヒットラー」總統、「リ」外相、「ム」首相、「チアノ」外相限リニ報告セラレ絶対外部ニ洩レサル様留意アリタキコトヲ述ヘタルニ対シ両大使何レモ右通報ニ対シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表シ事重大ナレハ早速本國政府ニ通報スヘキ旨約セリ右会談ノ際独大使ハ本提案ハ英米間ニ予メ了解ノ上提示セラレタルモノナルヘク充分警戒ノ要アルヘキモ之ヲ逆用シテ米國ノ参戦ヲ阻止シ得ハ妙ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ伊大使ハ本案ハ米國カ戦後英國ニ代位シテ支那及南洋方面ニ容喙シ日本ノ發展ヲ制圧セントスルモノナルヤニ認メラレ若シ本案受諾ノ場合ニハ日本ノ大東亞共榮圈建設ノ目的ハ画餅ニ帰スヘシトノ批評ヲ加ヘタルニ付欧亜局長ヨリ其ノ辺ハ固ヨリ松岡大臣ニ於テモ充分承知ノコトニシテ独伊政府トシテハ飽迄同大臣ヲ信賴セラレタク過般同大臣ト親シク意見ヲ交換セル独伊首脳部ハ充分同大臣ノ意向ヲ諒解セ

ラルルナラムト付言シ置タリ

27 昭和16年5月5日 松岡外務大臣より
在米国外務大臣宛(電報)

松岡外務大臣渡米の風説について

本省 5月5日後発

第三七三号(至急、館長符号扱)
貴電第四八〇号ニ関シ

本件ニ付テハ過般來在本邦独伊大使ヨリモ屢次照会アリタルニ対シ米國側ニテハ本大臣ノ渡米ヲ希望シ居レリト推測スヘキ筋ナキニ非サルモ自分トシテハ斯カル意向全然ナキ旨兩大使ニ回答シ之ヲ本國政府ニ電報セシメ置タリ
尚本大臣伊勢參宮ノ途次四日京都ニ於テ邦人記者ノ質問ニ對シ自分ハ米國ヲ知悉シ居ル故渡米ノ必要ナク寧ろ認識是正ノタメ「ル」大統領「ハル」長官ニ來テ實ヒタイ位ナリト答ヘ置タリ御参考迄右兩武官ニモ可然御伝ヘ請フ
伊ヘ転電セリ
貴電ト共ニ英、蘇、米ニ転電セリ

30 昭和16年5月7日

松岡外務大臣より
在米国外務大臣宛(電報)

我が方オーラル・ステートメントに対する米
國國務長官の応答振りにつき照会

本省 5月7日後発

第一九七号(極秘、大至急、館長符号)
往電第一九〇号ニ関シ

先方ノ出方ニ応シテ急速第二段ノ処置考慮ノ必要モアリ又國際情勢上本申入ハ瞬時ヲ争フ次第二付「ハル」長官ノ応答振り大至急御回電アリタシ

31 昭和16年5月7日

在米国外務大臣より
松岡外務大臣宛(電報)

我が方オーラル・ステートメントおよび中立
条約提案に関する米國國務長官との会谈につ
いて

ワシントン 5月7日後発
本省 5月8日前着

28 昭和16年5月6日 松岡外務大臣より
在米国外務大臣宛(電報)

在米國大使館における館長符号電報の取扱者
名につき照会

本省 5月6日後発

(館長符号)

貴館ニ於ケル館長符号取扱者名当方参考迄御回電アリタシ

29 昭和16年5月6日

在米国外務大臣より
松岡外務大臣宛(電報)

在米國大使館における館長符号電報の取扱者
名につき回答

ワシントン 5月6日後発
本省 5月7日前着

(極秘、館長符号)

館長符号ハ井口參事官ヲシテ保管セシメ書記官ヲシテ取扱ハシメ居ルモ長文乃至至急ヲ要スルモノハ場合ニ依リ堀内電信官、堀、梶原兩電信係官ヲシテ取扱ハシメタルコトアリ

第二七三号(館長符号扱)

貴電第一九一号ニ関シ

閣下ノ「オーラル・ステートメント」及中立条約ニ関シ七
日朝國務長官ニ会见シタリ

長官ハ本使ニ對シ國交調整ニ関スル貴使ノ努力誠意ハ充分之ヲ諒トシ深ク感謝スルトコロナルモ米國ハ今ヤ速カナル行動ヲ必要トスル時機ニ到達セリ too lateトナラサル前ニ交渉ノ要アリ「ヒトラ」主義ノ七ツノ海ニ迄及フハ忍ビ得サル所ニシテ米國ハ防禦ヲ目的トシ米國ノ權益擁護(各國平等ノ權利ナリト敷衍セリ)ノ為十年ニテモ二十年ニテモ飽迄抵抗スル決意ナリ勿論防禦的ナリト繰返シ余ノ同僚ハ皆余ニ對シ敏速ナル交渉ヲ勸告シ旁々 too lateトナラサル前ニ躊躇遠巡スルコトナク速カナル交渉ヲ要スル旨ヲ述ヘ日米交渉ノ開始方本使カ嘗テ見サル力ヲ込メタル語調ヲ以テ督促シタリ

尚中立条約(之カ不可能ナル場合先了解案ニアル趣旨ノ「ノート」交換ニモ言及シタリ)ニ付テハ長官ノ態度ハ政府ノ訓令ニ接シアラサル本使トハ此等ノ問題ニ触ルルハ一切無用ナリト見ルモノノ如ク触ルル意ナシ(本件ニ付首腦

部ノ意向ヲ内偵セシメタルニ了解案成立シタル後ニ於テハ
兎モ角此ノ際中立条約ノ如キ条約ヲ結フコトハ国内的ニ見
テモ不可能ニシテ且日米間ノ問題ハ概ネ了解案中ニ尽シア
ルヲ以テ之ヲ審議スルコト当面ノ急務ナル趣ナリ）長官ハ
更ニ了解案ニ於テモ兩國ノ為若干修正ヲ利トスル点ヲ認ム
ル旨語レリ本使ノ見ル所ヲ以テスレハ今ヤ国際情勢ノ緊迫
就中米國ノ態度ハ宣伝「ブラフ」又ハ腹ノサクリ合ヒ等ヲ
許スノ時機ニアラス我國ノ大局ヨリ見テ此ノ際大ナル「ス
テイツマンシップ」ヲ發揮シ兩國々交恢復ノ為ニ大決心ヲ
為スノ時機ナリト痛感スル次第ナリ話ノ間ニ松岡君ト等シ
ク自分モ「ヒトラー」ヲ知ルト云ヒ「I may be wrong」ト付
ケ加ヘタリ

尚「オーラル・ステートメント」ハ從來本件ニ関シテハ一
切極秘トシ私邸ニ於テ会见ヲ続ケ「オフ・レコード」ノ約束
ナルヲ以テ之ヲ手交スルコトハ差シ控ヘタルニ付御了承ア
リタシ
右ノ次第ニ付了解案ノ線ニ沿ヒ交渉開始方速ニ御回訓ヲ請
フ

承セリ電話ニテ申述ヘシ通り回訓ハ遅ク共明後日中ニハ発
出スル意向ナリ又本大臣ノ「オーラル・ステートメント」
ハ主トシテ大統領ノ閲読ニ供シ度キモノナルニ付キ至急右
ヲ「ハル」長官ニ手交シ大統領ニ供覧方依頼アリ度シ

34 昭和16年5月8日 在米國野村大使より
松岡外務大臣宛（電報）

日米交渉をめぐる米國情勢につき報告

ワシントン 5月8日前發
本 省 5月9日前着

第二七七号（極秘、館長符号）

往電第二七三号追補旁々左ノ通り

一、近時殊ニ国防法案通過後ニ於ケル米國ノ政治經濟ノ実
権ハ殆ト「ルーズヴェルト」ノ掌中ニ歸シ其ノ独裁的傾
向益々顕著ナルモノアリ華府ニハ凡ユル政客經濟人蟬集
シ其ノ盛況ハ嘗テ見サル処ナリ又一方新聞通信機關ノ重
ナルモノハ「ルーズヴェルト」ノ操縦スル所トナリ所謂
輿論ナルモノハ實質上大統領カ巧ニ作り居ル所ニテ例ヘ
ハ米國第一主義ヲ奉スル政客又ハ評論家等ノ言論ニ依リ

32 昭和16年5月8日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛（電報）
在米國大使館における館長符号電報の取扱
い
方法について
本 省 5月8日後6時30分發
（至急、館長符号）
大橋次官ヨリ若杉公使へ

館長符号ハ井口ヲシテ保管使用セシメラレタク長文且至急
ヲ要スル場合ニハ御來示ノ如ク電信係ヲシテ取扱ハシムル
コトナク書記官全部ヲ督励之ヲ分担セシメラレタク最近貴
館トノ往復電報内容ノ重要性ニモ鑑ミ右特ニ為念申進ス

33 昭和16年5月8日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛（電報）

米國國務長官を通じオーラル・ステートメン
トを大統領に供覧依頼方訓令

本 省 5月8日後7時30分發
第二〇〇号（至急、極秘、館長符号）
貴電第二七三号ハ本八日午前午後二回電話ノ趣旨ト共ニ了

テ「ルーズヴェルト」カ作ル所ノ輿論ヲ軟化シ若ハ変更
セシムルコトハ不可能ナル狀勢ナリ從テ「ルーズヴェル
ト」政策ヲ批判シ又ハ之ニ反スル言動ヲ為スモノハ利敵
行為乃至ハ「スパイ」トシテ葬リ去ラルル空氣ニシテ言
論ノ自由モ急速ニ失ハレツツアルヤノ觀アリ而シテ嘗テ
「ルーズヴェルト」ノ「ブレイン」ト称セラレタル人々
ハ漸次離反シ最近ニ於テハ僅カニ「ホプキンス」「ウオー
カ」(二十年來「ルーズヴェルト」ヲ後援シ第三期出馬ノ
際選舉事務長ヲ勤メ現ニ郵務長官)及「ハル」ノ如キ側
近者ノ助言与ツテ力アルモ重要國事ハ主トシテ大統領ニ
依リ決定セラレ居ルモノノ如シ本官カ曩ニ上申セル日米
外交調整案ハ大統領直裁事項トシテ大統領及前記三名ノ
外海軍長官之ニ加ハリ協議セラレタルコト確實ニシテ
「スチムソン」ヲ始トシ他ノ閣僚及國務省官吏ハ全部除
外セラレタルモノノ如ク「ハル」ハ國務次官等ニ対シ日
米問題ハ政府最高首脳部ニテ決定セラルヘキ旨申渡シタ
ル趣ナリ
尚序手乍ラ當大使館ニテモ相当利用價值ヲ認メオリ且貴
大臣ニ於テモ御懇意ノ間柄ニ在ル「ロイ・ハワード」ノ

如キハ過般ノ選挙及最近国防法案討議ニ際シ「ルーズヴェルト」反對ノ立場ニ在リシコトモ手伝ヒ目下大統領トハ疎隔シ居ル有様ナリ

二、米国人ノ大部就中大統領等カ抱ク世界觀即今次大戦ヲ「トータリテリアン」ト「デモクラシー」トノ争ト見ル点「トータリテリアン」カ個人ノ自由ヲ無視スルハ人道ノ敵ナリトスル点侵略ニ依ル領土變更ヲ許容セサル点侵略行為ハ假令一時的的成功スルモ必ス「シーザー」「ナポレオン」ノ如キ例ニ見ル如ク最後ニハ必ス失敗ニ歸スヘシト見ル点「デモクラシー」ノ牙城タル英国ヲ飽ク迄救援セントスル点英独戦ハ米独戦ニ転化セラルル可能性アル点等ニ付テハ今日ハ勿論今後ト雖モ何人ノ努力ヲ以テスルモ之ヲ變更セシムルコト不可能ナルヘク之ニ好意的忠言ヲ提言スルモノハ反ツテ敵ノ片割ナリトシテ疎ンセラハ有様ナリ而シテ今次欧州大戦ノ帰趨ニ付テハ戦争長期化スヘク此ノ間米国力大規模ニ対英援助ヲ為スニ於テハ独逸側(占領國ヲ含ム)ハ結局必ス崩壊ニ至ルヘシトノ希望の見解ヲ抱クモノ多ク中ニハ「リンドバーグ」等ノ如キ日本人ヨリ見テ妥当ノ意見ヲ抱懷スルモノアルモ

實ノ敵トシテ戦フ場合ノ為メ太平洋方面ニテ自強ノ策ヲ取り数年後完成スヘキ大海軍及大空軍ヲ以テ対日決戦ヲ試ムヘキ意向ナルカ如シ

又対日態度ニ付テハ朝野ヲ拳ケテ独伊ノ味方ナリトシテ不人気ナルコト之等兩國ニ次ク有様ナルカ本使親書捧呈ノ際大統領ハ雜談ニ入りタル際自分ハ日本ノ友人ナリト稱セラレタルコトアリ大統領並小數側近者カ日本ハ独逸、伊國ト国柄ヲ異ニシ必スシモ独伊ノ如ク侵略的ナラサルヲ認識シタルコト及日米接近ハ自國ノ為ニモ有利(絶対必要事ニアラサルコトニ注意セラレタシ)ナルコト等ヲ考慮スルニ至リシ有様ナリ

三、叙上ノ如キ情勢ナルヲ以テ今ニ於テ日米間ニ何等カノ手ヲ打タサルトキハ大統領等ノ対日接近機運モ冷却シ完全ナル經濟的断交ノ實現ヲ見ルヘク帝國トシテハ生存ノ為南方武力進出ヲ余儀ナクセラレ茲ニ全面戦争ニ發展スル危険性大ナルモノト考ヘラル而シテ日米國交ヲ恢復スルモノトシテ其ノ時期ヲ考察スルニ (イ) 欧州戦帰趨ノ明カナラサル現在 (ロ) 独逸カ決定的勝利ヲ得タル場合 (ハ) 大戦持久化シ双方共戦ニ倦ミタル場合ノ三ヲ拳ケ得ヘク

支持者ハ國民ノ少數ナリト認メラル

從ツテ米國トシテハ英國カ独逸ノ為徹底の敗北ヲ喫シタル後ハイサ知ラス今日ノ情勢ニ於テ英独和平調停ニ「イニシャチーヴ」ヲ執ルカ如キコトハ万ナカルヘク一意国防計画ノ遂行ニ努メ以テ対英援助物資ノ増大ヲ計ルト共ニ自國ノ画期的大軍備ヲ一日モ早ク完成セントコトヲ期シツツ他方既ニ実施シ居ル「パトロール」ヲ更ニ強化シ近ク「コンボイ」ヲ実施スヘク而シテ「コンボイ」ヲ行フトキハ戦争ヲ覚悟シテ之ヲ行フモノナルヲ以テ勢ノ赴ク所大戦加入ニ至ル危険性大ナルモノアリ殊ニ最近「バルカン」及近東ニ於テ英側ノ蒙リタル不利ナル戦線轉回ニ協力スル為參戰論遽ニ抬頭シツツアル点ハ最モ警戒ヲ要スル点ナリト思考ススル微妙ナル情勢ニ直面シ居ル米國トシテ日独兩國ヲ同時ニ敵性國トシテ持ツコトハ不利ナルカ故ニ米國側ニトリテ危険度ヨリ少キ日本ト國交ヲ調整セントスルコト一應領キ得ル所ニシテ所謂了解案ニ沿ツテ交渉ヲ開カントスルコトモ亦這般ノ消息ヲ裏書スルモノト信セラル然レ共之ヲ以テ米國我ニ組セリト見ルハ当ラス私カニ承知シタル所ニ依レハ米國カ日独兩國ヲ現

(イ) 兩國平等ノ立場ニ於テ妥協スルコトヲ基調トスルモノニシテ大戦カ独逸側ノ勝利ヲ以テ終ル場合不利ヲ來ス惧ナシトセサルニ顧ミ帝國トシテハ支那事變ヲ欧州大戦ニ先チテ解決シ自由ナル立場ニテ戦後ニ対処シ得ルノミナラス有利ナル条件ニテ国力ノ充實ヲ實現シ得ヘク從ツテ大戦後ニ於ケル対日英協力ヲ大ナラシムル利アリ (ロ) ハ全般的情勢トシテハ望マシキコトナルモ事帝國ニ関スル限り支那事變ノ重荷ヲ背負ヒタル儘対処セサルヲ得サルノミナラス国力ノ充實モ思フ儘ニナラス且帝國ノ要求モ第三國ニ依リテ抑制セラルル危険性アリ而モ果シテ独側ノ決定的勝利カ何時來ルヤハ何人モ保証シ得サル所ナリ (ハ) ハ(其ノ可能性甚タ少キモ) 夫レ迄ニ米國ノ大戦參加ノ公算多ク從ツテ永久ニ日米國交調整ノ機会ハ失ハルヘシ

右ノ危険等ヲ考慮ノ後日米國交恢復ノ時期ハ米モ成ルヘク速カニ實現スルヲ有利トストノ見解ヲ抱クニ至リシ次第ナリ

次日米國交恢復案ノ内容ニ付テハ三國條約ノ目的達成及日米戦争回避ヲ主題トシテ取扱ハントシタル処独ニ対スル

我国、英ニ対スル米ノ關係ヲ明カニスルコト支那事變、南方問題、査証、經濟問題等ヲ一体トシテ相互関連の取扱ハサルヲ得サルニ至リシ次第ニシテ今日ノ如キ日米間ノ空氣ニ於テ通商協定ノ如キ局部的問題ヲ玆ニ取上ケテ処理スルコトハ実現性極メテ薄クサリトテ哲學的乃至ハ思想的背景ニ立脚スル根本的解決即我國側トシテ東亞新秩序問題又ハ世界新秩序ニ立脚スル大戦和平案ノ如キヲ提案スルモ成功ノ望少ク却テ日本ノ真意ヲ疑ハルルニ過キサルノミナラス現ニ新秩序ノ承認大戦和平調停等ノ如キハ了解案作成ニ至ル間裏面工作ニ於テ幾度カ強硬ニ主張セシメタルモ到底之ヲ承諾セサルコトヲ確メ得タル次第ナリ(米國トシテモ侵略ニ依ル領土變更不承認戰爭行為否認原則論ヲ振りマハスコト必定ニシテ日米國交恢復ハ議論倒レトナル惧レ大ナリ)現ニ了解案討議ニ当リ米國側トシテハ

- 一、西國及他ノ國家ノ領土ノ保全及主權ノ尊重
- 二、他ノ國家ノ国内事項不干渉ノ原則ノ支持
- 三、商業上ノ機會均等ヲ含ム平等原則ノ支持
- 四、平和的手段ニ依リ現状ノ變更セラルル場合ヲ除キ太平洋ニ於ケル現状ノ不攪乱

次官へ若杉ヨリ
貴電拝承当館事務ノ都合上本件關係ノ長文且多数ノ發受電ヲ書記官ノミニテ処理セシムルコトハ長時間ヲ要シ(往電第二七二号ノ如キハ六名ガカリニテ六時間ヲ要セリ)今後交渉開始ニ伴ヒ本件關係電信ハ愈々多キヲ加フヘク瞬時ヲ争フ事務ノ取扱上手不足ノ書記官ノミニテコナシ得サルコト御了察ニ難カラスト存ス一方電信事務ノ輻輳ハ勿論他ノ館務ノ処理上大ナル支障ヲ来スヘキコトモ考慮セサルヘカラサル処幸当館電信課員ハ機密保持ノ点ニ付テハ嚴重戒心ノ上日夜真面目ニ精勵シ居ル次第ニテ貴電ノ次第ハアルモ機密保持ノ点ヨリスレハ何等遺憾ナキモノト認メラルルニ付本電信事務ハ原則トシテ書記官ヲシテ取扱ハシムルモ已ムヲ得サル場合隨時嚴重監督ノ下ニ堀内、堀、梶原ヲシテ手伝ハシムルコトト致度右特ニ御了承ヲ請フ尚当館手不足ナルニ付「シカゴ」(暗号ヲ当館ニ引揚ケ電信事務殆ントナシ)ノ川畑ヲシテ一時当館勤務ヲ命セラレ当館事務ヲ補助セシメラレ度ク右至急御取計ヲ請フ

ヲ執拗ニ主張シタルヲ相互ニ原則論ニ深入リセサルコトヲ提案シテ之ヲ押ヘタル事情アリ(即チ今日ノ場合西國相互ニ其ノ抱懷スル世界觀等ノ原則的論議ハ必要ノ最小限ニ止メテ現実ノ日米問題ニ善処スルコトヲ第一義トスヘク又多年積リ積リシ日米間ノ深刻且複雑ナル關係ヲ一挙ニ清算スルコトハ至難ナルモ若シ一度了解ノ方向ニ向ヘハ漸次ワタカマリモ解消シ次テ親善感情モ生シ来ルヘキヲ以テ斯ノ如キ形勢ヲ一日モ速カニ実現スレハ米國ノ対大戦態度ヲ牽制シ乃至ハ變更セラルルコトモ漸次可能トナルヘシ從ツテ此ノ際ハ先ツ実効ヲ挙クルコトニ重点ヲ置クヲ有利トスヘシトノ信念ニ立脚シテ實質ヲ取りタル次第ニシテ右重複ヲモ顧ミス玆ニ報告ス

35 昭和16年5月9日

在米國野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日米交渉關係電報の取扱ひ方法につき回答

ワシントン 5月9日後發
本省 5月10日前着

(極秘 館長符号)

36 昭和16年5月9日

松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案に対する我が方対案發出遅延事情
について

本省 5月9日後5時55分發

第二〇一号(館長符号)

貴電第二七七号、第二七九号、第二八一号、第二八二号ニ関シ貴方ノ情勢ハ本大臣ニ於テモ充分想察シ居ル所ニシテ貴大使ノ急キ居ラルル理由ヲ充分御察シヌ又本大臣自ラモ同様ノ感想ヲ有シ居ル事ハ申ス迄モ無之唯昨日電話ニテ申述ヘシ通り当方ニ於テハ我同盟國トノ關係日「ソ」關係東亞一般ノ情勢及国内ノ事情ヲモ慎重考慮スル必要アリ貴方御希望ノ如ク行キ成リ処置スル訳ニモ行カサル事ハ御諒察ニ難カラスト存ス昨日電話ノ通り相成可ク本九日中二回訓シ度キ所存ニテ打合中ナル処或ハ明日ニ延期セサルヲ得サルカト思ハルル已ムナキ事情アリ御含迄

37 昭和16年5月10日 松岡外務大臣より
在独国外務大臣宛(電報)

日米交渉開始に關し独国外側へは厳秘の旨訓令

本省 5月10日 發

第三九六号

本件ハ昨年以來ノ本大臣ノ考ニ由來スル事柄ニシテ野村大使ニ對シ赴任ノ際同大使ニ与ヘタル本大臣ノ訓令ハ貴大使ニ於テモ御熟知ノ通りニシテ赴任以來野村大使ニ於テモ機ヲ見テ隨時捨石ヲ打チツツ今日ニ至リタル次第ナリ本大臣滯歐中「ロイ・ハワード」(本大臣ノ旧友)ヲ介シ大統領モ本大臣ノ掃途米国立寄リヲ希望シ居タルモ事實時モ之ヲ許ササルノミナラス機宜ニモ適セスト思考シ一応謝絶シタル経緯モアリ其後莫斯科ニ於テ駐「ソ」米国外使(極メテ呢懇ノ間柄)ヲ通シテ直接大統領及國務長官ニ對シ(一)米国外參戰スヘカラス若シ參戰ノ曉ニハ既ニ一度ナラス明カニシ置キタル通り三國同盟條約ニ依リ日本ハ直ニ參戰スヘシ(二)大統領ハ須ラク日本乃至本大臣ヲ信シ蔣介石ニ日本ト直接和平交渉ヲ行フヘシト勸告シ之ニ聽カサレハ直ニ凡テノ援助ヲ絶ツヘシト通告セン事ヲ希望ストノ趣旨ヲ申送ラシメ

38 昭和16年5月11日 松岡外務大臣より
在米野村大使宛(電報)

日米交渉に關し秘密嚴守方訓令

本省 5月11日後9時1分發

第二〇九号(至急、館長符号、絶対極秘)

申ス迄モナキコト乍ラ本件ノ如キハ絶対極秘裡ニ取運ハルヘキモノニシテ東京ニテモ非常ニ警戒シテ取扱ヒ居レリ貴館員中ニテモ事務上之ニ関与スルコト絶対必要ノモノ以外ニハ断シテ御話アルヘカラス況ンヤ紐育ニ在ル財務官等ニ御内話アルコトハ絶対禁物ナリ
当方面ヘハ疾既ニ紐育方面ヨリ我財界方面ヘモ伝ハリ居レリ又独逸方面ヘモ「アメリカ」ヨリ或程度ノ消息既ニ伝ハリ居レリ
就テハ益々御警戒ヲ望ム為念
(欄外記入) 大臣口述せらる

39 昭和16年5月11日 松岡外務大臣
在本邦独国外使 會談

駐日独国外使が持参した日米国交調整に關す

タリ

斯ル経緯ヨリ米政府モ相当熟考ヲ重ネタル結果野村大使ト熟議ノ上一案ヲ案出シ同大使ヨリ之ヲ本大臣帰京直前我政府ニ申越シタリ然ルニ事極メテ極秘ヲ要スル關係上何レノ方面ニモ嚴秘ニ付シアリ且下極メテ慎重ニ考慮ヲ遂ケツツアリ

就テハ何レノ方面ヨリニテモ本件ニ関シ問合せアラハ貴大使ハ絶対ニ承知シ居ラスト御答ヘ置キアリタシ
尚日米間ニ如何ナル了解ニ達スルトモ三國條約ニ些カニテモ影響ヲ与フルカ如キ虞ノアルコトハ固ヨリ絶対ニ避クル決心ナリ

「リ」外相ハ大体ノ内容及本大臣ノ考ヘ方ヲ承知シ居レリ追テ何分ノ儀電訓アル迄同外相ニ對シテモ一切本件ニ言及ヲ避ケラルル様致シ度シ

此ノ点ハ本大臣ニ於テモ特ニ細心ノ注意ヲ払ヒ居リ決シテ「リ」ニ於テ誤解ヲ起スカ如キコトナキコトヲ確信ス

る独国外政府意見書

今次米国外大統領ノ提案カ大東亞共榮圈ニ於ケル日本ノ将来ノ行動ヲ如何ナル程度迄拘束スルニ至ルヘキヤハ日本政府自身カ最モ能ク判断シ得ヘキ地位ニ在ルコト勿論ナリ、独逸政府ハ今次提案ハ太平洋方面ニ於テ外觀上事態ノ緩和ヲ図リ之ニ依リテ米国内ニ於ケル反戰分子ノ危惧感ヲ除去シ以テ既定ノ參戰方向ニ邁進セントスル米大統領ノ深慮遠謀ニ出ツルモノト認ムルノ外ナシ、蓋シ米国外政府首脳部ノ參戰決意ヲ阻止シ得ヘキ唯一ノ途ハ米国外參戰カ必然的ニ日本ノ參戰ヲ導クヘシトノ事實ヲ明白ナラシムルコトニ在ルヲ以テ米国外大統領トシテハ先ツ以テ右ノ事實ヲ中和シ以テ欧州方面ニ對スル積極的行動ヲ容易ナラシメント企図シツツアルコト疑ナキ所ナリ

米国外政府ノ方針ハ戰爭宣言ヲ為サスシテ實際上ノ中立違反行為ヲ漸次激化シ(哨戒又ハ護送)之ニ對スル独伊ノ反撃ヲ俟チ以テ戰爭開始ノ責任ヲ枢軸國側ニ轉嫁セントスルニ在ルコト明白ナルヲ以テ独逸政府トシテハ日本政府カ對米回答ヲ發セラルルニ當リ

一、米国外政府ノ現ニ採リツツアル行動即チ哨戒又ハ護送ノ

如キ国際法違反ノ行為ノ継続ハ米國カ故意ニ戦争ヲ激発セシメムトスル行動ナリト認メラレ從ツテ必然的ニ日本ヲシテ参戦スルノ已ムナキニ至ラシムヘキコトヲ強調セラレ

二、米國政府ニ於テ此等行動ヲ差控フル場合ニ於テハ日本政府ハ米國提案ヲ研究スルノ用意アル旨ヲ明白ニ表示セラルルコト可然カト思考ス

本件ノ三國同盟條約締約國ニ對シ及ホスヘキ影響ノ重大ナルニ鑑ミ独逸政府ハ日本政府最終的解答ヲ發セラルルニ先立チ其ノ内容ヲ独伊兩國政府ニ内示セラレ其ノ意見ヲモ徵セラレムコトヲ懇望ス

40 昭和16年5月11日 在米國大使館付磯田(三郎)武官より
東条(英機)陸軍大臣宛(電報)

近く行われる大統領演説の内容についての武

官報告

ワシントン 5月11日前發
陸軍省 5月11日後着

第一〇一号

四、大統領演説案決定迄ニ交渉ヲ開始スルニアラザレバ米國輿論ニ奇跡的变化ヲ見ザル限り日米諒解ハ取上ゲ難キ事情ナル由(恫喝トシテノミ觀ラズ)
如上ノ事情ナルヲ以テ若シ遅クモ月曜(十二日)(演説案修正及演説案ノ印刷配布ト時間ヲ考慮ニ入レ)頃迄ニ回訓ヲ得バ辛ジテ間ニ合ヒ得ルモ其ヨリ遅レル時ハ当分ノ間日米間ノ國交回復ノ機會ヲ失スルト共ニ却テ日米國交ハ一段惡化スルモノト觀ルノミナラズ又米國ノ對独方針ハ更ニ硬化シ事態ノ急變測リ難キ情勢ナリ

41 昭和16年5月11日 在米國大使館付磯田武官より
東条陸軍大臣宛(電報)

コンボイは日米交渉を阻害するものにあらず
との米國側意向につき岩畔大佐より報告

ワシントン 5月11日前發
陸軍省 5月11日後着

第一〇二号

岩畔大佐ヨリ

一、「日米諒解案」への対応
一、十日夜半密使來リ「ハル」ノ言ナリトテ左ノ如キ旨ヲ

米國ノ對歐州戰態度ガ最近頓ニ硬化セルコトハ既ニ電報セル如クニシテ一切八日ノ閣議ニ於テ「コンボイ」等実施ノ方針ヲ決定シ來週水曜(十四日)大統領演説ニ於テ發表スベキコト略々確ナリ斯ノ如キ狀況ニ立チ至レバ日米諒解問題ヲ取リ上ゲルコトハ米國側モ之ヲ肯ゼザルト共ニ帝國トシテモ困難ナル立場ニ陥ルレアルヲ以テ對英援助問題ト日米諒解問題トノ關係ニ就キ確實ナル筋ヲ通ジテ當國首脳部ノ意向ヲ打診セシメタル所

一、商船護送等実施ノ腹案ハ既ニ約一箇月前内定セルガ日米諒解問題ヲ考慮シ大統領ノ裁量ニ依リ今日迄實施ヲ見合セタル趣ナリ

二、何時成立スルヤモ測ラレザル日米諒解問題ノ為無制限ニ引摺ラルルコトハ目下ノ事態之ヲ許サザルニ至リ旁々「スチムソン」等ノ強硬論モ有リ一昨八日ノ閣議トナリシ次第ナリ

三、日米諒解ノ話ヲ始ムルニ於テハ十四日發表セラルベキ大統領演説案(日本ヨリノ回答ヲ待チ最後の決定ヲ為スベク本十日夜モ「ハル」等ハ待機シアリ)ニモ相當ノ手心ヲ加ヘラルル可能性無キニシモアラズ

伝ヘタリ

「目下米國ノ企圖シアル『コンボイ』実行セバ日米諒解案ノ話ヲ進ムル上ニ困難ナル状態ノ發生ヲ予想セラルルモ米國トシテハ之ガ為日本ヲ窮地ニ陥ラシムルガ如キコトハ決シテ行ハザル考ヘナリ」ト

二、回訓案ニ對スル審議遅延ガ若シ米國ノ「コンボイ」ニ對スル考慮其原因ナリトセバ米國ノ態度前述ノ如クナルヲ以テ之ヲ憂慮スルノ要ナキモノト思惟ス

42 昭和16年5月12日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案に対する我が方対案の提示方訓令

別電一 五月一二日付松岡外務大臣より在米國野村大使宛第二〇五号

日米諒解案に対する我が方対案

二 五月一二日付松岡外務大臣より在米國野村大使宛第二〇六号

修正の理由および注意事項

本省 5月12日後發

第二〇四号（至急、外機密、館長符号）

往電第二〇一号二閱シ

当方修正意見別電第二〇五号ノ通又右修正理由等ハ別電第

二〇六号ノ通ナリ

就イテハ右修正方交渉至急御開始相成度

（別電一）

本省 5月12日午後0時発

第二〇五号（至急、外機密、館長符号）

両国了解（案）

日本国政府及米国政府ハ両国間ノ伝統的友好關係ノ回復ヲ目的トスル全般協定ヲ交渉シ且之ヲ締結センカ為茲ニ共同ノ責任ヲ受諾ス

両国政府ハ両国間ノ最近ノ疎隔ノ原因ニ付テハ特ニ之ヲ論議スルコトナク両国民間ノ友好的感情ヲ悪化スルニ至リタル事件ノ再発ヲ防止シ其ノ不測ノ發展ヲ制止スルコトヲ衷心ヨリ希望ス兩國共同ノ努力ニ依リ太平洋ニ道義ニ基ク平和ヲ樹立シ兩國間ノ懇切ナル友好的了解ヲ速カニ完成スルコトニ依リ文明ヲ覆没セントスル悲シムヘキ混乱ノ脅威

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念及國家觀念

日米兩國政府ハ相互ニ其ノ對等ノ獨立國ニシテ相隣接スル太平洋強國タルコトヲ承認ス

兩國政府ハ恒久ノ平和ヲ確立シ兩國間ニ相互ノ尊敬ニ基ク信頼ト協力ノ新時代ヲ画サンコトヲ希望スル事實ニ於テ兩國ノ國策ノ一致スルコトヲ闡明セントス

兩國政府ハ各國並ニ各人種ハ相摠リテ八紘一字ヲ為シ等シク權利ヲ享有シ相互ノ利益ハ之ヲ平和的方法ニ依リ調節シ精神的並ニ物質的ノ福祉ヲ追求シ之ヲ自ラ擁護スルト共ニ之ヲ破壊セサルヘク且後進民族ノ抑圧又ハ搾取ヲ排撃スヘキ責任ヲ容認スルコトハ兩國政府ノ伝統的確信ナルコトヲ闡明ス

兩國政府ハ相互ニ兩國固有ノ伝統ニ基ク國家觀念及社會的秩序並ニ國家生活ノ基礎タル道義の原則ヲ保持スヘク之ニ反スル外来思想ノ跳梁ヲ許容セサルノ鞏固ナル決意ヲ有ス

二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本及米國政府ハ世界平和ノ招來ヲ共同ノ目標トシ相協力シテ歐洲戰爭ノ拡大ヲ防止スルノミナラス其ノ速カナ

ヲ一掃センコト若シ其ノ不可能ナルニ於テハ速カニ之ヲ拡大セシメサランコトハ兩國政府ノ切實ニ希望スル所ナリトス

前記ノ決定的行動ノ為ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又優柔不斷ナルニ鑑ミ茲ニ全般協定ヲ成立セシムル為兩國政府ヲ道義的ニ拘束シ其ノ行為ヲ規律スヘキ適當ナル手段トシテ文書ヲ作成スルコトヲ提議スルモノナリ

右ノ如キ了解ハ之ヲ緊急ナル重要問題ニ限局シ會議ノ審議ニ譲リ後ニ適宜兩國政府間ニ於テ確認シ得ヘキ付隨的事項ハ之ヲ含マシメサルヲ適當トス

兩國政府間ノ關係ハ左記ノ諸点ニ付事態ヲ明瞭ニシ又ハ之ヲ改善シ得ルニ於テハ著シク調整シ得ヘシト認メラル

一、日米兩國ノ抱懷スル國際觀念並ニ國家觀念

二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三、支那事變ニ對スル兩國政府ノ關係

四、兩國間ノ通商

五、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六、太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

前述ノ事情ヨリ茲ニ左記ノ了解ニ到達シタリ

ル平和克復ニ努力ス

日本國政府ハ樞軸同盟カ防禦的ニシテ現ニ歐洲戰爭ニ參入シ居ラサル國家ノ戰爭參加ヲ防止スルニ在ルモノナルコトヲ闡明ス

日独伊三國條約ニ基ク軍事的援助義務ハ同條約第三條ニ規定セラルル場合ニ於テ發動セラルルモノナルコト勿論ナルコトヲ闡明ス

米國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ於テ一方ノ國ヲ援助シテ他方ヲ攻撃セントスルカ如キ攻撃的施策ニ出テサルヘキコトヲ闡明ス

米國政府ハ戰爭ヲ嫌惡スルコトニ於テ牢固タルモノアリ從ツテ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及將來ニ亘リ專ラ自國ノ福祉ト安全トヲ防衛スルノ考慮ニ依リテノミ決セラルヘキモノナルコトヲ闡明ス

三、支那事變ニ對スル兩國政府ノ關係

米國政府ハ近衛聲明ニ示サレタル三原則及右ニ基キ南京政府ト締結セラレタル條約及日滿支共同宣言ニ明示セラレタル原則ヲ了承シ且日本政府ノ善隣友好ノ政策ニ信頼シ直ニ蔣政權ニ對シ和平ノ勸告ヲ為スヘシ

四、兩國間ノ通商

今次ノ了解成立シ兩國政府之ヲ承認シタルトキハ日米兩國ハ各其ノ必要トスル物資ヲ相手国カ有スル場合相手国ヨリ之カ確保ヲ保証セラルルモノトス又兩國政府ハ嘗テ日米通商条約有効期間中存在シタルカ如キ正常ノ通商關係ヘノ復帰ノ為適當ナル方法ヲ講スルモノトス尚兩國政府ハ新通商条約ノ締結ヲ欲スルトキハ日米會談ニ於テ之ヲ考究シ通常ノ慣例ニ從ヒ之ヲ締結スルモノトス

五、南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

日本ノ南西太平洋方面ニ於ケル發展ハ平和的手段ニ依ルモノナルコトノ闡明セラレタルニ鑑ミ日本ノ欲スル同方面ニ於ケル資源例ハ石油、護謨、錫、「ニッケル」等ノ物資ノ生産及獲得ニ關シ米國側ハ之ニ協力スルモノトス

六、太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

A、日米兩國政府ハ比島ヲシテ永久中立ヲ保持セシムルコト及同島ニ於テ日本國民ニ對シ差別待遇ヲ為ササルコトヲ條約トシテ其ノ獨立ヲ共同ニ保障ス
B、米國ニ對スル日本移民ハ友好的ニ考慮セラレ他國民ト同等無差別ノ待遇ヲ与ヘラルヘシ

テート」セラレタル感ヲ与フル嫌アルカ為ナリ
又對支集團移民ニ關スル項目ハ固々米國ヘノ移民ニ付憤慨セル我國國民ヨリスレハ米ハ支那ニ對スル我移民迄ヲモ指圖スルモノナリヤトノ反感(ヨシ夫レカ誤レル反感ニセヨ)ヲ持ツ虞アリ依テ此ノ項モ亦削除スルコトトセリ
秘密ナレハ差支ナカルヘシトノ論モアルヘシト雖モ斯カルコトハ往々ニシテ漏ルルコトモアリ勝チニ付我方ニ於テモ予メ之丈ノ用意ハ致ス必要アリ
尚蔣側カ和平勸告ヲ受諾セサル場合米側ニ於テ援蔣行為ヲ停止スヘキ旨ノ約束ヲ別ノ秘密文書ニテ取付ケラルルコトト致シ度ク米側ニテ右ヲ不可能トスル事情アラハ責任者ノ確約ニテモ可ナリ

(三) 四ノA及C削除ノ理由ハ此ノ種事項ハ本案成立後ノ兩國間緊張緩和ヲ俟テ其ノ時ノ形勢ニ顧ミ必要アリトセハ交渉スルコトトスル方一層實際的ナリトノ意向ナリ

同Bノ事項ハ別個ノ了解事項トシ其實施ニ就テハ時機、方法、規模等特ニ慎重ナル考量ヲ要スヘシカカル事ハ我同盟國ニ与フル影響ヲモ深く考慮セサルヘカラス此點篤ト御含ミアリタシ

附則

本了解事項ハ兩國政府間ノ秘密覺書トス本了解事項發表ノ範圍性質及時期ハ兩國政府間ニ於テ協定スルモノトス

編注 本文——部分は後に「出来得ル限り速ニ」と修正(第49文書)。

(別電二)

本省 5月12日 發

第二〇六号(至急、外機密、館長符号)

往電第二〇四号ニ関シ

主タル修正ノ理由其ノ他注意事項左ノ通り

(一) 了解案第二項修正ノ理由ハ此ノ種事項ハ日本カ三國條約ニ參加シ居ル限り当然ノコトニシテ敢テ規定ノ要スラナキ次第ナルカ苟モ規定ヲ設クル以上ハ成ルヘク同條約トノ關係ヲ明瞭ナラシムルコト可然トノ理由ニ基クモノナリ

(二) 了解案三ニ関シ

各項目ヲ削除セルハ一々之ヲ項目トシテ掲ケ日米ノ間ニ了解ヲ遂クルコトハ恰モ米ヨリ是等ノ問題ニ付「デク

(四) 五(修正案ノ四)ノ第二項削除モ四ノA及C削除ト同一理由ニ依ル

(五) 六(修正案ノ五)ノ「武力ニ訴フルコトナク」ヲ削除セル理由ハ帝國ノ平和政策ハ近衛總理及本大臣ニ於テ從來屢々聲明セル通りニシテ南方ニ對スル我發展カ平和的手段ニ依ルヘキコトハ帝國ノ衷心ヨリ希望スル所ナリ然レトモ現下ノ國際情勢ハ未曾有ノ混乱ヲ示シ何時如何ナル變化アルヤモ知レス國際情勢將來ノ發展如何ニ依リテハ帝國トシテモ万ニ一ツ他ノ挑発アラハ武力行使ヲ余儀ナクセラルコトナキヲ保シ難シ然カモ今後右情勢カ如何ニ推移スルヤハ日本ノミカ独リ其動向ヲ決シウルモノニアラサルコト勿論ナリ此点ハ寧口淡白ニ申述フルコト却ツテ自他ヲ欺カサル所以ト信スルモノナリ

(六) 七(修正案ノ六)ノA削除ノ理由ハ帝國トシテハ現在ノトコロ比島ノ保障位カ限度ニシテ夫レ以上本項ノ如キ大ナル責任ヲトル用意ヲ有セサルヲ以テナリ

又同C中「及南西太平洋」ヲ削除セルハ此ノ種問題ハ必要ニ応シ帝國自ラ南西太平洋地域トノ直接交渉ニ依リ之カ實現ヲ図ルコト然ルヘシト認メラルルヲ以テナリ

(七) 日米会談ニ関スル規定全部ヲ削除セルモ其ノ代リ本案ノ効果ヲ見タル上日米双方ニ於テ必要ナリト認ムル場合ニハ大統領ト總理大臣又ハ之ニ代ルヘキ其他ノ代表者トノ間ノ会商ニ付考慮スル旨ノ公文ヲ交換セラレタシ

(八) 本案成立ノ場合ニ於ケル声明案ハ当方ニテ作成何レ電報スヘキニ付右子メ御含置アリタシ

43 昭和16年5月13日 松岡外務大臣より
在米国野村大使宛(電報)

野村大使が米国側に手交した我が方対案(英文)
報告方訓令

本省 5月13日前2時25分發

第二一四号(館長符号、外機密)

往電第二〇五号我方修正案ヲ米側ニ提示セララルニ当リテハ貴電第二五八号ノ英文ヲ必要ニ応シ改文セラレタルモノト思考セラレ從テ例ヘハ第六項「南西太平洋方面ニ於ケル兩國ノ経済活動」ニ関シテモ適宜修正ヲ施サレタルモノト信スルモ右ノ例ヘハ having in view that the Japanese expansion in the direction of the Southwestern Pacific

英文全文別電二九五号ノ通(六本続キ)但シ館長符号ニ紐シマラサルニ付御注意ヲ請フ

(別電)

ロンドン 5月13日前發
本省 5月13日夜着

第二九五号(臣達、館長符号)

¹¹⁾ The Government of the United States and of Japan accept joint responsibility for the initiation and conclusion of a general agreement disposing the resumption of our traditional friendly relations.

Without reference to specific causes of recent estrangement, it is the sincere desire of both Governments that the incidents which led to the deterioration of amicable sentiment among our peoples should be prevented from recurrence and corrected in their unforeseen and unfortunate consequences.

It is our present hope that, by a joint effort, our

一 「日米諒解案」への対応

is declared to be of peaceful natureノ如ク変更スル事然ルヘキヤニ存セラル此点ハ頗ル重要ナルニ付特ニ為念電報スル次第ナリ(原文ハ without resorting armsヲ省略セルノミニテハ不可ニシテ受諾シ難シ)尚爾余ノ項ニ付テモ氣付ノ点ハ追電スヘシ

本件交渉ノ重大ナルニ鑑ミ貴大使ヨリ十一日夜國務長官ニ手交セル我方修正案英文折返シ回電アリ度シ

44 昭和16年5月12日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

野村大使より米國國務長官に手交した我が方
対案(英文)報告

別電 五月一三日付在米国野村大使より松岡外務大

臣宛第二九五号

米國國務長官に手交した我が方対案(英文)

ワシントン 5月12日後發
本省 5月13日後着

第二九四号(極秘、館長符号)
貴電第二一四号ニ関シ

nations may establish a just peace in the Pacific; and by the rapid consummation of an entente cordiale, arrest, if not dispel, the tragic confusion that now threatens to engulf civilization.

For such decisive action, protracted negotiations would seem ill-suited and weakening. Both Governments, therefore, desire that adequate instrumentalities should be developed for the realization of a general agreement which would bind, meanwhile, both Governments in honor and in act.

It is our belief that such an understanding should comprise only the pivotal issues of urgency and not the accessory concerns which could be deliberated at a conference and appropriately confirmed by our respective Governments.

¹²⁾ Both Governments presume to anticipate that they could achieve harmonious relations if certain situations and attitudes were clarified or improved; to wit:

1. Concepts of the United States and of Japan

- respecting international relations and character of nations,
2. The attitude of both Governments toward the European War,
 3. The relations of both nations toward the China Affair,
 4. Commerce between both nations,
 5. Economic activity of both nations in the Southwestern Pacific area,
 6. The policies of both nations affecting political stabilization in the Pacific area.

Accordingly, we have come to the following mutual understanding:

1. The concepts of the United States and of Japan respecting international relations and the character of nations.
2. The Governments of the United States and of Japan jointly acknowledge each other as equally sovereign states and continuous Pacific powers.

order and national life will continue to be preserved and never transformed by foreign ideas or ideologies contrary to those moral principles and concepts.

- ⁽⁴⁾ 2. The attitude of both Governments toward the European war

The Governments of the United States and Japan make it their common aim to bring about the world peace; they shall therefore jointly endeavour not only to prevent further extension of the European war but also speedily to restore peace in Europe.

The Government of Japan maintains that its alliance with the Axis Powers was, and is, defensive and designed to prevent the nations which are not at present directly affected by the European War from engaging in it.

The Government of Japan maintains that its obligations of military assistance under the Tripartite pact between Japan, Germany and Italy will be applied in accordance with the stipulation of article 3 of the said

⁽³⁾ Both Governments assert the unanimity of their national policies as directed toward the foundation of a lasting peace and the inauguration of a new era of respectful confidence and cooperation among our peoples.

Both Governments declare that it is their traditional, and present, concept and conviction that nations and races compose, as members of a family, the household; each equally enjoying rights and admitting responsibilities with a mutuality of interests regulated by peaceful processes and directed to the pursuit of their moral and physical welfare, which they are bound to defend for themselves as they are bound not to destroy for others; they further admit their responsibilities to oppose the oppression or exploitation of backward nations.

Both Governments are firmly determined that their respective traditional concepts on the character of nations and the underlying moral principles of social

pact.

The Government of the United States maintains that its attitude toward the European War is, and will continue to be, directed by no such aggressive measures as to assist any one nation against another.

The United States maintains that it is pledged to the hate of war, and accordingly its attitude toward the European war is, and will continue to be, determined solely and exclusively by considerations of the protective defense of its own national welfare and security.

- ⁽⁵⁾ 3. The relations of both nations toward the China Affair

The Government of the United States, acknowledging the three principles as enunciated in the Konoye statement and the principles set forth on the basis of the said three principles in the treaty with the Nanking Government as well as in the joint declaration of Japan, Manchoukuo and China and relying upon the

policy of the Japanese Government to establish a relationship of neighborly friendship with China, shall forthwith request the Chiang Kai-shek regime to negotiate peace with Japan.

4. Commerce between both nations

When official approbation to the present understanding has been given by both Governments, the United States and Japan shall assure each other to mutually supply such commodities as are, respectively, available or required by either of them. Both Governments further consent to take necessary steps to the resumption of normal trade relations as formerly established under the Treaty of Commerce and Navigation between the United States and Japan.

5. Economic activity of both nations in the Southwestern Pacific area

As Japanese activities in the Southwestern Pacific area shall be carried out by peaceful means, American cooperation shall be given in the production and

procurement of natural resources (such as oil, rubber, tin, nickel) which Japan needs.

6. The Policies of both nations affecting political stabilization in the Pacific area

a. The Governments of the United States and Japan jointly guarantee the independence of the Philippine Islands on the condition that the Philippine Islands shall maintain status of permanent neutrality. The Japanese Subjects shall not be subject to any discriminatory treatment.

b. Japanese immigration to the United States shall receive amicable consideration on a basis of equality with other nationals and freedom from discrimination.

Addendum

The present understanding shall be kept as a confidential memorandum between the Governments of the United States and of Japan.

The scope, character and timing of the announcement of this understanding will be agreed upon by both Governments.

編注 本文——部分は後に第53文書で修正

45 昭和16年5月13日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛 (電報)

我が方対案の日本文も米國側に手交方訓令

本省 5月13日前11時30分発

第二一五号 (大至急) 館長符号、外機密)

往電第二一四号ニ関シ

本件ノ如キ重要文書ハ日本文ヲモ原文トスル必要アルニ付
当方修正案日本文至急米國側ニ手交シ置カレ度ク尙右英文
ハ当方ニ於テモ目下作成中ノ処本十三日中ニハ電報スノギ
ニ付御接受ノ上ハ改メテ右ヲ國務長官ニ手交アリ度シ

46 昭和16年5月13日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛 (電報)

米國國務長官ハ松岡外務大臣の覚書手交方訓令

別電 五月一二日付松岡外務大臣より在米國野村大

使宛第二一七号

松岡外務大臣の覚書

付記 右別電訳文

本省 5月13日後発

第二一六号 (至急) 館長符号、外機密)

遅滞ナク直ニ別電第二一七号ヲ國務長官ニ手交セラレ度シ

(別電)

第二一七号 (外機密) 至急) 館長符号扱)

Strictly Confidential

I feel it hardly necessary but in order to leave no room whatever for any misapprehension I wish to put the following on record at this juncture. It must have been clear from what I have often stated publicly or otherwise that my decision to follow the pourparler between Your Excellency and Ambassador Nomura and

open the present negotiation was based on the premises that the United States would not enter the European War and that the United States Government agree to advise Chiang Kai-shek to enter into a direct negotiation with Japan with a view to bring about peace between Japan and China at the earliest possible date. Of course it must have been plain from the start that on no other premises would or could Japan possibly come to any understanding of the sort held in view in the present negotiation.

(付記)

本大臣ハ心底ヨリ殆ト必要ナシト存スルモ一切ノ誤解ノ余地ヲ余ササル爲此際次ノ点ヲ記録ニ留メンコトヲ希望ス閣下及野村大使間ノ予備交渉ヲ取上ケ現在ノ会谈ヲ開始セシコトヲ本大臣力決意セル所以ハ米國カ欧州戦争ニ参加セサルヘキコト及米國政府力最モ速ニ日支間ニ平和ヲ招来セント欲シ蔣政権ニ対シ対日直接和平交渉開始方ヲ勧告スヘキコトニ同意スルコトヲ前提トセルモノナルコトハ本大臣

ヲ眼目トシ居リ本使ニ於テモ右御趣旨ニ副フヘク折角努力中ニテ一昨日十一日夜御来訓ニ従ヒ当方修正案ヲ提出シ目下先方ノ対案ヲ待チ居ル此ノ際御来示ノ如キ書キ物ヲ提出スルコトハ話合ヲ極メテ困難ナラシメ却ツテ了解ノ成立ヲ阻害スルモノト存セラルルニ付差当リ之カ手交ハ差控フルコトトシ參戰防止和平勧告ヲ速ニスルコトニ付テハ右話合中好機ヲ促ヘテ極力我主張ヲ貫徹スルコトニ努ムヘキニ付右御承認願タシ

48 昭和16年5月13日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案に對する我が方対案の英文

本 省 5月13日午後10時10分発
第二一九号(至急) 外機密(館長符号扱)

The Governments of Japan and the United States accept joint responsibility for the negotiation and conclusion of a general agreement concerning the resumption of our traditional friendly relations.

カ屢々公式ニ又ハ其他ノ方法ニ依リ言明シ来リタル処ニヨリ明瞭ナリ勿論前記以外ノ前提ニ於テハ日本ハ恐ラク本会谈ニ於テ考慮セラルルカ如キ種類ノ何等了解ニ到達スルコトナカルヘク又到達シ得サルヘキハ当初ヨリ明瞭ナリシ筈ナリ

47 昭和16年5月13日 在米國野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外務大臣の覚書米國側へ手交見合せ方意

見具申

ワシントン 5月13日後発
本 省 5月14日後着

第三〇四号(大至急) 外機密、館長符号)

貴電第二一七号ニ関シ(米ノ不參戰及蔣ニ対スル和平勧告問題ニ関スル覚書ノ件)

目下進行中ノ話合(「ハル」長官ノ云フカ如ク未タ「オフレコード」ノ「プライベート・トーキング」ノ時代ニシテ正式交渉ニ入り居ラス從ツテ了解案自体モ之カ線ニ沿ヒテ話合ヲナスヘキ程度ノモノタルコトハ承知ノ通りナリ)ハ素ヨリ御来電ノ眼点即チ米ノ參戰防止及蔣ニ対スル和平勧告

Without reference to specific causes of recent estrangement, it is the sincere desire of both Governments that the incidents which led to the deterioration of amicable sentiment between our peoples should be prevented from recurrence and arrested in their unforeseen and unfortunate consequences.

It is our earnest hope that, by a joint effort, the two nations will establish a just peace in the Pacific, and by the rapid consummation of an amicable understanding, arrest, if not dispel, the tragic confusion that now threatens to engulf civilization.

For such decisive action, protracted negotiations would seem ill-suited and weakening. We, therefore, suggest that adequate instrumentalities should be developed for the realization of a general agreement which would bind, meanwhile, both Governments in honor and in act.

It is our belief that such an understanding should

comprise only the pivotal issues of urgency and not the accessory concerns which would be deliberated at a later conference and appropriately confirmed by our respective Governments.

We presume to anticipate that our Governments could achieve harmonious relations if certain situations and attitudes were clarified or improved; to wit:

1. The concepts of Japan and the United States respecting international relations and the character of nations,
2. The attitudes of both Governments toward the European War,
3. The relations of both nations toward the China affair,
4. Commerce between both nations,
5. Economic activity of both nations in the South western Pacific area,
6. The policies of both nations affecting political stabilization in the Pacific.

the pursuit of their moral and physical welfare, which they are bound to defend for themselves as they are bound not to destroy for others. There should, of course, be neither oppression nor exploitation of the backward peoples.

Both Governments are firmly determined that their respective traditional concepts on the character of nations and underlying moral principles of social order and national life will continue to be preserved and never transformed by foreign ideas or ideologies contrary to those moral principles and concepts.

II. *The Attitudes of both Governments toward the European War*

It being the common aim of both Governments to establish world peace, they will join forces with a view to preventing the extension of the European war and restoring peace speedily.

The Government of Japan maintains that the purpose of the Tripartite Pact was, and is, defensive and

Accordingly, we have come to the following mutual understanding:

I. *The concepts of Japan and the United States respecting international relations and character of nations*

The Governments of Japan and the United States jointly acknowledge each other as equally sovereign states and contiguous Pacific Powers.

Both Governments assert the unanimity of their national policies as directed toward the foundation of a lasting peace and the inauguration of a new era of respectful confidence and cooperation between our peoples.

Both Governments declare that it is their traditional concept and conviction that nations and races compose, as members of a family, one household, under the ideal of universal concord (調和) with each equally enjoying rights and admitting responsibilities with a mutuality of interests regulated by peaceful processes and directed to

designed to prevent the participation of nations in the European War not at present involved in it.

The Government of Japan declares that there is no question that the obligation of military assistance under the Tripartite Pact comes into force in the case stipulated in Article three of the said Pact.

The Government of the United States declares that so far as its attitude toward the European War is concerned, it does not and will not resort to aggressive measures aimed to assist any one nation against another. The United States maintains that it is pledged to the hate of war, and accordingly, its attitude toward the European War is, and will continue to be, determined solely and exclusively by considerations of the protective defense of its own national welfare and security.

III. *The relations of both Nations toward the China Affair*

In appreciation of the Three Principles set forth in

the Konoye statement and the Treaty concluded with the Nanking Government upon the basis of the said statement and the Joint Declaration of Japan, Manchoukuo and China and also in reliance upon Japan's policy of friendship and good neighbour toward China, the Government of the United States will immediately request the Chiang Kai-shek régime to negotiate peace with Japan.

IV. *Commerce between both Nations*

When official approbation to the present understanding has been given by both Governments, Japan and the United States shall assure each other to supply mutually such commodities as are, respectively, available or required by either of them. Both Governments further consent to take necessary steps to the resumption of normal trade relations as formerly established under the Treaty of Navigation and Commerce between Japan and the United States. If a new commercial treaty is desired by both Governments,

it could be elaborated as soon as possible and concluded in accordance with usual procedure.

V. *Economic activity of both Nations in the South western Pacific Area*

Noting that Japanese expansion in the direction of the Southwestern Pacific is declared to be of peaceful nature, American cooperation and support shall be given in the production and procurement of natural resources (such as oil, rubber, tin, nickel) which Japan needs.

VI. *The policies of both Nations affecting political stabilization in the Pacific*

a. The Governments of Japan and the United States jointly guarantee the independence of the Philippine Islands provided that the latter observes perpetual neutrality and accords to the Japanese subjects a treatment equal to the Commonwealth citizens.
b. Japanese immigration to the United States shall receive amicable consideration on a basis of equality with other nationals and freedom from discrimination.

Addendum.

The present understanding shall be kept as a Confidential Memorandum between the Governments of Japan and the United States. The scope, character and timing of the announcement of this understanding will be agreed upon by both Governments.

編注 —— 部分は、後に第51文書で修正

49 昭和16年5月13日 松岡外務大臣より
在米国野村大使宛(電報)

我が方対案第四項の修正方訓令

本省 5月13日午後10時発

第二二〇号(至急)外機密、館長符号)

往電第二一〇五号我方修正案第四項両国間ノ通商中「日米会談ニ於テ」ナル字句ハ之ヲ「出来得ル限り速カニ」ト修正セラレ度シ

50 昭和16年5月13日

在米国野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

我が方対案の修正申入れは見合せたき旨意見
具申

フシントン 5月13日後発
本省 5月14日前着

第三〇五号(外機密、館長符号)

大臣(親展)

了解案ニ関シ機宜ニ適シタル御指示ニ接シ一同感奮致シ居ル処本了解事項ハ御承知ノ通先方ニ於テハ大統領、國務長官及郵務長官ノミ之ニ関係シ居リ他ノ閣僚ハ素ヨリ國務省官吏モ一切関与シ居ラサル都合モアリ今ヨリアレラ事務的ニ亘ル問題ヲ取扱フハ如何トモ考ヘラレ又御回訓案ハ既に先方ニ手交シテ説明モ一応終リタル関係モアリ屢々御回訓案ニ修正ヲ申出ツル事ハ我方ノ用意不十分ナルコトヲ表示スルコトトモナリ又本使ノ威信ヲ失墜スルコト甚シク殊ニ先方ヲシテ我ニ疑ヲ挿ム余地ヲ与ヘテ交渉ヲ紛糾セシムル惧アルヲ以テ今後ハ帝国トシテノ主要事項及本使限り含ノ御注意ハ兎モ角トシテ細部ニ亘ルコトハ本大使ニ一任セラ
ルルコト切望ニ堪ヘス

51 昭和16年5月14日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

我が方対案(英文)中の語句修正方訓令

本省 5月14日午後0時30分発

第二二二号(大至急、極秘、館長符号扱)

往電第二一九号我方修正案(英文)中日米兩國ノ國家觀念ヲ叙述セル箇所ノ中八絃一字ニ言及セル所ニ universal concord with トアルヲ universal concord based on justice and equity ト改メラレ度シ

(欄外記入) 大臣御承知 加瀬

52 昭和16年5月14日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案は現時点では非公式のものとする旨

米國側へ申入れ方訓令

本省 5月14日午後8時発

第二二四号(至急、外機密、館長符号)

往電第二〇四号ニ関シ

本件了解成立ノ我方国内手續ニ関シテハ機密保持並ニ迅速

処理ノ必要上枢密院トノ關係ヲ特ニ考慮シ置ク要アル処本件了解ハ "bind both Governments in honor and in act"

トアルニモ鑑ミ之ヲ外交交渉ノ途上成立セル一種ノ紳士協定ト解シ且本件了解ハ後日正式文書 (acte solennel) トシテ確認セラルヘキモノナルコトヲ明確ニシ今次了解其ノモノハ之ヲ枢密院ニ付議スルノ要ナキモノトシタキニ付(米側モ上院ニ付議スル意ナキモノト解ス) 貴電第二三四号七(D)ノ趣旨ヲモ取入レ「將來本了解ハ正式文書トシテ成文化セラルヘキモノトス」トノ趣旨ヲ本電冒頭引用ノ箇所ノ直後若ハ他ノ適當ノ箇所ニ挿入スルカ又ハ右趣旨ノ半公信ヲ貴大使ト「ハル」トノ間ニ交換セラルル様致度貴大使ニ於テ適當ト認メラルル時機ヲ選ヒ右予メ交渉シ置カレ度

53 昭和16年5月15日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

米國務長官へ手交の我が方対案の訂正方訓令

本省 5月15日後発

第二二九号(外機密、館長符号)

手交方再訓令

本省 5月15日後発

第二三〇号(至急、外機密、館長符号)

貴電第三〇四号ニ関シ

御来示ノ趣旨ハ一々了承セリ但シ貴電第二九五号其ノ一中 entente cordiale ノ語ハ amicable understanding ニ又貴電第二九五号其ノ四ノ第二節(現ニ欧州戦争ニ参加シ居ラサル國ノ參戰防止ノ項)ハ当方案文(往電第二一九号)ニ依ラレ度此際速ニ右二点ノ訂正方御取計アリタシ(尚往電第二二二号ノ訂正ハ既ニ御取計済ノコトト存ス為念)其ノ他ノ部分ニ付テハ大体趣旨ニ於テ当方英文モ貴方英文モ同様ナルニ付今直ニ取代ヘヲ為サス今後ノ御折衝中必要ニ応シ当方英文ニ近クスル様(特ニ貴電第二九五号其ノ一ノ末尾ノ at a conference ハ単ニ later 程度ニ又同電其ノ五ノ近衛三原則云々ノ部分ハ同原則ノミヲ謳ヒ其ノ他ハ條約及共同宣言自体ヲ諒承スル形式ニスルコト可然ト考フ)御配慮相成度シ

54 昭和16年5月15日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

独・伊との關係に鑑み松岡外務大臣の覚書を

本件日米了解案ニ関シテハ三國同盟ノ關係上独伊ニ対スル信義ノ問題及国内的考慮ヨリ五月四日欧亜局長ヲ格別ニ在京独伊大使ノ許ニ派シ内容ノ詳細ニハ触レス單ニ本件米側提案ノ次第及其ノ一部ヲ説明セシメ且米側ニ於テハ大統領國務長官外ニ、三ノ閣僚カ関知シ居ルニ過キササル程嚴秘ノ取扱ヲ為シ居ルニモ鑑ミ夫々「ヒトラ」總統、「リッペン」外相及「ムツソリーニ」首相、「チアノ」外相ノミニ内報シ外部ニハ絶對漏レサル様配意アリタキ旨念ヲ押サシメ置キタリ他方在独伊帝國大使ニ対シ此ノ上伏セ置クハ各般ノ考慮ヨリシテ却ツテ面白カラサル結果ヲ招来スル惧アリト認メラルルノミナラス在独日本大使ヨリ問合セアリタルヲ以テ十日別電第二三二一号(独宛第三九六号)ノ通り内報セル次第ナリ

蔣政権ニ対スル和平勸告ニ関スル我方要請ヲ文書ノ形ニテ
米側ニ申入レ置ク要アル次第ナリ右各項ハ我方修正案中ニ
取入レアルモ事柄ノ重要性ニ鑑ミ貴大使ノ立場ハ重々諒察
スルモ往電第二二七号御取計アリタシ

編注 第37文書参照

55 昭和16年5月15日

在米國野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

米國の対英援助などに関し米國國務長官との

会談について

ワシントン 5月15日後発
本省 5月16日後着

第三一〇号(外機密、館長符号)

昨十四日夜「ハル」長官ニ面会貴電ニ依リ日本案ノ支那事
變ノ項ニ在ルモノハ最初ノ案ニ在ル移民ヲ除キ各項目ヲ包
含スル旨説明シ置キタリ長官ハ事前支那ニ対シ又英國ニ対
シテ亘リヨツクル必要ヲ感スル旨ノ話アリタリ続イテ弁論
的態度ヲ避ケ普通ノ会話ノ態度ヲ以テ協調の話し合ヒ為セリ
先米國ノ「セキュリティ」ニ関シ話し合ヒ米國程國防上安

談内容ハ「グリユー」ニモ通報シアラサル旨語レリ對英上
陸作戦ニ付テハ困難ナルモアリ得ルコトト認ムル模様ナリ
又「ヘス」ノ「スコットランド」上陸ニ関連シ最近平和運
動ナキヤト問ヘル処平和運動ハ毫モ関知セサル旨又「ヘス」
ノ英國行ニ付テハ何等確實ナルコトハ知ラサルモ独逸政府
ノ一部分解ト見ラルル旨ノ話アリタリ

貴大臣「グリユー」会見及前回本使カ米艦隊カ新嘉坡ニ入
リ日本カ了解ニ依リ自縛自縛セラルルカ如キ場合ヲ指摘シ
タリシカ此ニ依リ余リ棄カ効キ過キ武力南進ニ對スル疑惑
解ケサル様ナルヲ以テ支那事變ヲ收拾シ其ノ惰力ヲ以テ約
束ヲ破リ南進スルカ如キコトハ絶対ニアリ得ヘカラスト
縷々説明セシカ充分納得スルニ至ラス例ヲ「ヒトラ」ニ
取リ自分ハ三十三年以來充分研究ヲ続ケツツアルカ条約ハ
結ンテハ破棄シ「ミュンヘン」協定亦然リト云ヒ「ナポレ
オン」モ亦六回和ヲ結ヒ忽チ之ヲ破棄シタリト語りタリ
本使ノ見ル所ニテハ長官ハ既ニ充分日本政府ノ政策意圖ヲ
知ルニ至リ且今日ハ我方提案ヲ為シ沈着ナル態度ヲ以テ先
方ノ出方ヲ待チツツアル次第ナルカ要スルニ米政府ニ熱ノ
アル間邪魔及妨害ノ入ラサル間ニ速ニ了解ヲ成立セシムル様凡

全ニシテ他國ヨリ侵入ヲ受クル危険ナキ國ハナク日本ヨリ
見レハ米國ノ參戰熱ハ不可解ナル趣ノ話ヲ為シタル処長官
ハ四月二十四日國際法学会ニ於ケル自分ノ演説ヲ読マレシ
ヤト云ヒ自分ハ南米ヲ知ルモノナルカ若モ「ヒトラ」ニ
シテ歐洲征服ノ後此方面ニ手ヲ延ハスナラハ其ノ中ノ數ヶ
國ハ忽チ彼ニ征服セラルル虞アリ而シテソレニハ制海權ヲ
必要トスルカ若シ英國征服セラレ英國ノ「クイスリンク」
カ其ノ海軍ヲ独逸ニ提供スルニ於テハ其ノコトハアリ得ヘ
シト大真面目ニ云フヲ以テ英國海軍ハ独逸ニ渡ササルノ嚴
約アリト聞ク長官ノ言ハ余リ空想ニアラスヤト述ヘタル処
否々仏國ハ幾度カ其ノ艦隊ヲ独逸ニ渡サスト云ヒ乍ラ「ダ
ルラン」「ラバル」ハ之ヲ独逸ニ交付セントス米國ハ斯ル可
能性ヲ考慮シ時機ヲ失スルコトナク「チャーチル」政府ヲ
助ケサルヘカラス之実ハ「デモクラシー」ノ擁護ニアラス
米國自身ノ為ニ絶対必要ノコトナリ(岩畔大佐ニ於テ米國
ノ「コンボイ」ヲ思ヒ止マラシムル様種々側面工作ヲシツ
ツアルコトヲ序ヲ以テ報告ス)日本ノ方針ハ米國ノ對英援
助ヲ阻止スルニアルモノト思フ松岡大臣ハ「グリユー」ヲ
威嚇シ戰爭ヲヤルト迄云ハレタル由ナルカ目下進行中ノ会

ユル工夫努力ヲ為スノ秋ナリト認ム
当方面關係者ノ意見皆同様ナリ

56 昭和16年5月15日

在伊國堀切(善兵衛)大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日米交渉に関する情報不足につき大島駐独大

使の不满表明

ローマ 5月15日前発
本省 5月15日後着

(外機密、館長符号)

大島大使ヨリ

十日付貴電転電ニ依リ当地ニテ啓承該電ノミニテハ政府ノ
企圖明カナラス本件極秘ヲ要スルカ為本使等ニ知ラセスト
為シ居ラルル真意ニ至リテハ了解ニ苦シム所ナリ
本使ノ所信ハ他日具申ス
交渉ノ成果カ帝國ノ威信ヲ發揮シ帝國ノ将来ニ幸ヒスヘキ
モノタルコトヲ切望ス

57 昭和16年5月16日

在米野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日米諒解案に関する米国紙の記事について

別電 五月一六日付在米野村大使より松岡外務大

臣宛第三一五号

一六日付ヘラルド・トリビューン記事要旨

ワシントン 5月16日後発

本省 5月17日前着

第三一四号(外機密、館長符号)

本十六日「ヘラルド・トリビューン」ハ「ニューマン」ノ
東京十六日(電)話トシテ「東京ハ米國ニ対シ日支戦争ノ
調停ヲ求メツツアリ」トノ標題ノ下ニ別電第三一五号ノ如
キ要旨ノ記事ヲ掲ケ居ル処同種記事情報ノ根拠カ從來日本
ニ在リタルコトハ誠ニ面白カラサルニ付此種記事再発防止
方ニ付此上共特別ノ御配慮相成様致度シ

(別電)

ワシントン 5月16日後発

本省 5月17日前着

第三一五号(館長符号扱)

十六日紐育「ヘラルド・トリビューン」ハ十六日東京「ニュー
マン」電話トシテ非公式ナルモ責任アル筋ヨリ出タル確実
ナル情報トシテ米側意向打診ノ為米側ニ提示セラレタル日
米了解案ナルモノヲ左ノ通り掲ケ居レリ

- 一、米ハ東京重慶間ニ日支事変解決ノ斡旋ヲ為ス
- 一、米ハ支那ニ於ケル日本ノ指導的地位ヲ認ム
- 一、日本ハ南洋ニ対シ武力行動ニ出テサルノ保障ヲナス
- 一、米ハ日本ニ対シ南洋ニ於ケル重要経済利権(借款ヲ含
ム)ヲ認ム

日本側条件トシテハ

- 一、蔣政権ヲ相手ニセスノ声明ヲ修正ス
- 一、日支事変ニ第三国干渉ヲ許サスノ声明ヲ修正ス
- 一、東亜共栄圏ノ内容ヲ明瞭ニス
- 一、日本ハ枢軸同盟ヲ対米敵対ノ手段ト為ササルコトヲ約
ス

尚日米交渉ニ依リ支那事変解決ノ気構ヘハ強キモ本多大使
ノ帰朝ヲ機トシテ現地陸海当局ノ汪政権支持強ク右ハ日米
諒解ヲ不可能ナラシムヘシト付記シ居レリ

紐育へ転電セリ

58 昭和16年5月17日

松岡外務大臣より
在米野村大使宛(電報)

駐日米国大使との会談における松岡外務大臣
の応答振りについて

本省 5月17日後3時15分発

第二三四号(極秘、館長符号)

貴電第三一〇号ニ関シ

米国政府カ「グルー」大使ヨリ如何ナル報告ヲ接受シ居ル
ヤハ固ヨリ知ルニ由ナキモ本大臣ニ於テハ同大使ヲ威嚇ス
ル意思モ必要モ全クナク唯同大使トノ会談ニ於テハ其質問
ニ対シ出来得ル限り率直ニ応答シ居ル処同大使ハ兎角興奮
シ勝チナル上御承知ノ通り耳カ遠キ為聞違ヒモ有リ得ル模
様ナリ就テハ右ノ次第御序モアラハ篤ト國務長官ニ御説明
置キヲ願フ

59 昭和16年5月17日

日米交渉について通報を求める独逸政府の駐
日大使宛訓令

(編注)

独逸政府ハ米國ノ参戦ヲ抑制スル最良ノ方法ハ日本カ米國
ノ提案ニ付キ交渉スルヲ断乎拒否セラルルニ在リタルヘシ
トノ見解ナリ独逸政府ハ日本政府カ米國政府ニ回答セラル
ル以前独逸政府ノ意見ヲ待タレサリシヲ遺憾トス三国条約
ハ昨年独伊日三国ノ政治的、道德的結合トシテ締結セラレ
其ノ大目標ハ第三国ノ戦争参加ヲ阻止スルニ在リタリ本条
約ハ從來右ノ目的ヲ達シタルモノニシテ将来モ亦若シ日独
伊三国ノ統一戦線カ緊密ニ維持セラルルニ於テハ其ノ効果
ヲ發揮スヘシ三国条約締約國ノ一國カ三国条約外ノ第三国
ト結フ条約ハ總テ三国条約國ノ戦線ノ弱化ト解セラルヘク
斯クテ本条約ノ政治的効果ヲ減殺スヘシ
若シ日本政府カ夫レニモ拘ラス日米關係ニ関シ米國政府ト
ノ交渉ヲ避ケ得ストサルルニ於テハ米國ハ事实上(國際法
上ノ意味ニ於テハ然ラストスルモ)枢軸國ノ敵國ナルカ故
ニ上述ノ不利益ナル効果發生ヲ少クトモ予メ不可能トスル

コト必要ナリ

故ニ英国ト枢軸国トノ戦争ニ干渉セサル米國政府ノ義務
(從來規定セラレタルヨリモ更ニ著シク明白ナル形式ニ於
テ)及ヒ三国条約ヨリ生スル日本ノ義務ヲ明白且分明ニ確
決スルコトカ日米協約ノ根本点トナサルルヲ要シ而モ右根
本点ニ爾余ノ規定カスヘテ依存セシメラルルヲ要スヘシ

此ノ事情ノ下ニ於テハ形式化(Formalisierung)ノ問題カ最
重要ノ意味ヲ有スルコトナルヘシ日本ノ回答ノ第二項ニ
於テ三国条約ヨリ生スル日本ノ義務ノ存続ニ関シ述ヘラレ
アル点ハ元来日米協約中ニ於テ右ニ関シ言及サルルヲ要ス
ル絶対最小限ヲ表ハシ居ルモノニシテ此ノ最小限ヲ逸脱ス
ルコト或ハ弱体化スルコトハ事態ヲ顛落ノ方ニ導クヘク其ノ
結果トシテ三国条約ノ精神ト意味ニ矛盾スルニ到ルヘク遂
ニ三国条約ヲ幻影化ナスヘシ

独逸政府ハ今ヤ日米間ノ交渉ニ完全ニ参与シ(Väring
ingeschaltet zu werden)米國ノ回答ニ付テ直ニ通報ヲ与
ヘラレ度シトノ希望ヲ主張セサルヲ得ス日本政府カ予メ独
逸政府ト右重要問題ノ凡テニ関シ了解ヲ遂ケスシテ米國ノ
通報ヲ聞カレ向後日本ノ地位ヲ確定サルルコトハ三国条約

ベルリン 5月18日後発
本省 5月19日前着

第五五七号(館長符号扱)

⁽¹⁾英独妥協ノ氣運ニ付テハ終始注意ヲ怠ラサル処ナルカ今回
「ヘス」事件ヲ契機トシテ種々憶測行ハレ居ルニ付同事件
ニ関スル当方見解ハ別電ノ通ナルカ尚左記觀察電報ス

一、独逸カ本戦争開始後数度ニ亘リ妥協ノ提議ヲナシタル
コトハ御承知ノ通ニシテ又「マイン・カンフ」ノ思想ヲ
其ノ儘ニ実行セントセハ理論上ハ何時ニテモ英独和解ノ
可能性アルヘキナリ然レトモ戦争ノ推移ハ最早欧大陸ニ
於ケル英独争覇ノ域ヲ脱シ世界新秩序ノ一環トシテ欧州
及阿弗利加ニ於ケル新秩序建設ノ為ノ戦ニ迄発展セリ今
日独逸トシテハ

- (イ) 英国カ単ニ欧大陸ヨリ政治的ニ退却スルニ止ラス
- (ロ) 阿弗利加(地中海ヲ含ム)
- (ハ) 近東ニ於ケル枢軸國ノ指導力ヲ確立シ
- (ニ) 更ニ進ミテハ英国ノ再起ヲ不能ナラシメ且将来ニ於ケル
独米対立ニ備ヘ英海軍ノ引渡ヲモ考ヘアルモノト認

メラル

ノ關係ニ適合セサルモノナリ

編注 五月一七日松岡大臣「オット」在京独逸大使會談ノ際

同大使持参

60 昭和16年5月17日 松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

日米諒解案に関する米國紙報道について

本省 5月16日後6時35分發

第二三五号(極秘、館長符号)

貴電第三一四号ニ関シ

内容全部ニハ非サルモ相当程度迄可成以前ニ紐育日本筋ヨ
リ当地財界方面ニ洩レ居ル事実アリ自然右ヲ元トシテ各種
ノ憶測行ハレ居ルヤニ見受ケラルル処当方ニ於テモ今後共
折角注意ハ致スヘキモ貴方ニ於テモ右事実ニ鑑ミ可然御配
意ヲ煩シ得ハ幸甚ト存ス

61 昭和16年5月18日 在独國大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

英独妥協氣運の日米關係に与える影響について

二、而シテ右ノ如キ独逸ノ戦争目的ハ現在迄ノ処競争力予
期通り順調ニ進展シ独逸内部ノ政治經濟状態モ健全ナリ
ト認メラルル現状ニ於テ独逸自ラ之ヲ切り下ケテ妥協ス
ルノ必要ヲ生スヘシトハ認メラレス尤モ問題トナルハ
日、米、蘇等直接戦争ニ加入シアラサル国家群ノ動向ナ
リ

三、⁽²⁾(イ)独逸カ強固ナル意思ヲ以テ英打倒ヲ企図シアアル一ツ

ノ前提ハ三国条約ノ嚴然タル存在ナリ仮令米國ノ援
助力如何ニ強化セラレ万一参戦ニ至ルモ敢テ驚カス
トスル理由ハ日本カ米國ヲ太平洋ニ牽制シ決シテ全
カヲ以テハ大西洋ニ乗出シ得スト見通シ居ルコトニ
アリ從テ三国条約カ存続スルモ日米間ノ話合ニ依リ
事實上米國カ何等背後ノ顧慮ナク艦隊ヲ大西洋ニ集
中シ有力ナル「コンボイ」哨戒線ノ擴張等ヲ行ヒ得
ルカ如キ事態發生スルニ於テハ独逸トシテ其ノヨリ
緩和セル条件ニテ媾和スルコトアルヘシ

(ロ) 蘇連邦ニ関スル独逸ノ自信ハ想像以上ノモノアリ茲
ニ独蘇開戦ノ危険モ存在スル次第ナルカ若シ開戦セ
ル場合独逸ノ戦争指導ニ何等カノ錯誤ヲ生シ長期消

耗戦ニ陥ルカ如キコト起ラハ対英攻撃ニ関シ重大ナル影響ヲ及ホスヘキハ勿論ニシテ此ノ場合又米ノ態度、日本ノ出方如何ニ関連シ対英妥協ヲ策スルニ至ルコトアルヘシ

四、之ヲ要スルニ今日ノ状況ヲ以テシテハ英国カ殆ント無条件降服ニ等シキカ如キ妥協ヲ申込マサル限り独逸トシテハ容易ニ話ニ乗ラサルヘシト認メラルル次第ナルカ同時ニ日本ノ態度如何カ相当重要ナル影響ヲ有スルコト深く考慮スルノ要アリト認ム

62 昭和16年5月19日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

米国における情宣活動についての報告

ワシントン 5月19日午後
本省 5月20日前者

第三一九号(館長符号扱)
貴電第四五号並第二一八〇号ニ関シ(昭和十六年度情報啓発費ニ関スル件)

情報主任官寺崎ヲ紐育ニ出張総領事館ト連絡セシメタル結

リ(イ)政治工作(ロ)情報啓発工作ヲ主眼トスル処(イ)ニハ日米接近ノ如キ和平工作ト共ニ当国輿論分裂ノ如キ諜報工作ヲ含ム次第ナルカ目下行ハレツツアル交渉ニ鑑ミ諜略工作ハ一応差控ヘ居レリ
五、最近ノ工作情况大略左ノ通り

目下各方面ト人的接触ヲ行ヒツツアル処当館並ニ紐育カ従来育成シ来レル人的接触面及諜報者ノ外情報主任官現在手持ノ接触面ハ

(イ)大統領及大統領夫人側近(丁及W)

大統領ハ「リリーフ、ワーク」WPA其ノ他ニ依リ勢力ヲ培養セル外三選以来彼ニ刃向フ者ハ何レモ狙ヒ打チノ対象トナル為独裁的傾向益々顕著トナリ居ルヲ以テ「ロ」ノ側近ニ重点ヲ置ク次第ナリ

「ロ」ノ地位ニ関スル諜報一、二付記スレハ「ケンネデー」前駐英大使ハ大統領ヨリ一九三二年ノ「インカムタックス」ニ不正アリタルヲ指摘セラレタル後ハ上院ニ於テ骨抜ノ証言ヲ為シタル以外一切沈黙シ居レリ別ノ諜報ニ依レハ「ウィルキー」ハ「ロ」ト密ニ連絡シテ立候補シ必要以上ニ「ロ」ヲ攻撃シテ輿論ノ鞏

果左ノ通り決定セリ

一、「ローズベルト」ノ独裁的傾向益々顕著トナルト共ニ当国政府ハ漸次参戦ノ方向ニ進ミツツアリト観測セラルルヲ以テ情報啓発費ニ付テモ米参戦ノ非常時ニハ至急ナルヘク多額ヲ御送付願度キ処茲ニハ日米關係ヲ一応現状ノ儘ト仮定シ後段七ノ通り稟請ス

二、情報官任務遂行ニハ多大ノ困難アリ「グイス」委員会ノ存在在外人使用米人取締並ニ在米外人取締法規実施等ノ為正確ナル諜報入手方容易ナラサルカ如キ一例ナルカ其ノ他ニ種々「デリケート」ナル問題鮮カラス回電ノ遅延セル段御了承ヲ得度シ

三、華府紐育ヲ一体トシテ総合的ニ工作スルコト然ルヘキ処寺崎赴任前一応ノ御承認ヲ得タル稲垣領事ヲ当地ニ赴任セシメラレタシ(少クトモ在上海情報部ノ三分ノ一ノ人員ハ必要ト存セラルルヲ以テ囑託等折角物色中ナリ)尚情報主任官ハ毎月十六日位紐育ニ出張セシムルコトト致度シ

四、情報主任官ノ肩書ハ「プレスアタッシェ」トスルコトトシ其ノ任務ハ三月四日事務打合会議事録一ノ(一)ノ通

蹙ヲ買ヒ落選シタルカ万一「ウ」カ大統領トナルモ結局「ロ」ノ傀儡ニ過キサリシナラント云フ又「ソユルスキー」ハ寺崎ニ対シ自分ハ元来孤立主義者ナルカ大勢ニ抗シ難キヲ以テ沈黙シ居レリ六ヶ月以後孤立主義ヲ称ヘンカ自分ハ往来モ無事ニハ通行出来マシト述ヘタル趣ナリ

(ロ) 国務省(W)

寺崎「ブラウン」大学在学中特ニ親交アリタル者西班牙在動中内乱ニ遭ヒ代理大使トシテ在留民引揚等ニ抜群ノ成績ヲ上ケ目下欧州局勤務中

(イ) 議会(G)

寺崎前記大学在学中Gニ多大ノ便宜ヲ与ヘラレタル關係アル処Gハ州知事トナリ現在上院議員ニシテ外交委員會委員タリ

(ニ) 「アメリカファーストコミッティー」「リンドバーグ」

「リンドバーグ」カ演説ヲ為ス毎ニ独逸ノ新聞ハ之ヲ称讃シ右ハ在独米人記者ノ報道スル処トナリ且米国新聞ニ大キク取扱ハルル關係上「リ」ハ独逸ノ手先ノ如

キ印象ヲ与ヘラレ「リ」及「コミッテイ」ニ於テ多
大ノ迷惑ヲ感シ居ル趣Wヨリ内報セルヲ以テ独逸大使
館ニ注意セルコトアリ爾来Wト連絡ヲ採リ居レリ
(ホ)「アイリツシ」系米人(D)

(D)ハ情報主任官ニ対シ猶太系米人大審院判事「フラン
クフアーター」ハ猶太系米人ノ総帥トシテ政府各機
関ノ「キー、ポスト」ニ「ユ」系米人ヲ嵌込ミ居ル
処一般米国民ノ反感モ漸次増大セラレツツアルヲ以
テ臆テハ反猶太勢力結成セラルヘシト述ヘタリ

(ハ) 宗教関係者(一)旧教(D)(二)新教(未定)

(ト) Dハ現ニ行ハレツツアル交渉ノ関係者ナリ
「ブラウン」大学倶楽部

毎月一回ノ例会並ニ屢開催セラルル集会ニ出席シ居レ
リ

六、内外人雇ノ給料ニ付テハ詳細ハ別トシ過去ノ結果ハ一
般経費ヲ増額セラルルニアラサレハ動カシ難キ実情ニア
ル点御了承ヲ得タク其ノ他ノ整理ニ付テハ将来適当ノ機
会ニ断行スルコトト致度シ

七、現在当館情報啓発費収支ニ付見ルニ収入三万弗余ノ中

議スルト共ニ

(一)米国カ日支間ノ調停ヲ行ヒ且支那ニ於ケル日本ノ優越的
地位ヲ承認スルニ於テハ日本ハ支那ヨリ撤兵スヘシ

(二)日本ハ米国ヨリ経済的讓歩及出来得レハ借款ヲ供与セラ
ルルニ於テハ南洋方面ニ於テ戦争行為ニ出テサルヘシト
ノ提案ヲ行ヒタルカ右ハ何レモ重大考慮ヲ払ハレツツア
リ

米へ転電セリ

64 昭和16年5月20日

在独国外務大臣宛(電報)

日米交渉問題に関する独国外務大臣の意向および

意見具申

別電一

五月二〇日付在独国外務大臣宛より松岡外務

大臣宛第五六八号

日米交渉に関するリッペントロップ外相

との会談について

二 五月二〇日付在独国外務大臣宛より松岡外務

大臣宛第五六九号

實際諜報啓発ニ充テ得ル費用ハ年約三九〇〇弗莫金接待
費年一八〇〇弗ニ過キサル実情ニアリ然ルニ情報関係事
務トシテ本年三月四日打合せ会議決定並ニ対外情報宣伝
工作大綱中ニ示サレタル条項ハ多種多様ニシテ多大ノ努
力ハ勿論鮮カラサル費用ヲ要スヘク現在ノ割当額ニテ賄
ヒ得サルヲ以テ差当り当館本年度ノ情報啓発費ヲ五十万
円ニ増額方御高配相煩度シ

63

昭和16年5月19日

在英国重光(葵)大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日米国交調整につき我が方米國側へ提議との

英国紙の報道について

ロンドン 5月19日後発

本 省 5月20日前着

第三六七号

新聞報(十九日)

「テレグラフ」及「メイル」ハ十八日「ブラウダ」紐育電
ハ日本ノ信頼スヘキ筋ヨリトシテ左ノ報道ヲナセル旨報ス
「日本ハ米国ニ対シ極東ニ於ケル兩國間諸懸案ノ調整ヲ提

日米交渉に関する意見具申

ベルリン 5月20日 発

本 省 着

*第五六七号

日米交渉問題ニ付テハ貴大臣ノ渡米説ト関連シ当地ニ於テ
種々ノ風説ヲ耳ニシ居リシカ五月五日「リ」外相トノ会談
ニ依リ右カ単ナル風説ニアラサルコトヲ承知シタルモ貴大
臣ノ意図ヲ忖度シ本使トシテハ本件ニ干与セサル建前ニテ
進マント存セシカ本件ノ推移ヲ見テ本使ハ帝國ノ前途並ニ
三国条約ヘノ影響ヲ考ヘ深慮ニ堪ヘサルモノアリ独逸首脳
部ノ意向並卑見ヲ率直ニ貴大臣ニ披瀝スルハ本使ノ当然ノ
義務ナルヲ信シ別電第五六八号及第五六九号ノ通票申ス
尚此ノ際併セテ申上度ハ最近兩國ニ亘リ本件ヲ在独伊大使
ニ通報セラレサル理由ヲ示サレタルカ本使ハ現下ノ重大時
局ニ於テ万民臣道実践ヲ第一トスルトキ信任ノ問題トカ國
民ヘノ立場トカヲ詮索セントスルカ如キ意思毫末モナシ況
ンヤ外交ノ実施及技術ハ貴大臣ノ主宰セラレ居ル所ナルニ
於テオヤ唯本使ノ理解シ得サルハ三国条約ト極メテ機微ノ
関係ニ在ル日米協定ヲ結ハントセララルニ当リ本使等ヲシ

テ独伊首脳部ノ意向ヲ報告セシムル要ナシトセラレアルニ在リ從テ別電亦蛇足ノ感アルモ本使駐独大使ノ任ニ在ル限リ職責上黙スル能ハス虚心坦懐ニ所信ヲ述ヘタルモノナルヲ諒セラレタシ

(別電一)

ベルリン 5月20日 発
本省 着

第五六八号

一、五月三日「リ」外相ハ本使ノ来訪ヲ求メ本日「オット」ヨリ日米交渉ニ関スル電報ヲ接受セルカ本件ハ貴大使及在伊大使ニ知ラササルコトニナシアリトノ趣ニ付貴大使ニ申上ケ得ル筋ニアラサルモ何分事極メテ重大ナルヲ以テ友人トシテ貴大使ニ秘匿スル能ハス貴大使個人ノ含ミ迄ニ申上ケル次第ナルヲ以テ右御承知アリタシトシテ四月十六日米國提案協定案骨子四ヶ条ノ電報ヲ示シ自分「リ」ハ突然日本ヨリ斯ル提案ヲ受ケ実ハ日本政府ノ真意ヲ知ルニ苦シミアル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ先般松岡外相訪独ノ際判然述ヘラレタル如ク日本ハ三國条約ヲ

為本協定ヲ締結セラルルコトモナレハ法理上ハ何トテモ理屈ヲ着ケ得ルモ事實上三國条約ハ骨抜キトナルヘク又日本ノ前途ニ執リテモ東亞ニ於ケル指導權確立ノ機ヲ失セラルルモノト考フ予ハ本問題取扱ニ関シ熟慮ノ結果独逸側意見トシテ次ノ二案ヲ考ヘタリ

(イ)米國ノ提案ヲ拒否セラルル案

(ロ)米國カ「コンボイ」哨戒線拡張等ヲ行ハス真ニ中立ノ態度ヲ保持スルコトヲ条件トシテ日米協定ヲ結フ案

自分「リ」ハ(イ)案ヲ可ト信シ之ヲ總統ニ具申シタシト存スルカ貴見如何ト問ヒタルヲ以テ本使ハ何等訓令ニ接シ居ラサルモ常識的ニ帝國政府ノ意圖ヲ忖度シ本使ノ私見トシテ「リ」ニ対シ(ロ)案ヲ有利トスルヲ主張シ之カ理由トシテ若シ該案成立セハ独逸ハ英國ト一騎打ヲ為シ得対英戦争ノ終結ヲ速カナラシムルヲ得ヘク又之ハ虫ノ良キ考方カモ知レサルモ或ハ「ルーズベルト」一派カ対英援助ノ無効ナルヲ知り之ヲ緩和セントスル理由ニ利用スル場合モ全然ナシトハ考ヘラレス不成立ノ場合ニ於テモ少クトモ「ルーズベルト」ノ対英援助ニ関スル真意ヲ確メ得ル利益アルヘク又我國內ニ於テ日米協調ヲ考ヘル者

外交ノ基調ト為シアルヲ以テ日米間ニ之ニ背馳スルカ如キ約束ヲ結フ訳ナシト答ヘ本件ニ關係スルヲ避ケ置キタリ

二、然ルニ五月九日更ニ「リ」ハ本使ノ来訪ヲ求メ「オット」ヨリ電報アリタル米國ニ対スル日本ノ中間回答案並ニ五月六日ニ於ケル貴大臣ト「オット」トノ会谈記録電報ヲ示シ「リ」ハ屢次ノ「オット」電ニヨリ明カトナリタルカ右中間回答ニ依レハ日本ハ既ニ本問題ニ関シ相当米國ト深入リタル協議ヲ為シアルモノト察セラレ又打明ケテ申上ケレハ独逸ノ今日迄諸方面ヨリ接取セル情報中ニハ本件ハ日本ヨリ提案セラレタリト為セルモノアリ又松岡外相ノ「オット」ニ対スルお話ヨリ察スルニ松岡外相カ或一派ニ引摺ラレ已ムヲ得ス之ニ同意セルカ如ク見ラル猶又該会谈中松岡外相ハ独「ソ」戦争起ラハ日本カ之ニ参加スルニ至ルヘキコトヲ述ヘラレタルカ松岡外相先般来独ノ際私見トシテ承リタル新嘉坡攻撃ヲ行ハントスル御意見ハ全ク御改メニナリタルモノト考ヘラル予ハ「ルーズベルト」ノ真意ヲ疑フモノニシテ若シ此等ニ乗セラレ又万一ノ場合ニ於ケル參戰ノ義務ヲ回避スル

ニモ其ノ不可能ナルコトヲ納得セシメ得ヘシト述ヘタリ然ルニ「リ」ハ自分ハ本交渉ヲ繼續スル間米國ハ之ヲ日独離間ニ利用スヘシトテ往電第五四五号(土耳其宛第一号)ノ件ヲ述ヘ又米國內ニ於テモ非戦派ニ対スル説得材料ニ利用シ之ヲ以テ太平洋ハ既ニ心配ナキカ故ニ大西洋ニ進出シテ可ナリト云フヘク誠ニ危険ナリト述ヘ本使ノ意見ニ賛成セス兎ニ角モ本件ハ未タ「ヒ」總統ノ裁決ヲ経居ラサルヲ以テ今夜直ニ伯林外ニ在ル總統ノ下ニ電報シ其裁決ヲ受クルコトスヘク其際貴大使ノ意見モ併セ述フヘシト答ヘタリ依テ本使ハ伊太利側トハ既ニ協議セラレタリヤト問ヘルニ伊太利側モ「インデルリ」大使ヨリ一切ヲ報告セラレアルモ未タ直接伊太利ト協議シアラス「ヒ」ノ裁決アリ次第「オット」ニ対スル訓電ヲ起草スルヲ以テ之ニ依リ伊太利ト協議スル筈ナリト答ヘタリ

三、本使ハ既ニ本月初メ「ム」首相訪問ノ約ナリ居リ十日夜出發「ローマ」ニ赴キシ二十二日朝「ピスマルク」公使本使ヲ來訪シ「リ」ノ命ナリトテ「オット」ニ対スル訓電ヲ示スト其ニ伊太利政權モ之ト同意見ナル旨述ヘタ

第五六九号

一、日米協定問題ニ関シ独逸側ニ於テ深刻ナル不満ヲ有シ
 三國条約ノ前途ニ関シ多大ノ危懼ヲ有シ居ルコト別電ノ
 如シ蓋シ米國カ既ニ事実上參戰シ居ル今日其ノ現狀ヲ默
 過シテ日米間ニ於テ協定ヲ結フハ恰モ日本ハ米國ノ參戰
 ヲ阻止シ併セテ自國ノ參戰義務ヲ回避スルモノナリトノ

ベルリン 5月20日 發

本省 着

(別電二)

セハ日本ハ「ソ」連邦ヲ攻撃スヘキコトヲ「オット」ニ
 述ヘラレタルコトハ独逸ハ之ヲ重要視シアリ外相ハ獨逸
 中蘇關係ノ真相ヲ了解シテ帰ヘラレタルヤト問ヘルヲ
 以テ本使ハ獨蘇開戦ニ際シ日本ノ執ルヘキ態度ニ関シ外
 相カ何ト云ハレタカハ知ラサレトモ斯カル重大ナル事柄
 ハ我國ニ於テハ聖斷ニ俟ツヘキモノナレハ恐ラク外相ハ
 私見ヲ述ヘラレタルモノナルヘク又外相ハ獨逸中程度々
 「リ」外相トモ会见セラレタルニ付獨蘇關係ノ真相ヲ知
 ラレタルコト疑ハスト答ヘ置タリ

ルカ該案ヲ讀ムニ及ヒテ總統カ「リ」ノ意見ニ反シタル
 裁決ヲ知レリ然ルニ十三日午後「リ」ハ突然「ローマ」
 ニ飛来シ同日「ム」及「チ」ト会见シ十四日午前本使ノ
 來訪ヲ求メタリ依テ彼ヲ往訪セルニ二十二日東京ニ於ケル
 貴大臣ト独伊大使トノ会见ニ関スル「オット」ノ電報ヲ
 示シ貴大臣カ内政ノ關係上独伊ノ意見到着ヲ待ツ能ハス
 米國ニ對シ交渉ヲ開始セサルヘカラサル事情ニ在ルコト
 ヲ述ヘラレタリトテ大ナル不満ヲ表シ僅カ數日間待テハ
 独伊ノ訓電到着スヘキ筈ナルニ何故之ヲ待チ得サリシヤ
 ト云ヘルヲ以テ本使ハ全然其ノ事實ヲ知ラサルヲ以テ何
 トモ申上ケラレサルモ秘密保持ノ關係上速ニ之ヲ解決ス
 ル必要アリ又日本ニ於テハ此ノ種重要交渉ハ陛下ニ内奏
 申上ケル關係モアリ或ハ此等ノ理由ニヨリ已ムヲ得サル
 ニ出テタルナラント想像スルモ独伊ニ對スル不親切ニ非
 サルコトハ確信スト述ヘタリ

然ルニ「リ」ハ容易ニ納得セス実ハ松岡外相訪独ノ際度々
 面接セルニ三國條約ニ密接ナル關係アル日米協定ニ関シ
 何等具體的ノ御話モナク松岡外相帰朝早々斯ノ如キ通知
 ニ接セルコトハ實ニ意外ニ感シ居ル所ニシテ率直ニ申上

クレハ自分(「リ」)ハ三國條約ニ自ラ弛緩ヲ致スモノト
 痛ク憂慮シ居レリ先日モ申上ケタル如ク自分(「リ」)ハ
 始メヨリ「ルーズヴェルト」ヲ信セス日本ニ米國ノ提案
 拒絶ヲ御勸メセントスル意見ナリシモ自分ノ考ト違ヒタ
 ル案ヲ訓電スルコトトナリタリト述ヘタルヲ以テ本件ニ
 関シ日独兩國政府間ニ於テ誤解起ルコトハ最モ忌ムヘキ
 コトナルヲ以テ御懸念ハ「オット」ニ訓令セラレ十二分
 ニ御確メニナルコト極メテ緊要ナルヲ繰返ヘシ注意シ置
 ケリ同日夕「チ」外相ヲ訪問セルニ既ニ「リ」カ「ム」
 及「チ」ト話合ヒタルコトトテ「リ」ト同様ノ意見ヲ洩
 セリ

四、五月十七日日本使帰伯スルヤ直ニ「ワイゼッカー」次官
 ノ求メニヨリ往訪セルニ「ワ」ハ在「フツシエル」
 ノ電命ニ依ルトテ十四日付「オット」來電日本ノ對米回
 答案並ニ之ニ基ク「オット」ニ對スル獨逸政府ノ訓令案
 ヲ提示シ自分(「ワ」)ハ貴大使ニ電文ヲ提示スヘキ訓令
 ヲ受ケアルノミナルヲ以テ何等意見ヲ述ヘントスルニ非
 サルモ特ニ現在ノ政局上獨逸政府ハ本件問題ノ成行ニ深
 キ關心ヲ有シアルコトヲ述ヘ又松岡外相カ若シ獨蘇開戦

疑惑ヲ抱クハ獨逸トシテハ已ムヲ得サル所ナルヘク殊ニ
 先般貴大臣ノ御來独ニ際シ獨逸朝野カ拳ツテ歡迎ノ意ヲ
 表シ枢軸ノ強化ヲ謳歌シタル直後ナル丈獨逸トシテ裏切
 ラレタリトノ感ヲ強クシ居ル次第ナリ

二、帝國カ支那事變ノ速急解決ヲ囿リ政治經濟各般ノ余猶
 ヲ得ントスル必要ハ本使トシテモ了解スル所ナリト雖モ
 今ヤ歐洲戦争ハ益々独伊ニ有利ニ進展シ此処數カ月ノ中
 ニ重大ナル發展ノ予測セラレ居ル際目前ノ利益ノ為ニ歐
 州ニ於テ指導的地位ヲ確保スヘキ独伊ニ不信ヲ抱クコト
 果シテ妥當ナリヤ多大ノ疑問ナリ況ンヤ米國ノ提案ハ單
 ニ日本ヲ三國同盟ヨリ切離サントスル一時的ノ策謀ニ過
 キサル俱鮮カラサルニ於テオヤ

本使ハ斯クノ如キ両面外交ハ戦後來ルヘキ重大危局ニ於
 テ帝國ヲ完全ナル國際的孤立ニ陥ラシムルモノナルコト
 ヲ惧ル

三、更ニ米國ノ口添ヘニ依リ支那事變ノ解決ヲ計ルコトカ
 將來ニ関シ重大ナル禍根ヲ残スモノタルノ点ハ暫ク措ク
 モ此ノ絶好ノ機會ニ南方経路ヲ放棄シ況ンヤ何時ニテモ
 新嘉坡ヲ攻略シ得ヘシトノ見込スラ失フカ如キハ單ニ英

米ノミナラス独伊ノ輕侮スラ招クモノニアラサルヤ而シテ今後米國ニシテ太平洋ニ於ケル後顧ノ憂ナキコトヲ良キコトニシ名義上ノ參戰ハ避ケツツ對英援助ヲ強化スルカ如キ場合ニ於テハ欧州戰局ノ發展ニモ影響スル所少カラサルヘク帝國ニトリ不測ノ害生スルコトナキヲ保セス尚米國ニ對シ大東亞ニ包含セラルヘキ南方地域ニ對スル我カ指導權ヲ放棄スルニ於テハ独伊ニ對シテモ之ヲ主張スルコト能ハサルハ明カニシテ大東亞新秩序建設ニ関スル我大使命ヲ放棄シタルモノト云ハサルヘカラス

四、昨秋三國條約締結ニ依リ國民ノ向フ所明カトナリタルニ今又日米協定ヲ結フニ於テハ内國民ヲシテ其ノ帰趨ニ迷ハシメ外友邦ノ不信ト輕侮トヲ招キ實利ヨリスルモ國際的孤立ヲ招來スルニ過キサルコトヲ惧ルル次第ナルカ帝國政府ニ於テ協定締結ヲ已ムヲ得ストセラルルニ付テハ少クトモ左ノ二件實現ヲ切望ス

(イ)日米協定ヲ締結スルハ日本カ米國ニ對スル地位ヲ利用シ三國條約ノ精神ヲ補充シ独伊ノ對英作戰ヲ容易ナラシムルモノナリトノ主義ヲ確立シ米國ニ對シ欧州戰爭ニ関シ真ノ中立ヲ要求スルト共ニ三國條約ニ基ク我カ

斯科発「ユーピー」電トシテ同日「プラウグ」ハ米國ハ最近日本ノ非官辺責任筋ヨリ日支戰調停（米國ハ日本ノ極東ニ於ケル優越地位及南方ニ於ケル經濟的權益ノ獲得ヲ承認シ日本ハ支那ヨリ撤兵シ且南進ヲ行ハサルヘキコトヲ骨子トス）ノ提議ニ接シタル由ノ紐育情報ヲ掲ケタル旨大々的ニ報シ各方面ノ注意ヲ惹キ居レルカ十九日重慶最高權威筋ハ右ハ一種ノ宣伝ニシテ國際市場ヲ混乱ニ導キ米國ノ對支援助ヲ阻害スル底意ト為シ日本軍力支那及東北四省ヨリ撤退セサル以上支那ハ絶對ニ和平ヲ論セストノ再聲明ヲ行ヒタル旨重慶発「ユーピー」ハ報シ居レリ

支、北京、天津、漢口へ転電セリ

66

昭和16年5月21日

在米國野村大使より
松岡外務大臣宛（電報）

日米兩國の太平洋方面での經濟政策調整に關する米國國務長官との會談について

ワシントン 5月21日後發
本省 5月22日前着

參戰義務ヲ明カナラシムルコト絶對ニ必要ナリト存ス而シテ米國ニシテ之ヲ容レサレハ協定ハ締結スヘカラス

(ロ)独伊ヲシテ本件ヲ以テ日本ニ於ケル現状維持派カ勢力ヲ得來レル為已ムヲ得ズ本協定ヲ締結スルモノナリトノ印象ヲ抱カシムルコトハ最モ我ニ不利ニシテ右ハ独伊ヲシテ日本ハ參戰回避ノ念ヨリ此ノ拳ニ出テタリトノ疑惑ヲ深カラシムルノミナルニ依リ日米交渉ニ付テハ独伊トノ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ(イ)ノ趣旨ヲ独伊ニ徹底セシムル必要アルヘシ

65

昭和16年5月20日

在上海堀内（干城）總領事より
松岡外務大臣宛（電報）

日米國交調整につき我が方提議との上海各紙の報道について

上海 5月20日後發
本省 5月20日後着

第八二六号

当地英漢字紙ハ十九日夕刊ヨリ二十日朝刊ニ掛ケ十九日莫

一、「ハワード」ヨリ「ハル」ノ戰後經濟策ニ關連シ閣下ノ「ステートメント」ヲ所望シタル趣ノ処右經濟政策ハ米國ノ從來取リ來レル實際ト大懸隔アリ日本ニ於テモ將又當國ニ於テモ種々ノ論評アリタル処昨二十日（火曜）夜本使國務長官ト會見ノ際日米了解成立ノ上ハ兩國ノ貿易振興ノ為ニ實業界方面ニ説得スル旨ノ話モアリ東亞經濟「ブロック」ノ育成ト共ニ各方面ヘノ發展ヲモ考慮スルノ要アル我國トシテハ其ノ政策ニハ強テ不同意ヲ表スル必要ナク寧口之ヲ支持スルヲ有利ト愚考ス

二、「ヘス」事件ニ続キ「バ里」及「ヴィシー」等ヨリ平和説アリ當國ニ於テモ「ハースト」系ノ新聞及「ホキラー」上院議員等非戰論ノ少数ノ支持アリ貴大臣ノ親友「オラフリン」モ來訪ノ際ヨク知ラサルカ平和論ノ底流アル旨語り居リタリ警戒ヲ要スルモノト愚考ス

國務長官モ了解成立シ太平洋ニ平和維持ノ第一歩ヲ作り得レハ之正ニ平和ニ貢獻シ得ルモノナル旨ヲ洩ラセリ

右御參考迄

67 昭和16年5月21日

在独国外務大臣宛(電報)

日米交渉に関する意見具申軍部へも伝達方要請

ベルリン 5月21日 発

本省 着

*
第五七五号

御交渉中ノ日米協定ハ重大ナル国策ノ変更ト考ヘラレ我陸海軍武官ノ独逸ニ於ケル諸企画ニ關係スル所大ナルヲ以テ之ヲ予メ伝ヘ置ク必要アリト認メ本二十日両武官限リノ含ミトシテ往電第五六七号、第五六八号、第五六九号ヲ両武官ニ提示セルニ付貴大臣ヨリモ陸海軍大臣、参謀総長、軍令部総長へ御示シ願ヒタシ

68 昭和16年5月22日

在独国外務大臣より
松岡外務大臣宛(電報)

日米国交調整につき我が方米國側へ協定提議とのプラウダの記事について

ベルリン 5月22日前発

本省 5月22日後着

第五八二号(館長符号扱)

十八日「プラウダ」紙ハ十七日紐育発「タス」電報トシテ紐育「ヘラルド・トリビューン」東京特派員カ最近日本ノ權威アル筋ヨリノ聞込ニ依レハ日本ヨリ米國ニ対シ左ノ協定締結方提議ヲナセリ即チ

(一)支那内地ヨリノ日本軍ノ撤退ヲ前提トシ米國ハ日支紛争ヲ調停ス

(二)米國ハ支那ニ於ケル日本ノ指導的地位ヲ承認ス

(三)日本ハ南方ニ於テ敵意アル行動ヲ執ラス

(四)米國及南方ニ於テ重要ナル対日經濟的讓歩ヲナス

(五)米國ハ日本ニ対シ借款ヲ許与ス

米側ハ慎重之ヲ検討シ居レリ尚右協定案中ニハ日本カ枢軸同盟ヲ米國ニ対シ利用セサルコトヲ約スル一条アル旨伝ヘラル云々ト報セルヲ掲載シ居レル処本件記事ハ独逸側ニモ相当知レ亘リ居リ本件機密保持方ニ付テハ特ニ嚴重御留意且御取締相成居ル次第御電示アリタルニ拘ラス東京ニ於テ既ニ外国新聞記者ニ漏洩シ居レルハ遺憾ニシテ一層ノ御取締ヲ望ム

69 昭和16年5月24日

松岡外務大臣より
在米國野村大使宛(電報)

野村大使の行きすぎた発言により米國側に誤解を生んでいるとの情報について

本省 5月24日 発

第二五〇号(至急、館長符号、外機密)

稍々確實ナリト認メラルル情報ニ依レハ(一)貴大使ハ「ハル」國務長官ニ対シ日米了解案ニ付陸海軍首腦者ノ同意ノ下ニ会谈スルモノニシテ(二)松岡外相ヲ除ク外天皇陛下及他ノ閣員全部ノ支持ヲ受ケ得ヘシ(三)松岡外相ノ政策ハ日本ニ何等裨益スル所ナカリシノミナラス将来ニ向テモノノ利益ナクシテ徒ニ紛争(「トラブル」)ヲ招来スルノ危険甚大ナリト感スル向少カラス(四)「ハル」長官カ貴大使ニ対シ先ツ以テ天皇陛下及内閣ノ意向ヲ確メラレムコトヲ要求セル処其ノ後貴大使ハ宛モ其ノ同意ヲ得タルカノ如キ返答ヲ為サレタリ云々トアル処モトモト日本政府ヲ代表セラルル大使トシテ固ヨリナルモ特ニ外務大臣ト一心同体タルヘキ筈ノ貴大使カ外務大臣ニ関シ右情報ニアルカ如キコトヲ述ヘラレタリトハ常識上絶対ニ考ヘラレサルノミナラス陸海軍首腦部及

他ノ閣僚ノ態度ニ言及セラレタリトハ之亦信シ得ス更ニ天皇陛下ニ於カセラレテ御同意アルヘシトカ云フ如キ言ヲ為サルルコトハ絶対ニ禁物ニシテ固ヨリ貴大使ニ於テモ万々此ノ点ハ御承知アルコトト存ス右様ノ儀ニシテ右ハ一応確實ナリト思ハルル情報ナルモ本大臣ハ容易ニ之ヲ信シ得サル所ナルカ言葉ノ行違ナルカ或ハ何等カノ事情ニ依ルモノナルカ想像シ得サルモ兎モ角前掲諸点ノ通り(不明)長官ニ於テ貴大使トノ談話等ニ依リ印象ヲ受ケ居ルコトハ略々確實ナリト認メラルル節アリ

就イテハ最早キ機会ニ於テ右様ノ「ハル」長官ノ印象ヲ是正スル様御措置アリタシ若シ夫レ本大臣カ一生ヲ通シ今日迄最モ熱心ナル日米親善論者ナルコトハ夙ニ貴大使ニ於テ御承知ノ通ナリ「ハワード」及「ウキーガン」ニ最近答ヘタル電報ニ依リテモ明白ナルカ如ク現代文明ヲ没落ニ導ク可能制多大ナル恐れヘキ世界戦争ヲ如何ニシテ防止セムカト謂フコトニ付真ニ心胆ヲ碎キ苦慮シ居ルコトハ事実ニシテ然カモ斯カル戦争ニ發展スルヤ否ヤノ鍵ハ今日ニ於テハ殆ント米國大統領ノ掌中ニ握ラレ居ル事モ亦事実ニシテ從テ有ユル手段ヲ講シテ此ノ上米國ヲシテ独伊ヲ激発セシ

ムルカ如キ拳ニ出テシメサラムコトニ精魂ヲ傾ケ居ルコトモ御承知ノ通ナリ

日独伊三国同盟ノ最大目的モ茲ニ存シ從テ同盟ニ寸分ノ揺キヲ与ヘサルコトニ御承知ノ通り十二分ノ用意ト固キ決心ヲ持チ居ル次第ナリ

是等ノ本大臣ノ考ハ既ニ貴大使ヨリ「ハル」長官等ニ徹底セシメ居ラルルコトトハ信スルモ尚右ノ次第機会アル毎ニ先方ニ此上トモ徹底セシメラレムコトヲ切望ス本大臣ニ関シ大統領乃至「ハル」長官ニ於テ些カノ誤解アリテモ所詮日米国交ノ調整ハ行ハルルモノニ非サルコトハ申添フル迄ノコトニ非ス

70 昭和16年5月24日 在米野村大使より
松岡外務大臣宛(電報)

野村大使の発言により米国側に誤解を生んで
いるとの情報につき回答

ワシントン 5月24日後着
本 省 5月25日後着

(外機密、館長符号)

点ノ疑ヲ持タス長官ニ対シスクノ如キコトヲ申セシコトハ
一、二回アリタリト信ス

71 昭和16年5月24日 松岡外務大臣より
在独大島大使宛(電報)

日米交渉は三国同盟条約を脱脱するものでは
ない旨独国側へ説明方訓令

本 省 5月24日 発

第四三九号

一、「リ」外相ニ於テハ日米諒解案ニ関スル通報ニ接シ意外
ニ感シ本大臣先般渡欧ノ際右ニ付何等具体的ノ話ヲ為サ
サリシ故ヲ以テ不審ノ念ヲ抱キ居ル趣ノ処実ハ伯林滞在
中日米問題ニ付テハ同外相トモ一般的意見交換ヲ行ヒ居
リ又三国条約ノ主要目的ハ米國ノ参戦防止ニ在リ之カ為
メ適切ナル外交工作ヲ施スコトハ三国共通ノ利益トナル
コト論ナキニ鑑ミ本大臣ハ往電申進メノ通り帰途莫斯科
ニ於テ米國大使ヲシテ (一)参戦セサルコト及ヒ (二)蔣介
石ニ和平ヲ勧告スルコトノ二点ニ付キ考慮ヲ促スト同時
ニ (三)三国条約ニ微塵ノ影響ト雖モ之ヲ及ホスカ如キコ

貴電拝読事実全く無根ニシテ唯々驚キ入ルノ外ナシ日本外
交ハ如何ニシテ行ハルルヤノ大統領及國務長官ノ質問ニ対
シ日本ノ外交ハ外務大臣之ヲ管掌スルカ重大ナル外交政策
ノ決定ニ当リテハ陸海軍大臣モ其ノ所管事項ニ付テ無論
与シ首相亦大局的ニ関与スルハ勿論ナリ日本憲法ニ於テハ
國務大臣ハ輔弼上共ニ責任アリト申シ松波博士ヨリ頼マレ

シ同氏ノ著書ヲ大統領ニ呈上セシコトアリ(國務長官同シ
ク席ニ在リ)其ノ時大統領ハ米國ニ於テモ略同様ニシテ総
テ國務長官一人ニテ決定スル次第ニハアラスト申セリ又國
務長官ヨリ同様ノ質問アリタル際同様ノ答ヲ為シタルコト
アルカ其ノ趣ハ其ノ都度電報セシ通ナリ若シ夫レ神聖侵ス
ヘカラサル至尊ヲ引用スルカ如キコトアリトセハ夫レ丈ニ
テ罪万死ニ値ス本使ハ軍人トシテ万一斯ルコトヲ為シタリ
トセハ民道ノ上ヨリ此ノ世ニ存在ヲ許サレサルモノト信ス
ルモノニシテ夫レハ絶対ニアリ得ヘカラサルコトナリ從テ
國務長官ニ於テマサカスル誤解アリトハ思ハサルモ御來電
ノ趣旨ハ十二分ニ敬承最善ノ努力ヲ致スヘシ

尚東京ヨリノ新聞電報等ハ如何アロウトモ貴大臣ノ日米問
題ニ関スル根本理念ニ付テハ本使ハ充分ニ了解シアリテ一

トハ一切許ス能ハス若シ米國ニシテ参戦セハ日本ハ直ニ
参戦スヘシト迄言明シ右本大臣ノ個人的「メッセーヂ」
トシテ大統領ニ電報セシメタリ然ルニ米國政府ハ四月十
六日本大臣ノ帰朝ニ先立チ国交調整ニ関スル全般的協定
案ヲ提示越シタリ本大臣ハ帰京後初メテ之ヲ承知セル様
ノ経緯ニシテ從ツテ伯林ニ於テハ本件ニ付テ具体的協議
ヲ行フ何等ノ基礎ヲ有シ居ラサリシ次第ニテ此点ニ関シ
テハ独側ニ対シ何等疾マシキ所ナシ尚上記三点ハ我方ニ
於テハ現在将来共堅持スヘキニ付キ帝國政府ノ関スル限
リ「リ」外相ノ危惧スルカ如キ三国条約ノ弛緩ヲ致ス虞
アル措置ヲ取ル如キ懸念ハ毫末モ無之又米國側ニ於テモ
其後本大臣ノ講シタル処置及野村大使ノ「ハル」長官ニ
対スル陳述等ニ依リ此点ハ更ニ明カニシアリ

二、「ルーズヴェルト」ノ真意ハ蓋シ臆測ニ難カラス「リ」
外相ノ觀察ニハ本大臣モ概ネ同感ナルカ苟クモ相互ニ三
国条約ヲ不動ノ国策トスル以上米國ノ日独離間策ノ如キ
ハ敢テ恐ルルニ足ラス尤モ英米ノ離間策ハ今後益々熾烈
トナルヘク從ツテ此ノ際日独伊三国当局ハ愈々精神的結
束ヲ強固ニスル必要アリト存セラレ独伊カ本件ニ関シ些

カニテモ我心事ヲ疑フカ如キコトアラハ夫レ丈ケニテモ既ニ敵ノ術策ニ陥リタルニ等シト称スヘク本大臣トシテハ「ヒ」総統及「リ」外相カ此際一々本大臣ヲ信頼スル様望シテ已マサルモノナルカ此点ニ就テハ充分処置シアリ「リ」外相ヨリモ絶対信頼ノ旨ヲ既ニ申越セリ

三、「リ」外相ハ我方カ独創意見到著ヲ待タス交渉ヲ開始セルニ対シ多大ノ不満ヲ有スル趣ナルカ当方ハ一週間ニ亘リ対米回答ヲ留保シ（結局米側原案提示ノ時ヨリ四週間余モ回答ヲ留保セリ）誠意ヲ尽シタル次第ニテ當時ハ国内情勢ノミナラス米国情甚タ切迫セルモノアリ此ノ上ハ半日モ遷延シ難キ形勢トナリタル為メ（八日ノ米政府閣議ニ於テハ「コンヴォイ」ノ方針決定セラレタルヤノ内報アリ十四日ニハ大統領ノ声明行ハルル手筈トナリ居リタリ）我方トシテハ如何様ニモシテ米国ノ「コンヴォイ」実施ヲ阻止シ参戦ノ危険ヲ封シ度キ見地ヨリ遂ニ二十日米側ニ我提案ヲ提示セルモノナリ本大臣カ「或一派ニ引摺ラレ已ムナク同意セリ」ト云フカ如キハ本大臣ノ真意ヲ解セサルノ甚シキモノト云フ他ナク本件ハ前記ノ如ク其ノ由来ニ於テ本大臣ノ蒞キタル種カ形ヲ變ヘテ結

実セルモノニ過キス

唯本大臣ハ三国条約ニ飽迄忠実ナランカ為ニ軍部（本件ハ貴電ニ所謂現状維持派ノ勢力トハ全然關係ナク寧ろ陸海軍カ最モ熱心ナリ）其ノ他カ頻リニ焦慮スルヲ抑ヘ幾多ノ困難ニ遭遇シツツモ一週間ニ亘リ回答發出ヲ差控ヘタル次第ナリ又我対案提示カ能ク心理的「モメント」ヲ擱ミ居タルコトハ「ルーズヴェルト」カ右ニ接シテ十四日ノ声明ヲ二十七日ニ延期セル事実ニ徴スルモ明カナリ何レニセヨ本大臣ハ従来同様将来モ亦独伊トノ了解疎通ニハ全力ヲ尽スヘキモ帝國ニハ又自ラ帝國独自ノ立場アリ政策ノ運用ニ付テ迄モ独伊ノ意ヲ迎フル必要ハナキモノト信シ居レリ

但シ三国条約ヨリ些カニテモ逸脱スルカ如キコトヲ考慮シ居ルモノハ我政府部内ニハ現ニ一名モナキニ付此点御安心アリタク又本件交渉方針ニ関シテハ目下日独（伊）ノ意向ハ同様ニシテ其間何等ノ齟齬ナク又其後「オット」トノ数次ノ懇談ニ依リ独逸側ノ懸念モ既ニ氷解シ居ルモノト信スルモ以上ノ諸点貴大使ヨリモ「リ」外相ニ篤ト御説明相煩度シ

72 昭和16年5月26日

在ニュー・ヨーク森島（守人）総領事
より
松岡外務大臣宛（電報）

日米国交調整のため対蔣援助を止むべしとの

米国上院議員の意見について

ニュー・ヨーク 5月26日午後發
本 省 5月27日前着

*
第二〇八号

往電第一八四号ニ関シ

例ノ「リーヴス」ニ対スル上院議員「レイノルド」ノ内話ニ依レハ過般開カレタル上院外交委員会秘密会ニ於テ「ホイラー」カ米カ対蔣援助ヲ止メレハ日米国交調整ノ端緒ヲ得ヘシトノ意見ヲ出シ委員長「ジョウジ」ハ其見込アル旨ノ意見ヲ述ヘタルモ結論ニ至ラス結局「ジョウジ」「ホイラー」「ナイ」三人カ大統領ニ直接面会シ右「ジョウジ」ノ意見ヲ進言シタルモ大統領ハ笑ヒニ紛ラシ意見ノ開示ヲ避ケタル趣ナリ
米へ転電セリ

73 昭和16年5月27日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛（電報）

日米交渉に関する駐ソ米国大使との会談につ

いて

モスクワ 5月27日午後發
本 省 5月28日前着

第六三一号（館長符号扱）

約二週間前米大使ハ貴大臣ト「グルー」トノ間ニ会談開始セラレ居ル旨ヲ語レルヲ以テ本日往訪其ノ後ノ経過如何ト質ネタル処彼ハ本國政府ヨリ何等告知セラレサルニ非サルモ広範圍ニ亘ル問題論究中ナルカ如ク援蔣問題モ含マレ居ルヘク何レ本國政府ニ問合スヘキニ付本使ニモ経過ヲ問合ハス様ニト申セルニ付同意シ置ケリ彼ハ従来カラノ日米戦フヘカラス論ヲ繰返セシニ付我國ハ素ヨリ米國ト戦ハントスルモノニ非ス本使ノ軍事的知識ヲ以テセハ兩國ハ真面目ノ戦ヲ交フル事不可能ナリ然シ米國艦隊カ独逸ニ対シ挑戦行動ニ出ツル場合日本ハ条約上ノ義務ニ基キ当然参戦スヘキハ我カ外相ノ公言シアル所ナリト述ヘタルニ彼ハ米側ヨリ独逸艦船ヲ攻撃スル事ハナク独逸ハ之ヲ敢テスヘシト答

フ仍テ本使ハ斯ル場合孰レカ攻撃者ナルヤヲ決スル事至難ナルカ故ニ日本政府トシテハ米艦隊カ斯ル原因ヲ作ルカ如キ行動ヲ避クル事ヲ希望スヘシト述ヘ置キタリ現在ノ独蘇問題ニ付彼ノ意見ハ本使ノ夫ト大同小異ニテ独逸カ近ク蘇連ヲ攻撃スト威嚇の宣伝ヲ為シ居ルモ実現スヘシト思ハレス然シ戦期明年ニ延ヒ独逸ノ資源枯渴スル際ニハ或ハ生スヘシト為スモノナリ彼ノ口吻ニ拠レハ米蘇ノ關係ハ悪化シツツアルカ如ク米政府カ蘇連ノ羊毛ト皮革ヲ積載セル「コロンビヤ」号ヲ何故ニ抑留セルヤ解シ難シト滯シ又政府トノ連絡及私財整理（株式漸落）ノ為東京ヲ經テ帰国シ度キモ政府ハ之ヲ許サスト申シ居レリ貴大臣ト「グルー」会谈差支ナクハ其ノ概要御通報アリタシ

74 昭和16年5月30日 松岡外務大臣より
在米国野村大使宛（電報）

大統領の炉辺談話発表の経緯探求方訓令

本省 5月30日後6時40分発

*第二五七号（大急、館長符号）

二十九日発同盟電ハ同日ノ「タイムス」及「ヘラルド・ト

際右談話ノ日本ニ対スル關係ノ説明中ニ其ノ趣旨ノコトアリタルヤニ議會方面ニテ取沙汰セラレ居ル趣ヲ「ハースト」系新聞等ニテ報道シタルモノカ（貴電ニ「タイムス」及「ヘラルド・トリビューン」トアルハ「ワシントン・タイムス・ヘラルド」ノ誤ナルヘシ）電報セラレタルモノト認メララルル処右ハ政府部内ノ秘密ノ議事ニ亘ルコトニモアリ素ヨリ揣摩憶測ノ域ヲ出テサルヘキモ二十九日「ハル」長官ノ新聞会見ニ於ケル応酬アリ又貴電合第一一四九号貴大臣声明カ本三十日逸早ク各方面ニ伝ヘラレタル結果其ノ打消ニ効果ヲ挙げケツツアルモノト認メラル
尚同盟ニ付本使カ「ハル」長官ニ説明セシ所ハ一昨日モ繰返シ御報告セシ通ナリ

リビューン」記事並ニ上院議員「ジョージ」等ノ所言ニ言及シ炉辺談話ニ於テ日本ニ言及セサリシ理由ヲ内示シ日本ノ三国同盟条約ニ対スル熱意ノ冷却「日本ノ武力ニ依ル南進氣構減退傾向ニ在ルコト」等ニ言及シ居ル所右ニ關スル帝國政府及本大臣ノ方針ハ貴大使ニ於テ具サニ御承知ノ通ナリ右通信ハ不發表ニ致シ居レト此種報道カ国内対立抗争ヲ惹起スルコトナキヲ保シ難キニ付テハ至急右發表ニ至リシ経緯ヲ御探求ノ上事実ニ反スルニ於テハ可然「デマント」スル様速カニ御手配相成度シ

75 昭和16年5月31日 在米国野村大使より
松岡外務大臣宛（電報）

米国大統領の炉辺談話につき回答

ワシントン 5月31日 発

本省 着

第二六〇号

貴電第二五七号（炉辺談話ニ於テ「ル」大統領カ日本ニ言及セサリシ理由ニ關スル米紙報道ノ件）ニ關シ

本件ハ炉辺談話ノ草稿ヲ大統領カ両院ノ領袖ニ内示シタル